クボタトラクタ

取扱説明書

GL 350・400・430 470・530・600

F-8576

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

注意マーク

火気厳禁

ディーゼル軽油

燃料（残量）

グロー

バッテリ充電異常

エンジンオイル圧力異常

エンジン停止

エンジン水温

ホーン

方向指示器

ヘッドライト（下向）

ヘッドライト（上向）

作業灯

作業灯（前）

作業灯（後）

シャトル（前後進切換）

アクセル高

アクセル低

倍速ターン

水平制御

自動耕深制御

後進時作業機上昇

３点リンク（上げ）

３点リンク（下げ）

ワイパ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

T0180-1921-7

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はGL600を基本とし，GL600と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 大きさ別によって …… “350仕様” “430仕様”
  (小型特殊自動車)
  “400仕様” “470仕様” “530仕様”
  “600仕様” (大型特殊自動車)
- モンローマチック付き …… “M仕様”
- モンローマチックオート付き …… “MA仕様”
- モンローマチックオート・ドラフト付き …… “MAD仕様”
- 独立PTO付き …… “N仕様”
- 安全キャブ付き（ヒーター付き） …… “Q_1仕様”
- 安全キャブ付き（エアコン/クーラ付き） …… “Q_3仕様”

トラクタを安全にしかも上手にご使用していただくために，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．⚠**安全作業をするために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と守るべき警告・注意事項を解説していますので熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に実施しましょう

2．**確認と手続き：**

(1)ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。

(2)道路走行に必要なナンバプレートの取得手続きを行なってください。

(3)各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初にトラクタの安全運転のための基本操作を体得しましょう

4．**トラクタの運転：**

(1)正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。

(2)安全にトラクタを前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。

(3)倍速ターン，AD，デフロックの正しい取扱い方を体得してください。

(4)トラックへの安全な積み・降ろし，ほ場への出入時の注意，および旋回方法等を理解し，必ず守ってください。

トラクタの性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

5．**上手な装置の使いかた：**

(1)油圧，三点リンク，ＰＴＯの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

(2)モンローマチック・MCオート，およびタイヤの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

(3)キャブ装備品の正しい取扱いと調整方法を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

6．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

目　次

⚠安全に作業するために ……⚠-1

サービスと保証について ……1

小型特殊自動車としての取扱い ……2

小型特殊自動車取得の届出と
ナンバプレートの取付け ……2
運転免許 ……3
損害賠償保険について ……3

運転に必要な各部の名称 ……4

イージーチェッカ ……5

運転前の点検 ……7

エンジンの始動と停止 ……8

始動のしかた ……8
停止のしかた ……11
暖機運転 ……12
バッテリあがりの処置 ……12

トラクタの運転 ……13

ならし運転(最初の約50時間) ……13
運転席回りの調節 ……14
シート ……14
安全フレームとシートベルト ……14
ステアリングハンドル ……15
バックミラー ……15
灯火類の操作 ……16
コンビネーションスイッチ ……16
駐車灯スイッチ ……16
バックランプ ……16
ブレーキランプ ……16
発進・走行 ……17
ブレーキペダル ……17
クラッチペダル ……17
クリープレバー ……18
倍速ターンレバー ……19
AD(オートディスクブレーキ)レバー ……20
アクセルレバーとアクセルペダル ……21
駐車ブレーキ ……21
主変速レバー ……22
シャトルレバー ……22
停車・駐車 ……23
運転中の作動確認 ……23
次の場合には，直ちにエンジンを
止めてください。 ……23
イージーチェッカ ……24
燃料計 ……24
水温計 ……25
トラクタメータ ……25
デフロックの使い方 ……26
デフロックペダル ……26
旋回のしかた ……26
坂道での運転 ……26
ほ場への出入り時の注意 ……27
道路走行中の注意 ……27
トラックへの積み・降ろし ……28
パワーステアリングの取扱い ……28
外部電源取出端子 ……29
作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ，
ローダ電源用カプラ ……29

油圧・三点リンク・ＰＴＯ ……30

油圧 ……30
油圧(ポジションコントロール)レバー ……30
レバーストッパの使い方 ……30
ポンパレバー【MA・MAD仕様】 ……31
電子アップランプについて
【ＭＡ・ＭＡＤ仕様】 ……31
作業機落下速度の調整 ……32
三点リンク ……33
ロアーリンク取付け穴の選択 ……34
トップリンク ……34
リフトロッドの調整 ……34
チェックチェーン ……35
作業機を取付けないときの注意 ……35
けん引ヒッチ（別売） ……35
けん引フック ……36
ＰＴＯ ……36
ＰＴＯ変速レバー ……36
ＰＴＯクラッチコントロールレバー
【Ｎ仕様】 ……37
ＰＴＯ軸カバー ……37

モンローマチック・
モンローマチックオート・
モンローマチックオートドラフトの
取扱い …… **38**
スイッチの取扱い …… 38
モンロー切換スイッチ …… 39
モンローマチック角度調節ダイヤル …… 40
オート切換えスイッチ【MA仕様】 …… 40
オート切換えスイッチ【MAD仕様】 …… 40
耕深調節ダイヤル【MA・MAD仕様】 …… 41
三点リンク高さ規制ダイヤル
【MA・MAD仕様】 …… 41
バックアップスイッチ
【MA・MAD仕様】 …… 42
モンローマチック手動スイッチ …… 43
作業機の取扱い …… 43
故障・異常の表示 …… 44
タイヤ・ウエイト …… **45**
タイヤ …… 45
タイヤの空気圧 …… 45
輪距の調整 …… 45
前輪 …… 45
後輪 …… 45
ウエイト …… 47
ウエイト(オプション) …… 47
キャブ装備品の取扱い …… **48**
ドア・窓の開閉とロック …… 48
ドア …… 48
リヤウインド …… 48
サイドウインド …… 49
ルームランプ …… 49
ワイパ …… 50
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ …… 50
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ …… 50
作業灯 …… 51
作業灯スイッチ …… 51
作業灯（前） …… 51
作業灯（後） …… 51
ヒータ【Q1仕様】 …… 52
ヒータ用コック …… 52
ヒータスイッチ …… 52
風向調整 …… 52
ヒータ使用上の注意 …… 52
クーラ・ヒータ
【GL350・430Q3仕様】 …… 53
スイッチ …… 53
風向調整 …… 53
ヒータの取扱い
ヒータスイッチ …… 54
除湿暖房 …… 54
エアコン
【GL400・470・530・600Q3仕様】 … 54
空気の流れ …… 54
コントロールパネルの説明 …… 55
取扱操作方法 …… 56
バックミラーの調節・格納 …… 56
灰皿 …… 56
ラジオ …… 57
アンテナ …… 57
AM／FMラジオ付きカセットプレーヤ …… 57
インプルメントの装備 …… 57
モンローマチック手動スイッチ
【M・MA・MAD仕様】 …… 57
インプルメント用操作ボックスの組付け …… 58
トラクタの簡単な手入れと処置 **59**
廃油処理について …… 59
定期点検一覧表 …… 59
給油（水）一覧表 …… 60
推奨オイル・グリース一覧表 …… 61
エンジンオイル・ミッションオイル・
ギヤーオイル …… 61
グリース …… 61
フロントグリル
及びサイドカバーの外し方 …… 62
フロントグリル及びサイドカバー …… 62
日常点検 …… 62
エンジンオイルの量及び汚れ …… 63
ミッションオイルの量及び汚れ …… 63
冷却水の量 …… 64
バキュエータバルブの清掃 …… 64
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 …… 65
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 …… 65
防虫網の清掃 …… 66
防虫網の清掃（コンデンサ用） …… 66
ブレーキペダルの遊び・点検 …… 66
駐車ブレーキの作動点検 …… 66
クラッチペダルの遊び・点検 …… 67
メータ・ランプ類の作動 …… 67

50時間ごとの点検・整備 …… 69
グリースの注入 …… 69
エンジン始動システムの点検 …… 69
タイヤ取付けボルトの点検 …… 70
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換 …… 70
クラッチハウジングの水抜き …… 70
100時間ごとの点検・整備 …… 71
エンジンオイルの交換 …… 71
バッテリ電解液の点検 …… 71
エアクリーナエレメントの清掃 …… 73
ファンベルトの点検・調整 …… 73
ブレーキペダルの点検・調整 …… 74
クラッチペダルの点検・調整 …… 74
燃料パイプの点検 …… 75
200時間ごとの点検・整備 …… 75
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 75
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 …… 76
ラジエータホースの点検 …… 76
パワーステアリングホースの点検 …… 77
トーイン調整・タイロッドの点検 …… 77
室内エアーフィルタの清掃 …… 78
外気フィルタ【GL400・470・530・600Q3仕様】 …… 78
エアコン（クーラ）コンデンサの詰まり …… 79
エアコン／クーラベルトの張り …… 79
300時間ごとの点検・整備 …… 79
前車輪ケースオイルの交換 …… 79
400時間ごとの点検・整備 …… 80
ミッションオイルの交換 …… 80
燃料フィルタエレメントの清掃交換 …… 81
600時間ごとの点検・整備 …… 81
前部デフケース前後遊びの調整 …… 81
800時間ごとの点検・整備 …… 82
エンジンバルブクリアランスの点検 …… 82
1年ごとの点検・整備 …… 82
エアークリーナエレメントの交換 …… 82
注油 …… 82
ヒータ配管，ホースの点検 …… 82
エアコン／クーラ配管，ホースの点検 …… 82
2年ごとの点検・整備 …… 82
冷却水の交換 …… 82
ラジエータの洗浄 …… 83
ラジエータホースの交換 …… 83
パワーステアリングホースの交換 …… 83
燃料パイプの交換 …… 83
クラッチワイヤの交換 …… 83
必要に応じた点検・整備 …… 84
燃料の空気抜きのしかた …… 84
ヒューズの交換 …… 85
スローブローヒューズの交換 …… 85
ランプ類の交換 …… 85
オイルの注油 …… 86
ウォッシャ液の補充 …… 86
格　納 …… 87
長期格納時の手入れ …… 87
不調と処置 …… 88
エンジンの不調と処置 …… 88
AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い …… 89
【GL350・430仕様】
共通部の操作のしかた …… 89
電源の入／切のしかた，音量調節 …… 89
左右のバランス調節ツマミ …… 89
フェダー調節 …… 89
低音・高音の調節 …… 89
受信周波数表示の切換え …… 89
時計の調整のしかた …… 89
ラジオを聞くには …… 90
バンド切換 …… 90
手動選局のしかた …… 90
自動選局のしかた …… 90
プリセット選局のしかた …… 90
プリセット（放送局メモリ） …… 90
ディスプレイ表示 …… 90
テープを聞くには …… 91
カセットテープの挿入 …… 91
演奏面の切換え …… 91
巻戻し，早送り …… 91
カセットテープの取出し …… 91
【GL400・470・530・600仕様】
共通部の操作のしかた …… 92
電源の入／切のしかた，音量・左右のバランス調整 …… 92
フェダー調整 …… 92
低音・高音の調整 …… 92
時計表示のしかた …… 92
時計の調整のしかた …… 92

ラジオを聞くには …… 93
バンド切換え／オートプリセット …… 93
手動選局のしかた …… 93
自動(シーク)選局のしかた …… 93
プリセットメモリ(放送局のメモリ)について … 93
オートプリセットのしかた …… 94
ディスプレイ表示 …… 94
FM放送時のモノラル／ステレオ切換え …… 94
ラジオの放送は同一のプログラムが
各地の放送局から送られていることが
ありますので，感度のよい放送局に
合わせてください。 …… 94
テープを聞くには …… 95
カセットテープの挿入 …… 95
演奏面の切換え …… 95
巻戻し，早送り …… 95
カセットテープの取出し …… 95
取扱い上の注意 …… 96
付　表 …… **97**
主要諸元 …… 97
トラクタの主要諸元 …… 97
走行速度表 …… 98
ＰＴＯ回転速度表 …… 98
標準付属品 …… 99
主な消耗部品一覧表 …… 100
アタッチメント一覧表 …… 101
インプルメント一覧表 …… 103
作業ごとの一般的な調整要領 … **104**
オートドラフトコントロールによる作業要領
【MAD仕様】 …… 106
型式検査（国検）成績表 …… 107

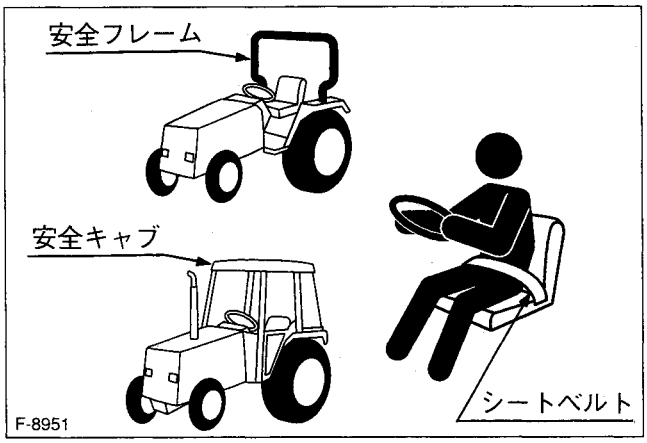
⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

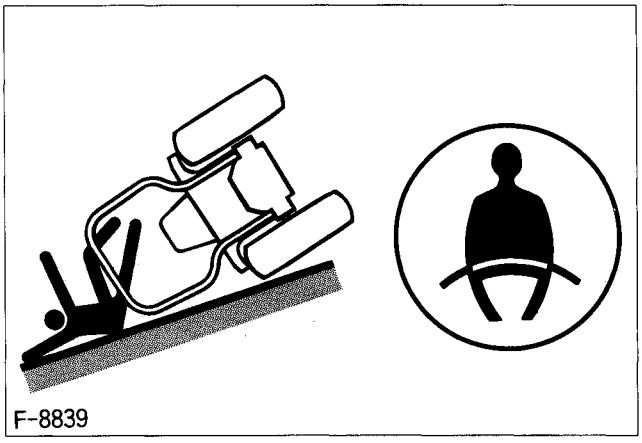
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

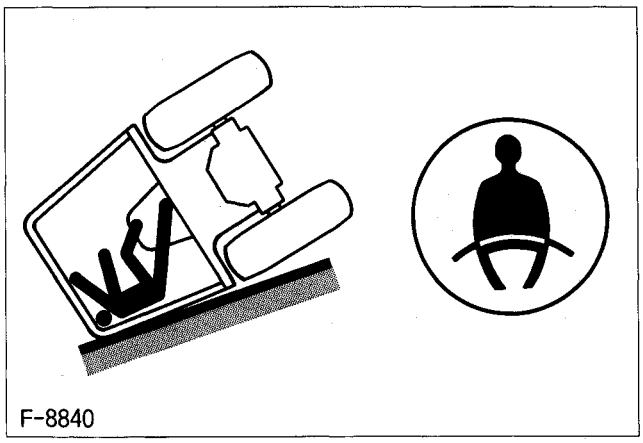
1．安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

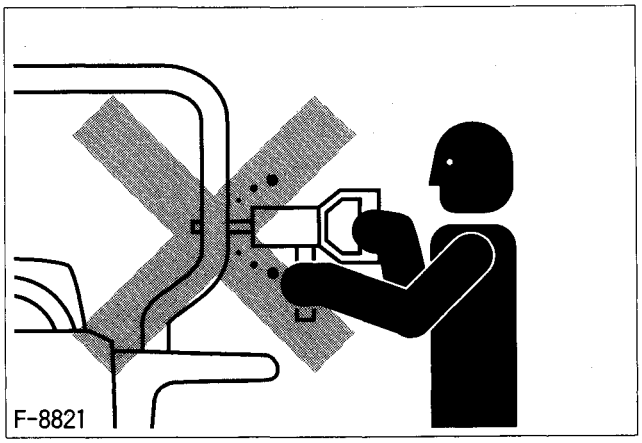


(1)運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。



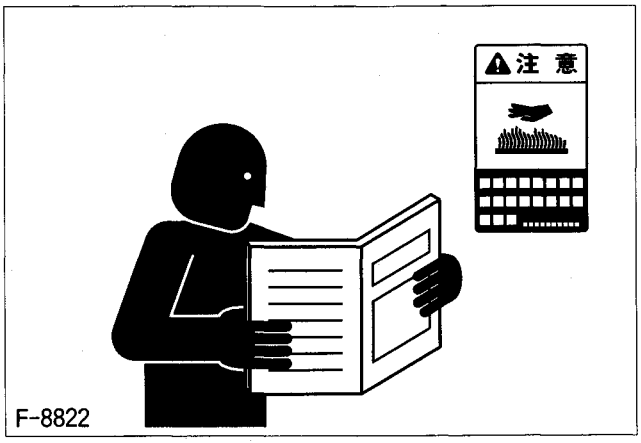


(2)安全フレームを取外して運転しないでください。
(3)安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。



2．運転前に

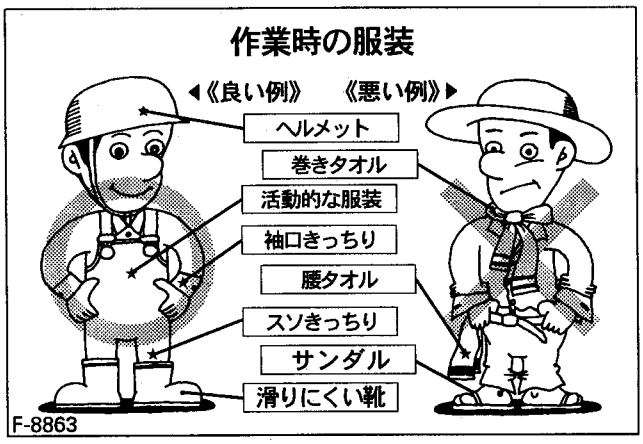
(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

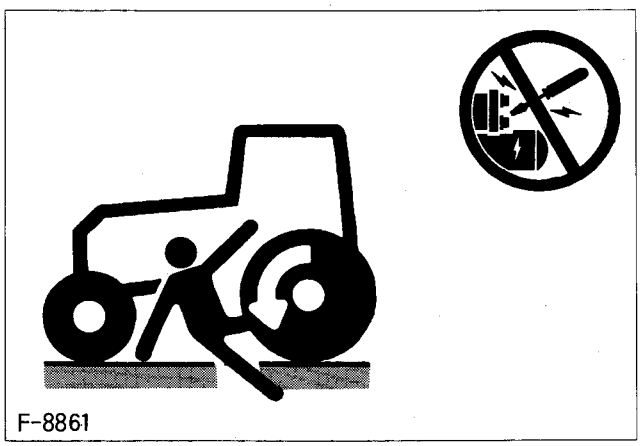
(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

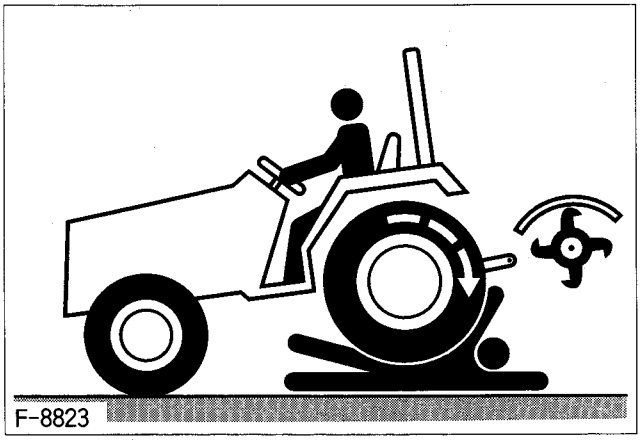
3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
（独立ＰＴＯ仕様はＰＴＯクラッチコントロールレバーも**“OFF”**(切)にしてください）

(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出すおそれがあります。

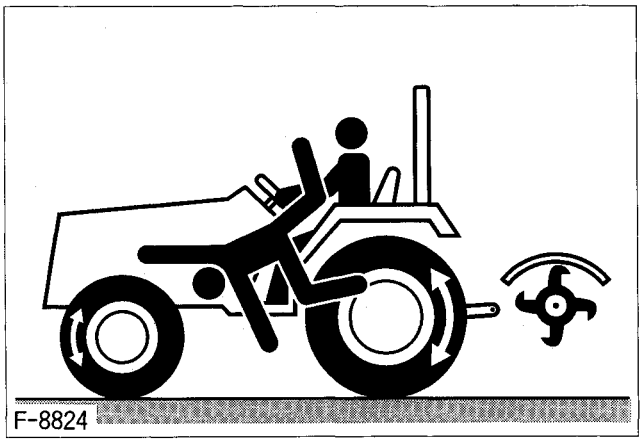


(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。又，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

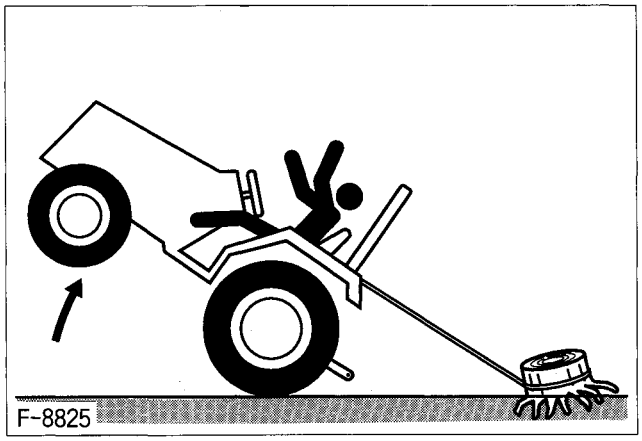


4．運転時に

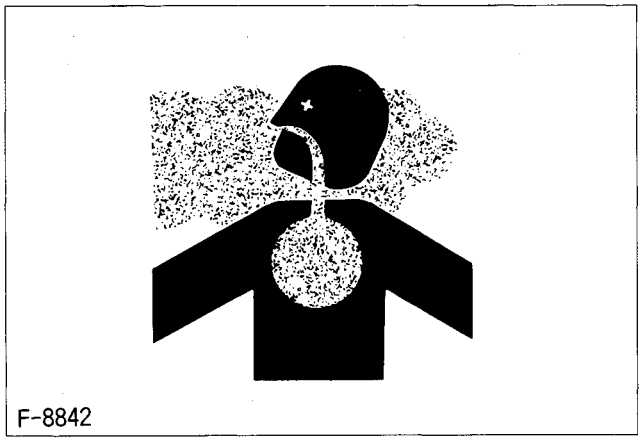
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。



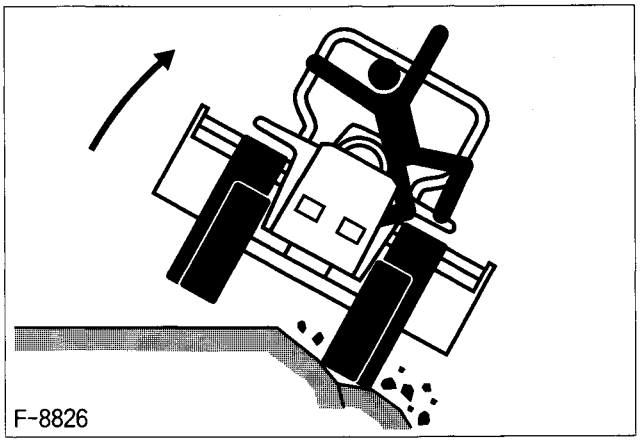
(2)けん引作業には，けん引ヒッチ(別売)を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。



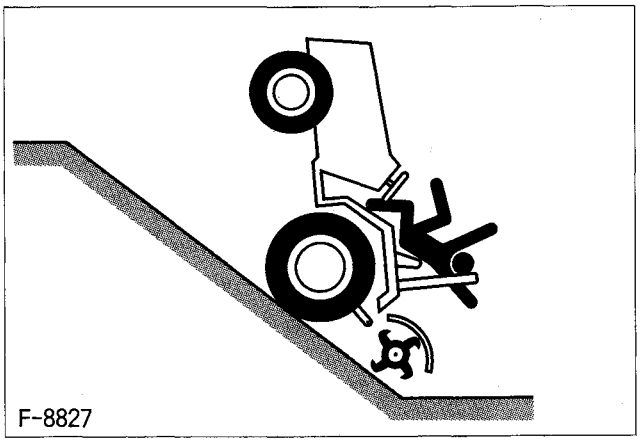
(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



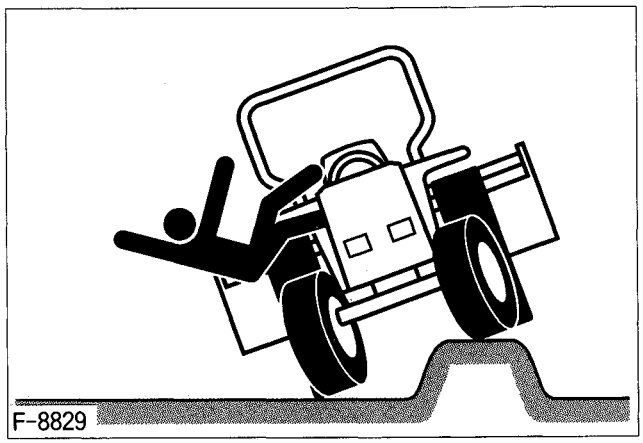
(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

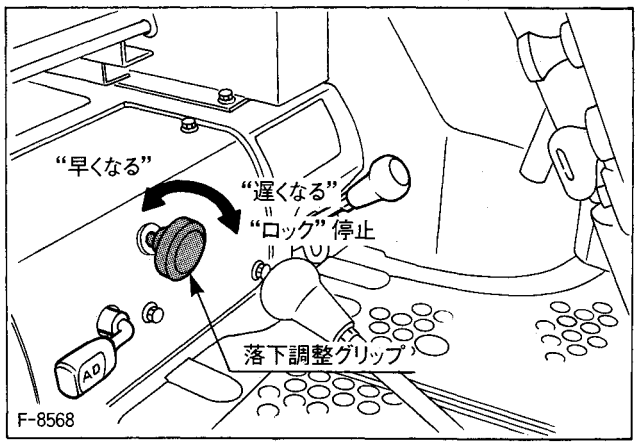


(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。
(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

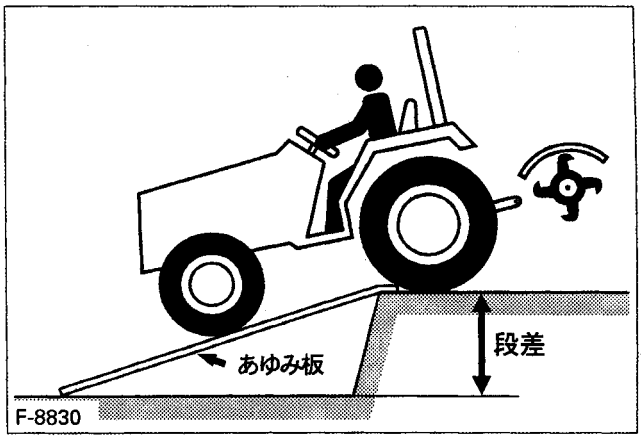


⚠ 安全に作業するために

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。



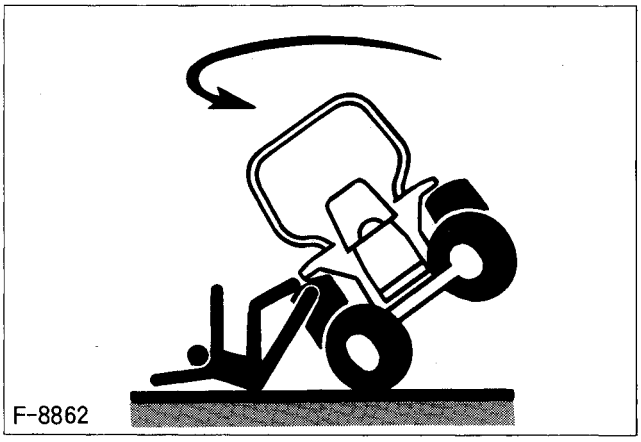
(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。



あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

(10)急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

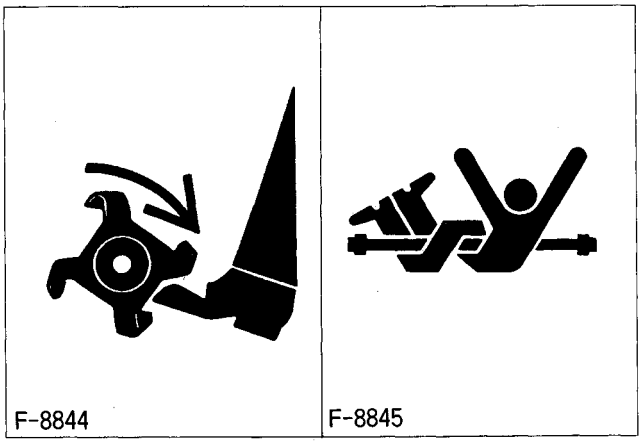
(11)倍速ターンはほ場以外では**"切り"**にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。



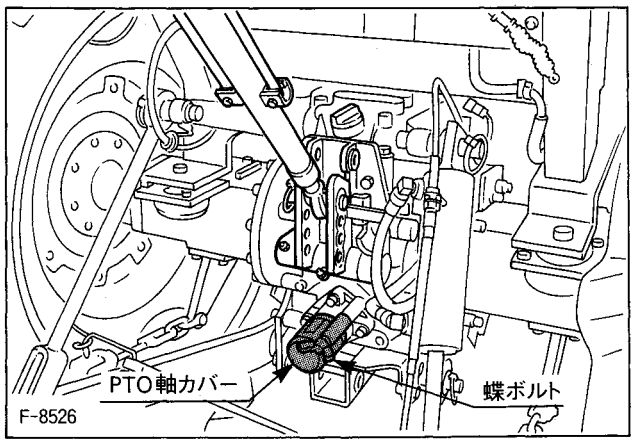
5．作業機使用時に

(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

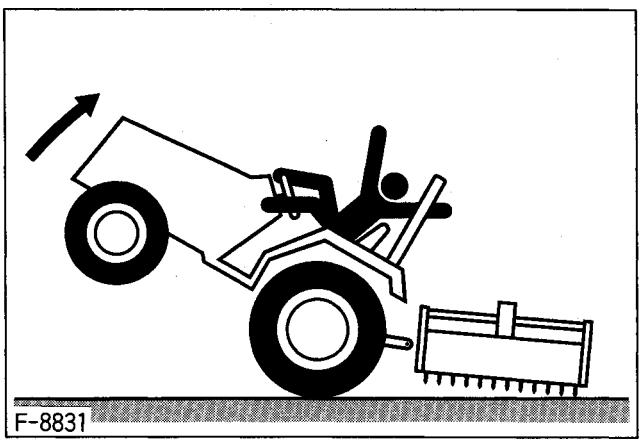


(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップ（ＰＴＯ軸カバー）を装着しておいてください。



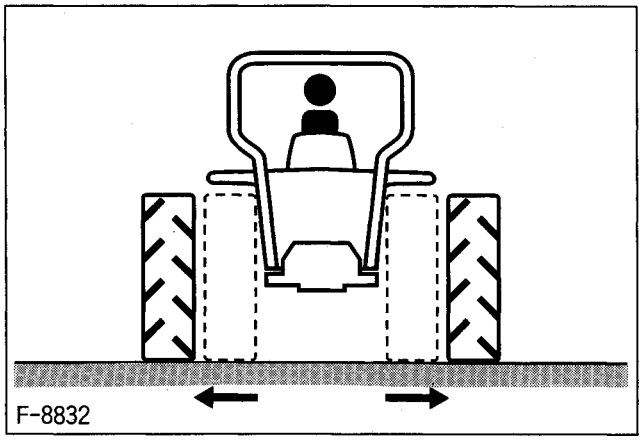
(4)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故のおそれがあります。

(5)トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。



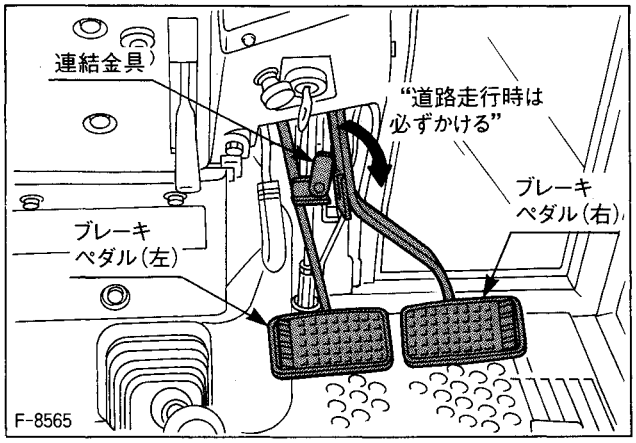
(6)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

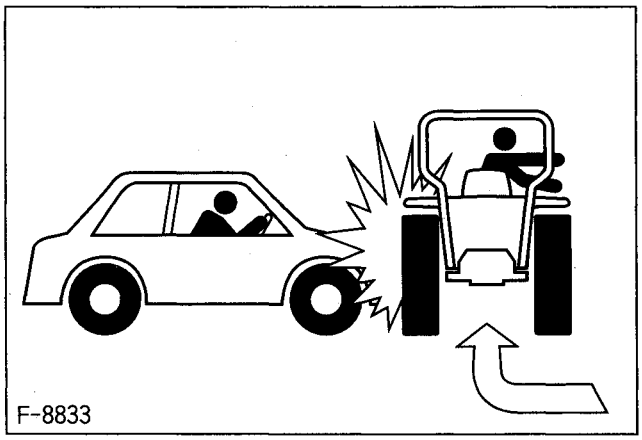
(7)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。



6．道路走行時に

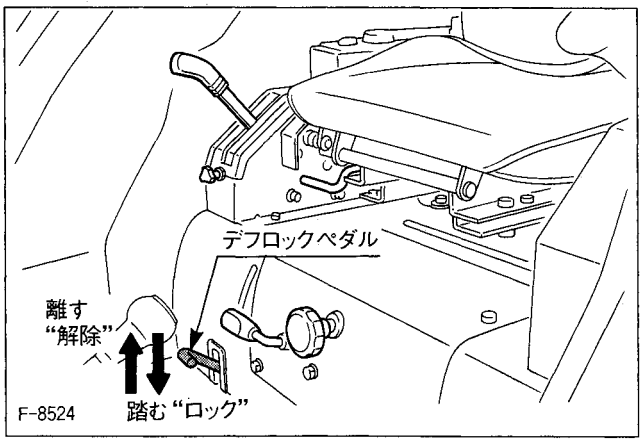
(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故のおそれがあります。

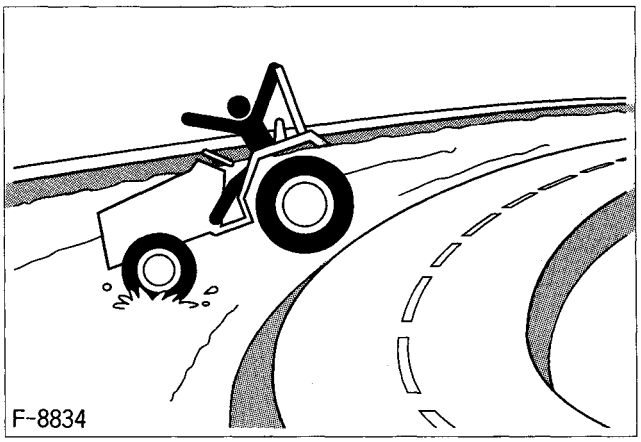




⚠ 安全に作業するために

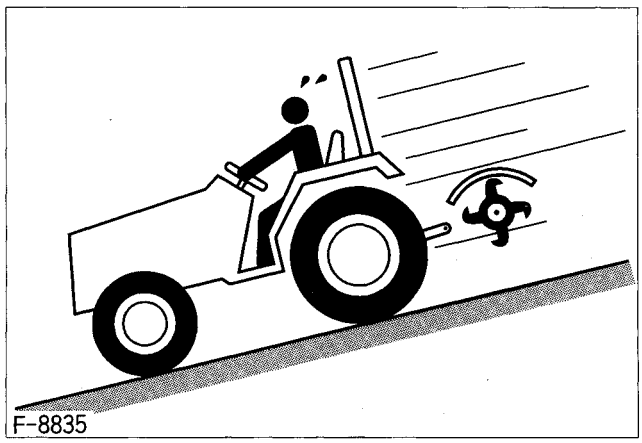
(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。





(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなるおそれがあります。

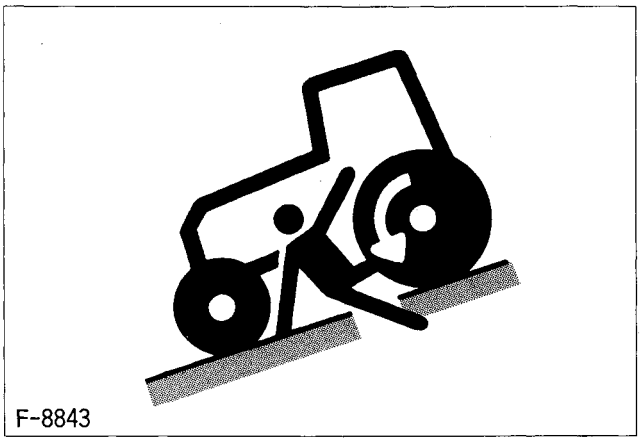


(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両法の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
ナンバプレートを付け，運転免許証は携行してください。

7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。



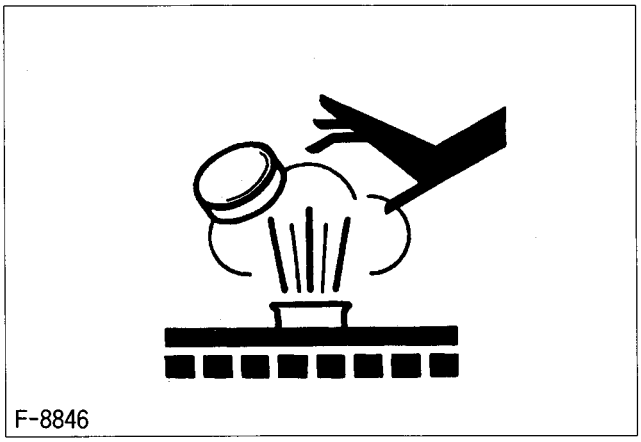
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

8．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。


F-8846

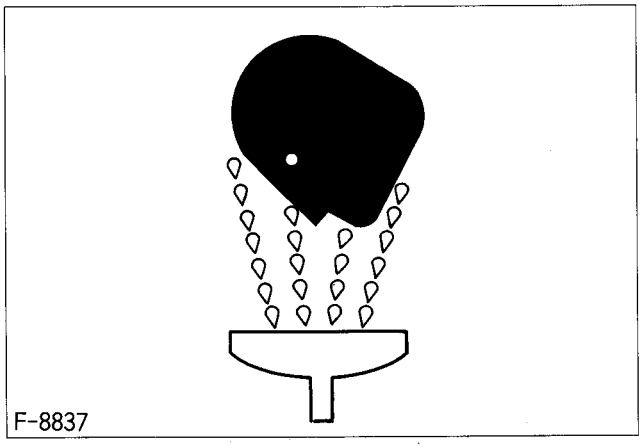
(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

F-8836

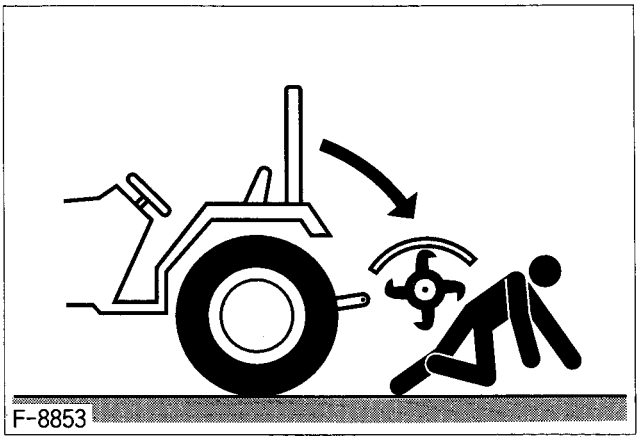
(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの運転の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

(5)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

(6)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837

(7)３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

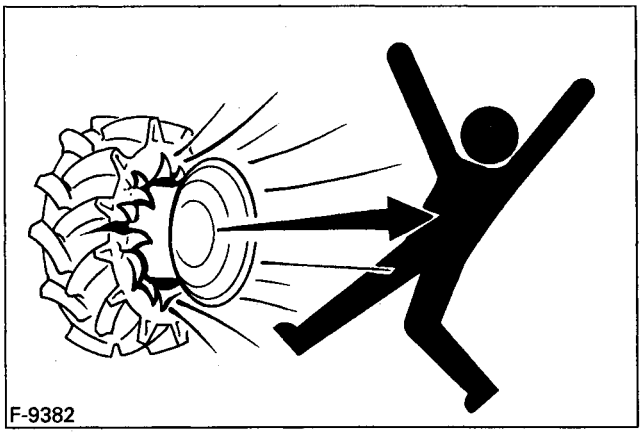

F-8853

⚠ 安全に作業するために

(8)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

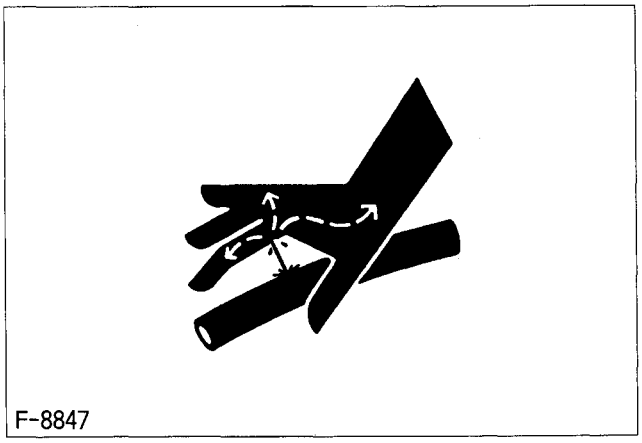
(9)タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

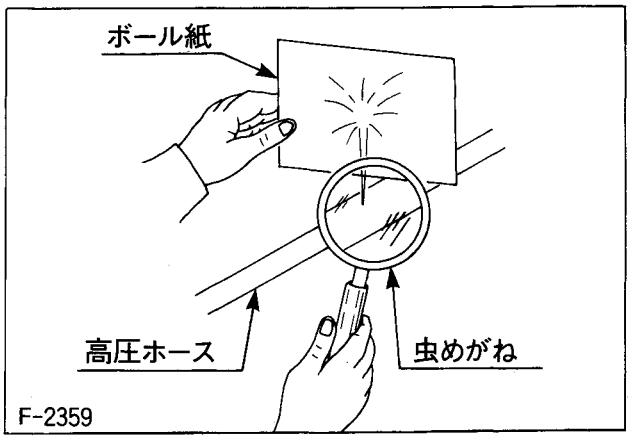
(10)タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


F-9382

(11)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(12)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。


F-8847



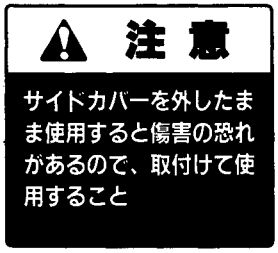
F-2359

9. ⚠表示ラベルと貼付け位置

①品番　T0180-4957-1

②品番　T0180-4954-1

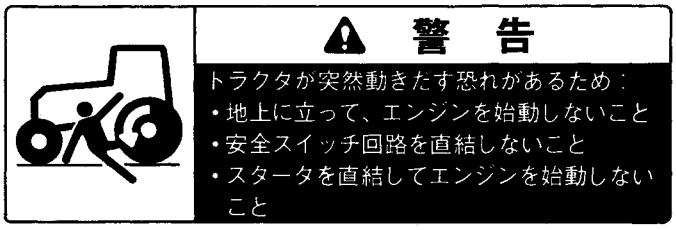
③品番　T0180-4955-1

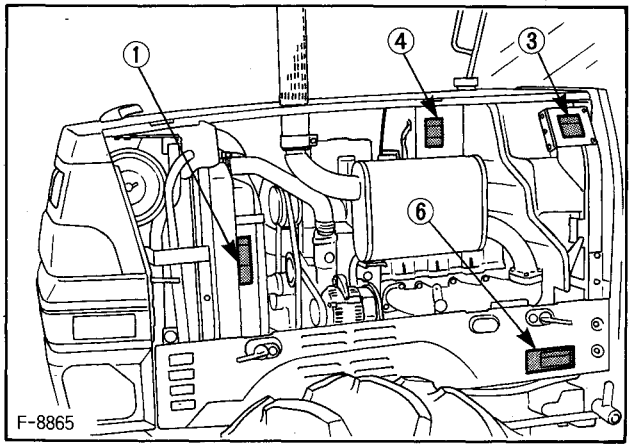


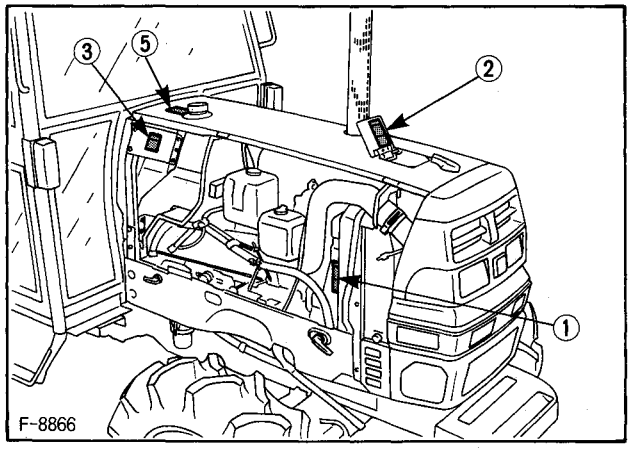
④品番　T0180-4958-1

⑤品番　T0180-4956-2

⑥品番　T0180-4965-2







⚠ 安全に作業するために

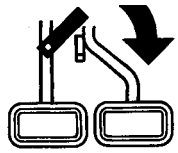
①品番　T0270-4964-1

⚠注意

ポンパは、ほ場内作業にのみ使用すること。作業時以外は、作業機上げ下げを油圧レバーで行うこと。

②品番　T0180-4903-2

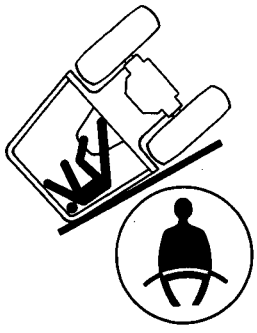
⚠警告



転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること

③品番　T0270-4902-1

⚠警告



転倒、転落による死傷事故 軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること

④品番　T0180-7694-1

ＡＤ切換えレバーの取扱い

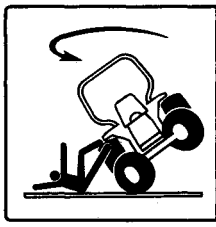
1 切換え操作するときは、前輪を直進状態にして下さい
2　入　にするときは、倍速ターンも　入　にして下さい
3 下記変速レバー位置では、　入　にできません

	主変速	副変速	クリープ
マニュアルシフト仕様	——	H	H
Ｕシフト仕様	5～8	- -	H

⚠注意

あぜ上かり時、道路走行時は必ず　切　にすること

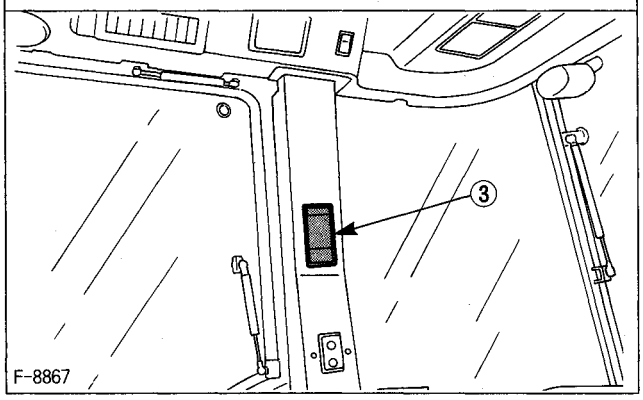
⑤品番　T0180-4905-1



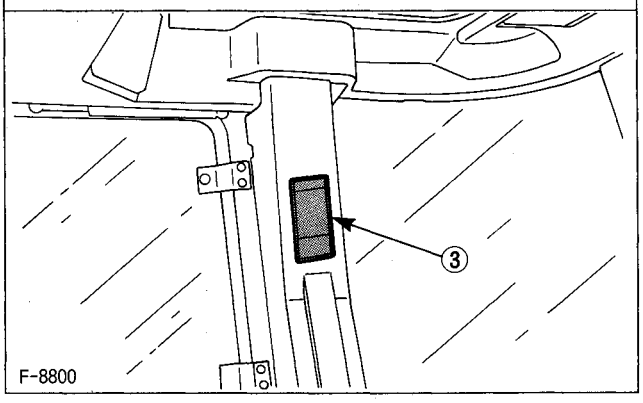
⚠警告

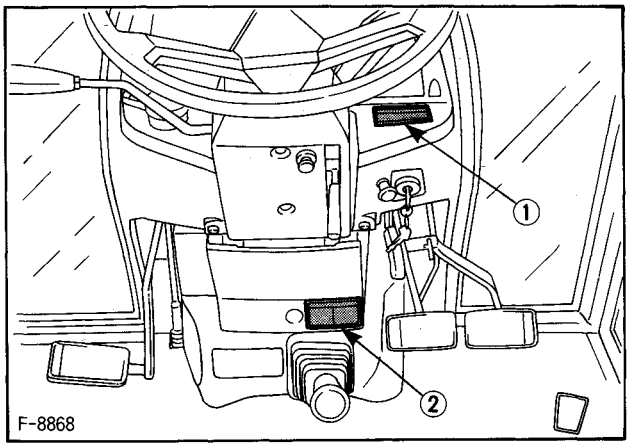
転倒による死傷事故を防ぐために
・倍速ターンは圃場以外で使用しないこと
・高速で使用しないこと

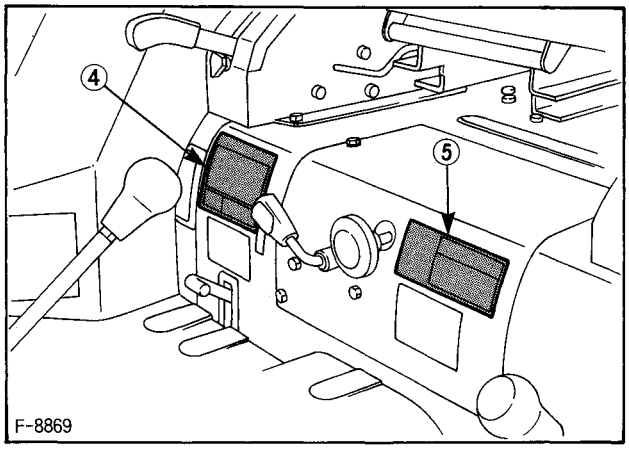
GL400・470・530・600キャブ仕様



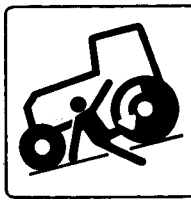
GL350・430キャブ仕様







①品番　T0180-4906-1



⚠ 警 告

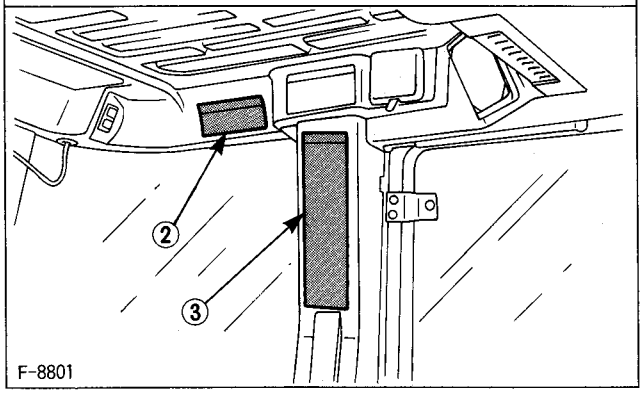
駐車後にトラクタが動く恐れがあるため
必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速キヤを入れていてもエンシンを
とめるとエンシンフレーキはききません

②品番　T0273-6497-1

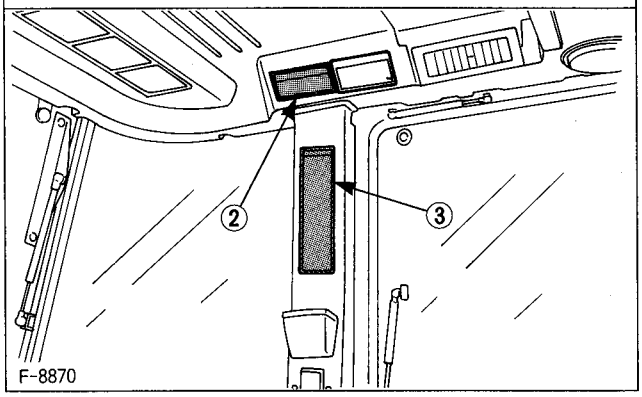
⚠ 注 意

低温始動時Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
遅れて動き出しキケンです
傾斜面でのUシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れ
があるので、低速で走行し、途中変速しないこと

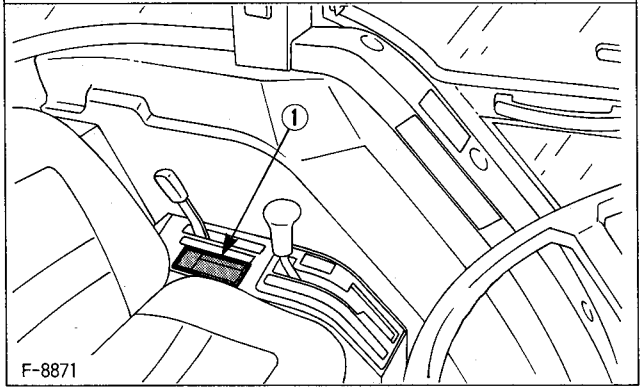
GL350・430キャブ仕様



GL400・470・530・600キャブ仕様



キャブ仕様



③品番　T0180-4907-1

⚠ 注 意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

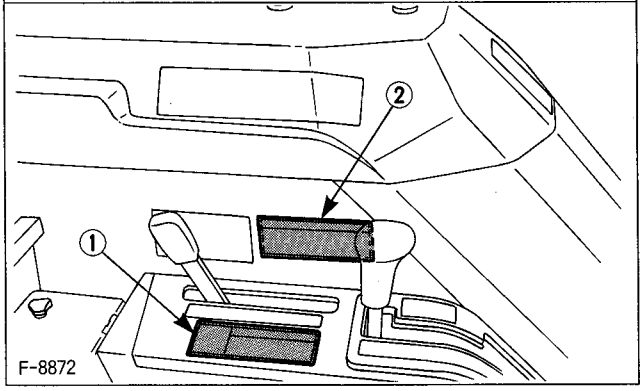
始動時
・シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

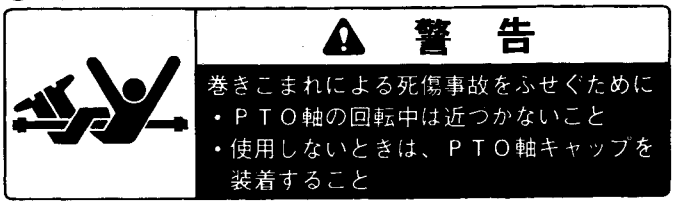
安全フレーム仕様



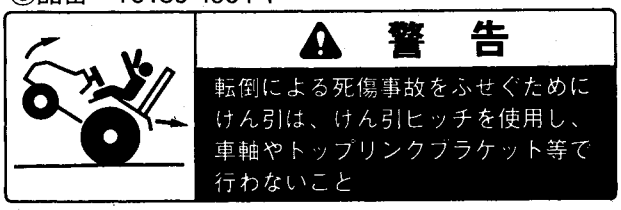
⚠ 安全に作業するために

①品番　T0180-4956-2

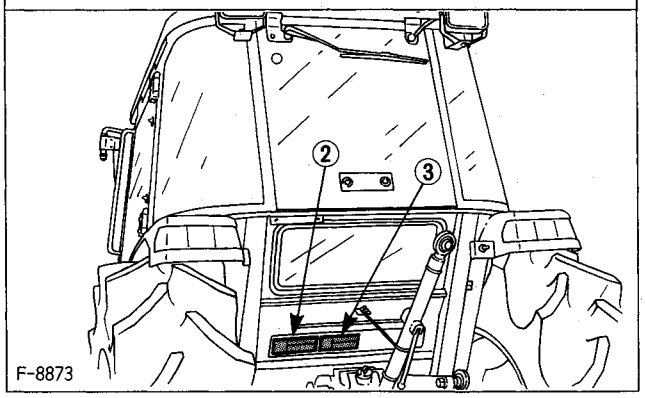
②品番　T0180-4959-1



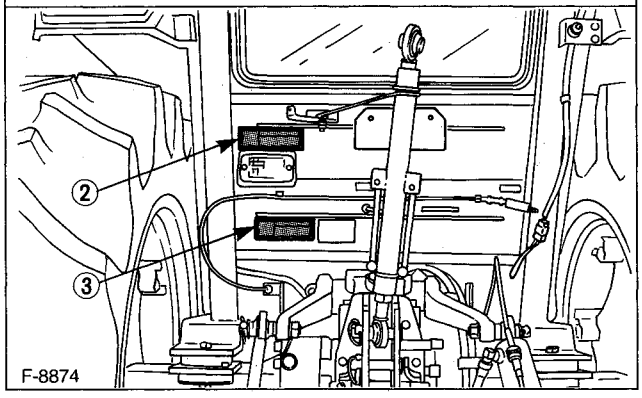
③品番　T0180-4904-1



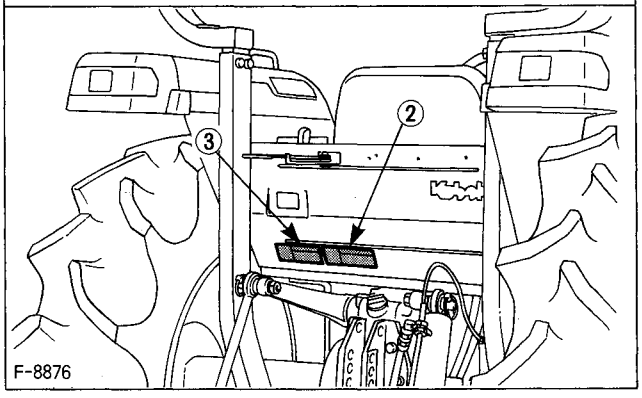
GL350・430キャブ仕様



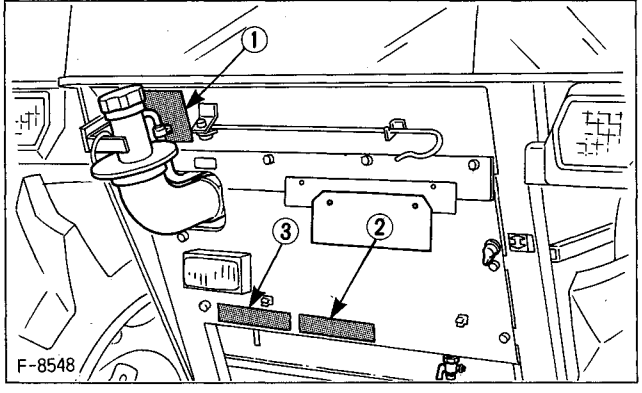
GL400・470・530キャブ仕様



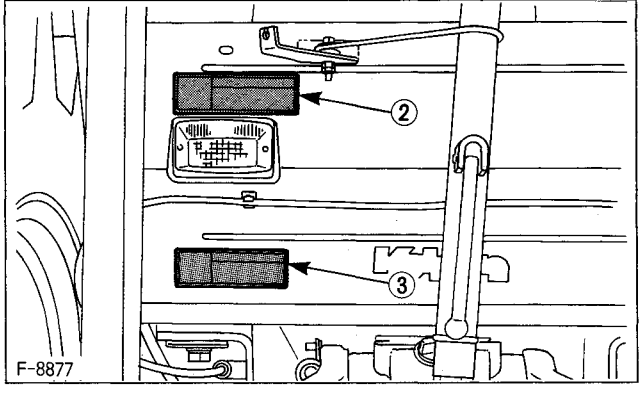
GL350・430安全フレーム仕様



GL600キャブ仕様



GL400・470・530安全フレーム仕様



①品番　T0180-4931-1

⚠ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
・シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

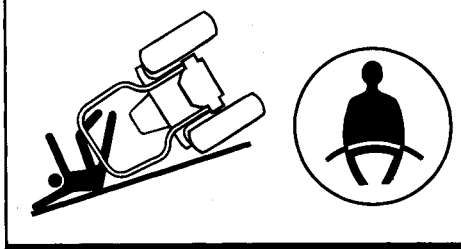
運転時
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・３点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

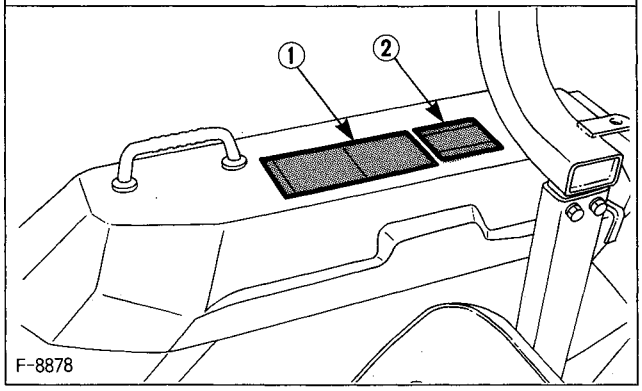
②品番　T0170-4932-2

⚠ 警告



転倒、転落による死傷事故 軽減のために:
・安全フレームを取外して運転しないこと
・運転時はシートベルトを着用すること

安全フレーム仕様



10. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際銘板に記載している

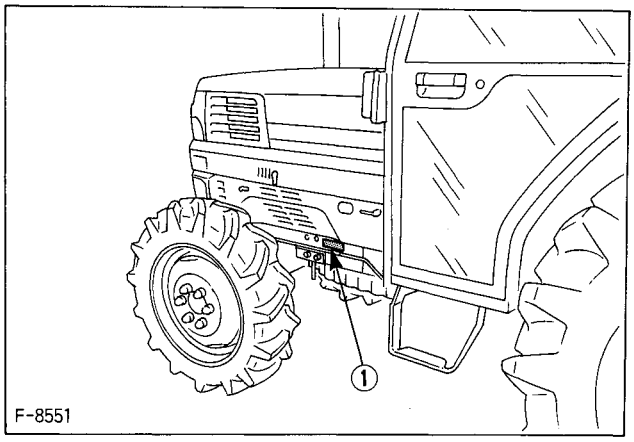
1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

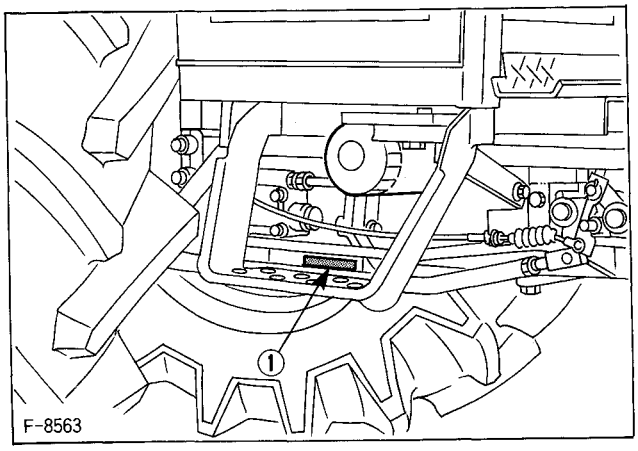
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

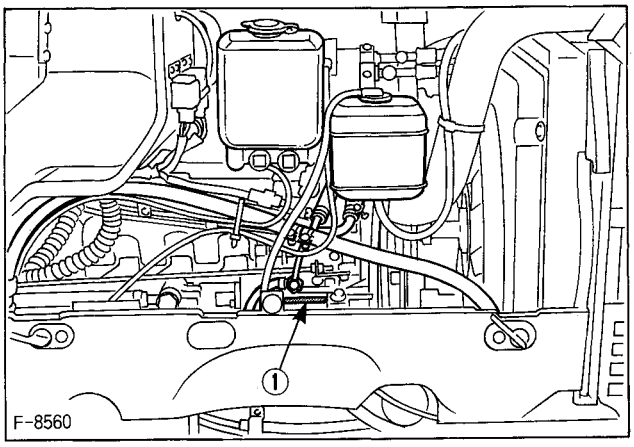
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



①銘板



①車台番号



①エンジン番号

農　機　型　式　名	型式検査(国検) 合格番号
クボタGSF43(安全フレーム)	95006
クボタGSF53(安全フレーム)	95007
クボタGSQ43(安全キャブ)	95003
クボタGSQ530(安全キャブ)	95004
クボタGSQ600(安全キャブ)	95005

農機型式名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号	型式検査(国検) 合格番号
クボタGL350	20015	クボタGLGD	農1847号，改造型	95050
クボタGL430	20017	クボタGLGD	農1847号，改造型	95052

農機型式名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	新型自動車登録番号	型式検査(国検) 合格番号
クボタGL400	20016	クボタGLKD	新型自動車第91760号	95051
クボタGL470	20018	クボタGLMD	新型自動車第91759号	95053
クボタGL530	20019	クボタGLND	新型自動車第91758号	95054
クボタGL600	20020	クボタGLHC	新型自動車第92024号	95055

小型特殊自動車としての取扱い

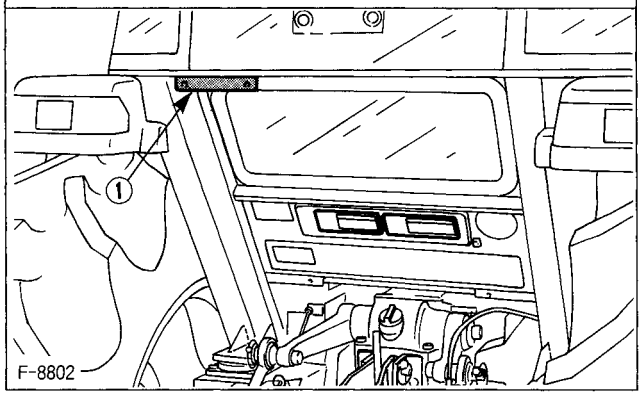
このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

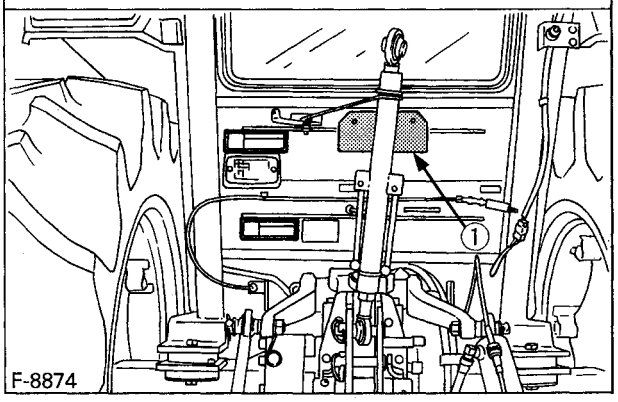
❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。
❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。

GL350・430キャブ仕様

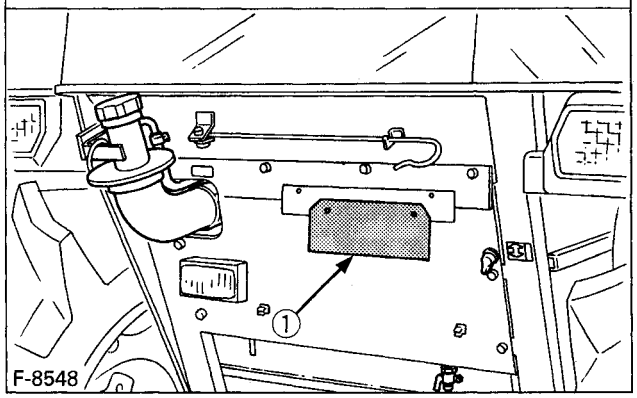


①ナンバプレート取付け位置

GL350•430 安全フレーム仕様
及びGL400・470・530 仕様



GL600仕様



①ナンバプレート取付け位置

■運転免許

公道を走行する場合は次の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

仕　様	免　許　証
GL350 GL430	小型特殊自動車を 運転できる免許証
GL400 GL470 GL530 GL600	大型特殊自動車を 運転できる免許証

重　要

＊GL400･470･530･600仕様は道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，道路交通法では，大型特殊自動車に該当します。
従って，公道を走行する場合は，
大型特殊自動車の運転免許証が必要です。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊エンジンで封印されている所はさわらないでください。（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

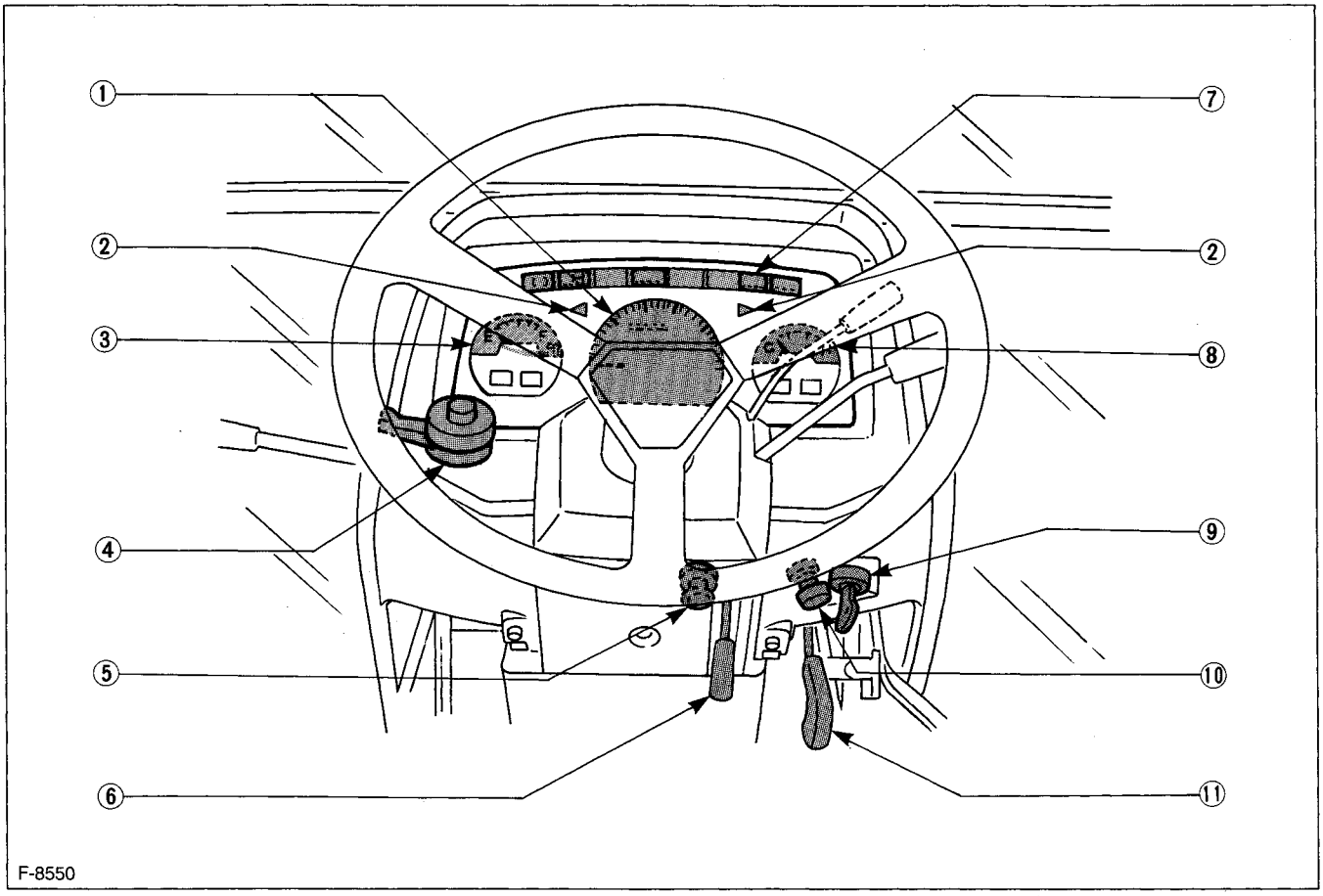
補　足

＊インプルメントを装着した状態では**“道路運送車両法の保安基準”**を満足しませんので，道路走行することはできません。

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転に必要な各部の名称

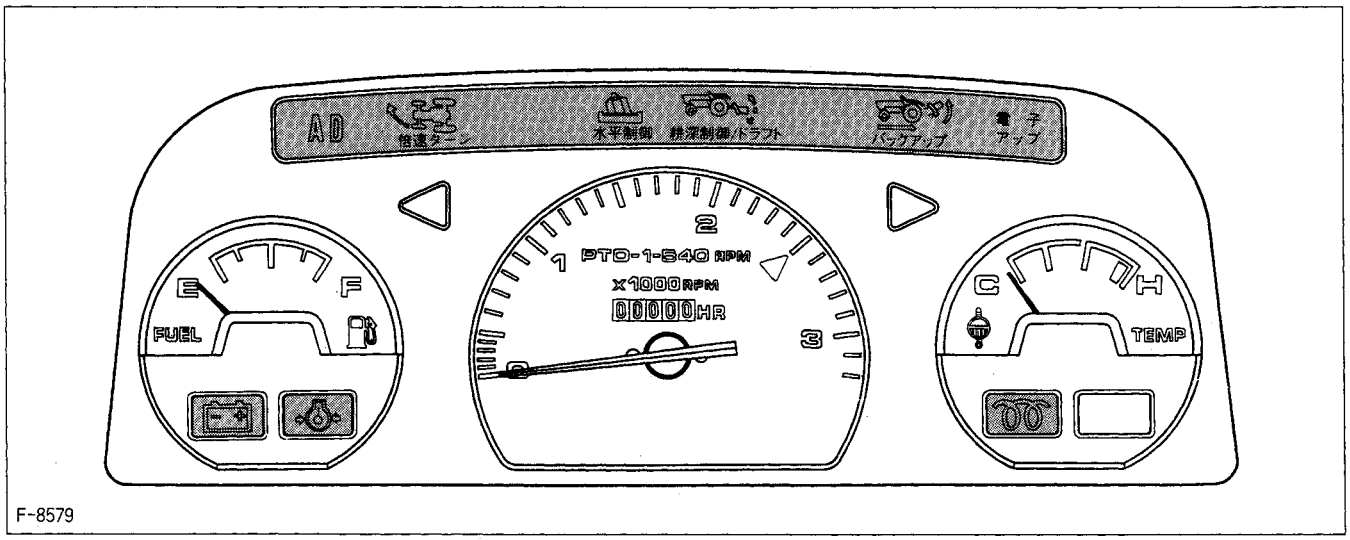
各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。



参照ページ

①トラクタメータ ……25
②ウインカパイロットランプ ……16
③燃料計 ……24
④コンビネーションスイッチ ……16
　ライティングスイッチ
　ウインカスイッチ
　ホーンボタン
⑤駐車灯スイッチ
　【GL400・470・530・600仕様】 ……16
⑥チルトレバー ……15
⑦イージーチェッカ ……5
⑧水温計 ……25
⑨キースイッチ ……10,11
⑩エンジンストップノブ ……9,11
⑪駐車ブレーキレバー ……21,23

■イージーチェッカ



F-8579

参照ページ

バッテリチャージランプ ……24
（バッテリ充電警告灯）

エンジンオイルランプ ……24
（エンジン油圧警告灯）

グローランプ ……10

ＡＤランプ ……20

倍速ターンランプ ……19

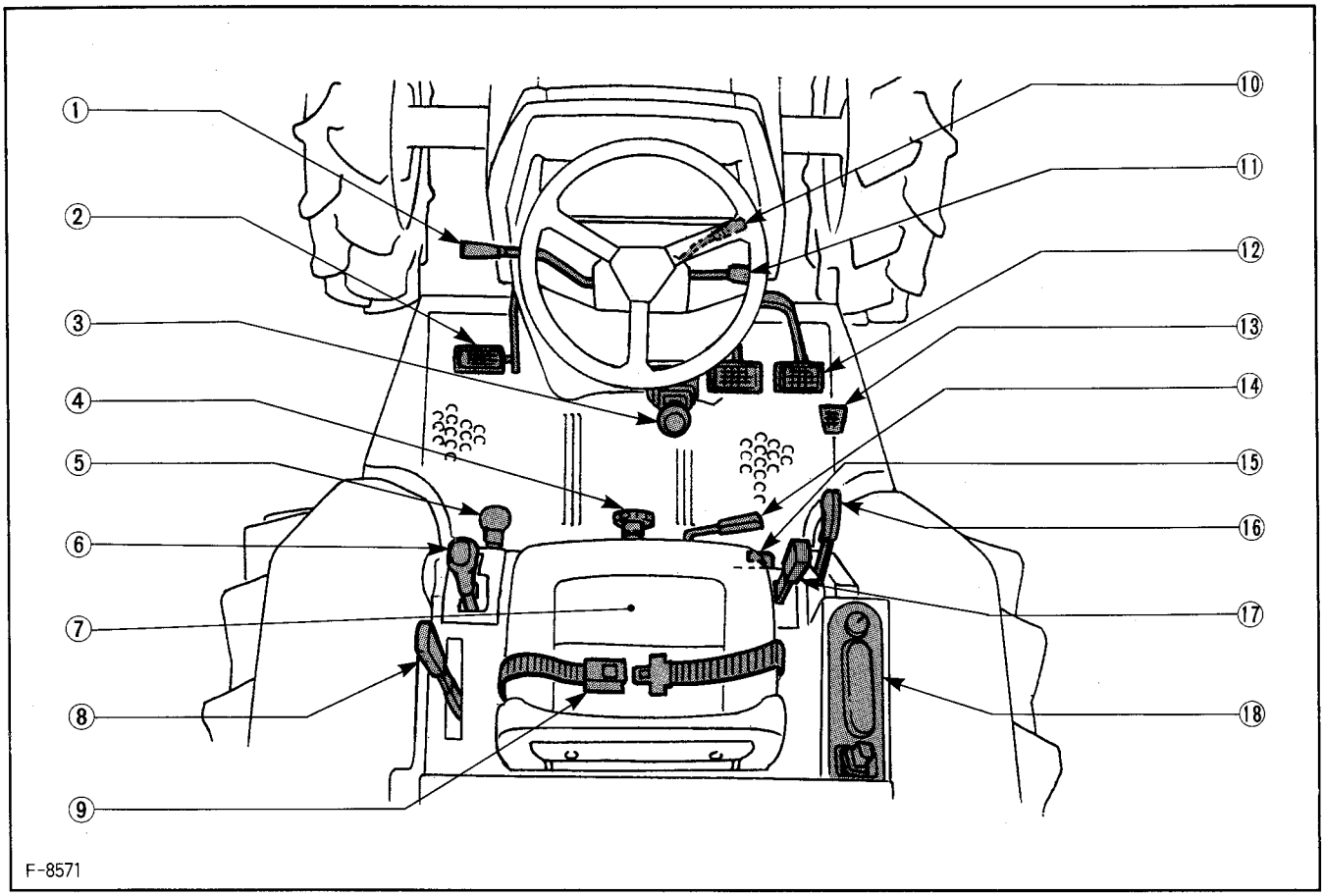
参照ページ

水平制御ランプ ……39
【M・MA・MAD仕様】

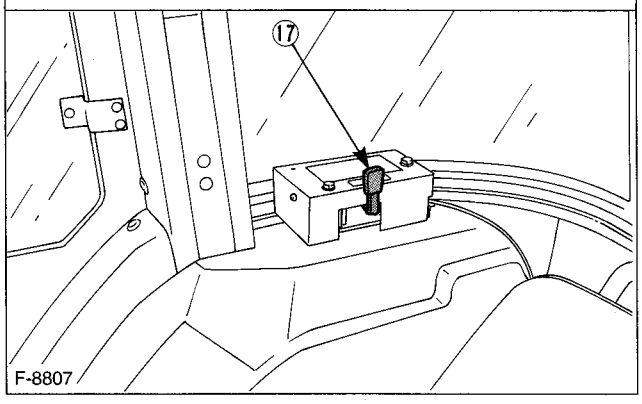
耕深制御／ドラフトランプ ……40
【MA・MAD仕様】

バックアップランプ ……42
【MA・MAD仕様】

電子アップランプ ……31
【MA・MAD仕様】



GL350・430仕様



参照ページ

①シャトルレバー ……22
②クラッチペダル ……17
③PTO変速レバー ……36
④落下調整グリップ ……32
⑤倍速ターンレバー ……19
⑥主変速レバー ……22
⑦シート ……14
⑧クリープレバー ……18
⑨シートベルト ……14
⑩ポンパレバー ……31
⑪アクセルレバー ……21
⑫ブレーキペダル ……17
⑬アクセルペダル ……21
⑭AD(オートディスクブレーキ)レバー ……20
⑮デフロックペダル ……26
⑯油圧(ポジションコントロール)レバー……30
⑰PTOクラッチコントロールレバー【N仕様】 …37
⑱M・MA・MADスイッチ……38

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

注　意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず指定**“クボタ純オイル”**を使用してください。

エンジンの始動と停止

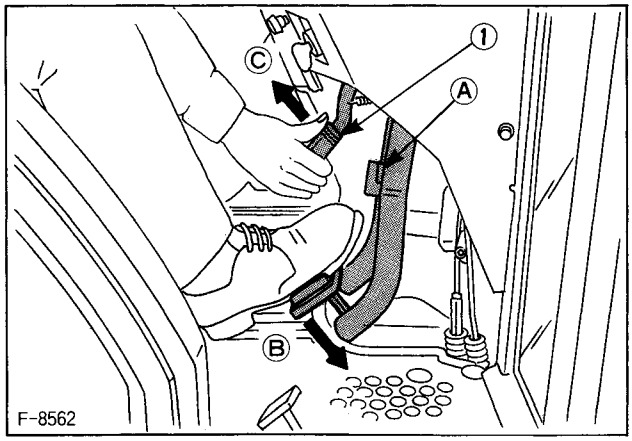
警 告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが“中立”(N)かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
（独立ＰＴＯ仕様は，ＰＴＯクラッチコントロールレバーも“OFF”(切)にしてください。）
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

始動のしかた

1.駐車ブレーキをかけます。

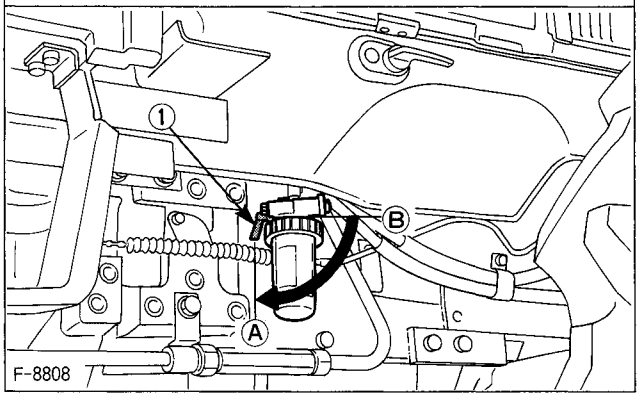
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを“上げ”たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。



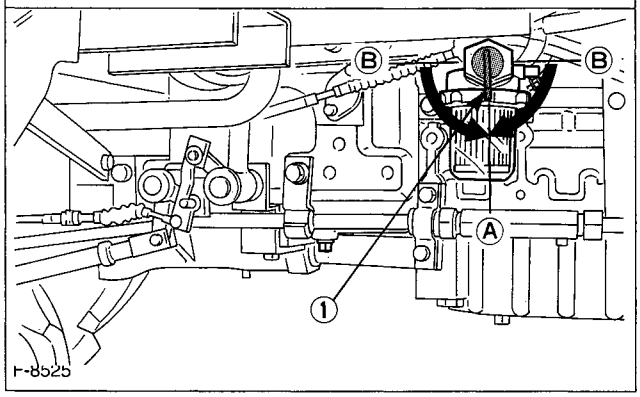
①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”　Ⓑ“踏込む”　Ⓒ“上げる”

2.燃料フィルタコックを“ON”にします。

GL350・430仕様

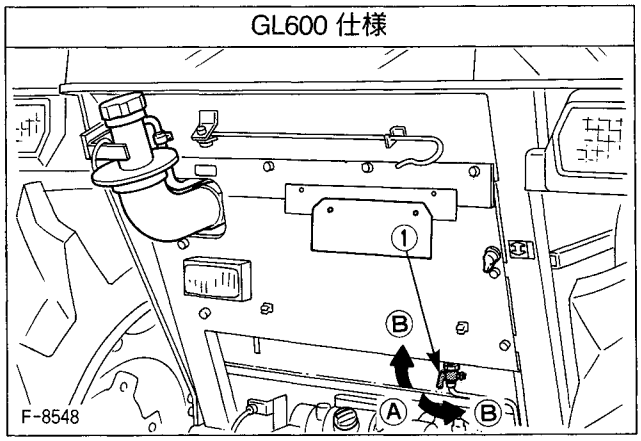


GL400・470・530・600仕様



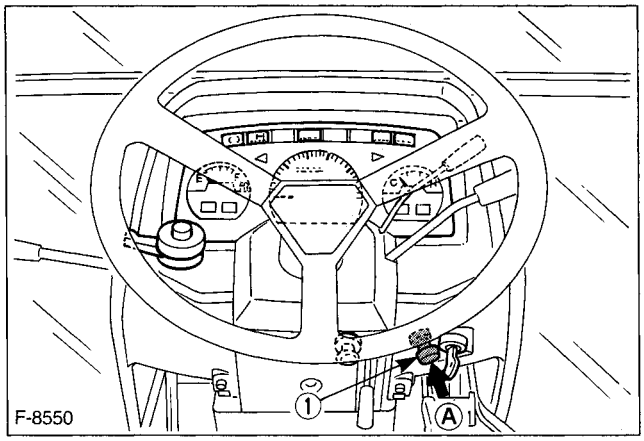
①燃料フィルタコック　Ⓐ“ON”　Ⓑ“OFF”

GL600仕様



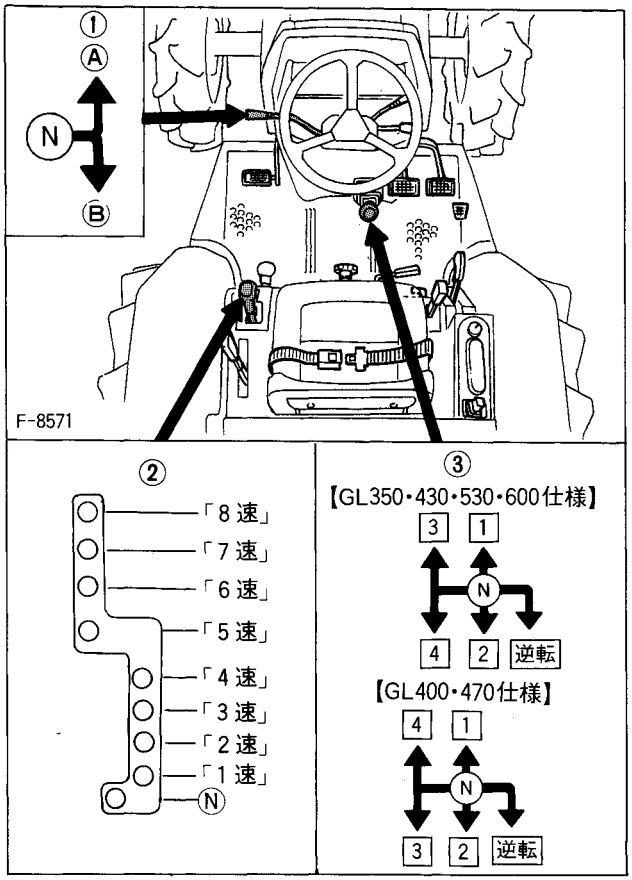
①補助燃料タンクコック　Ⓐ“ON”　Ⓑ“OFF”

3.エンジンストップノブが戻っているか確認します。



①エンジンストップノブ　　Ⓐ “押込む”

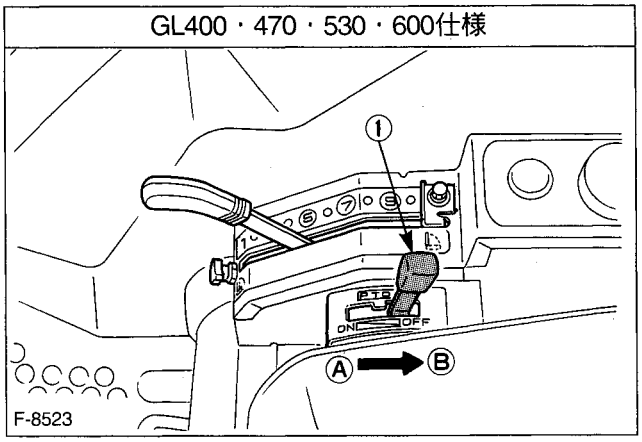
4.主変速レバー，シャトルレバー，PTO変速レバーを“中立”(N)にします。



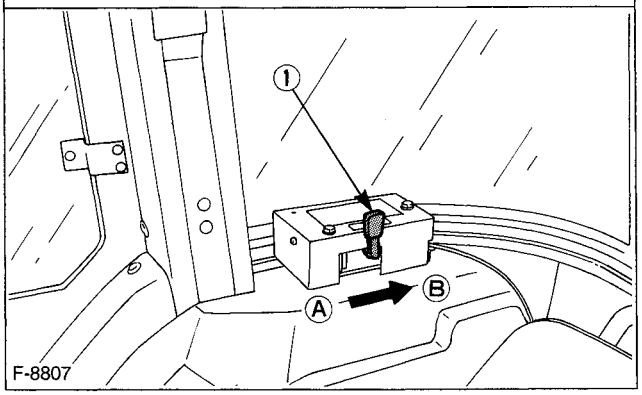
①シャトルレバー　　Ⓐ “前進”
②主変速レバー　　Ⓝ “中立”
③PTO変速レバー　　Ⓑ “後進”

5.PTOクラッチコントロールレバーを“OFF”(切)にします。【N仕様】

GL400・470・530・600仕様

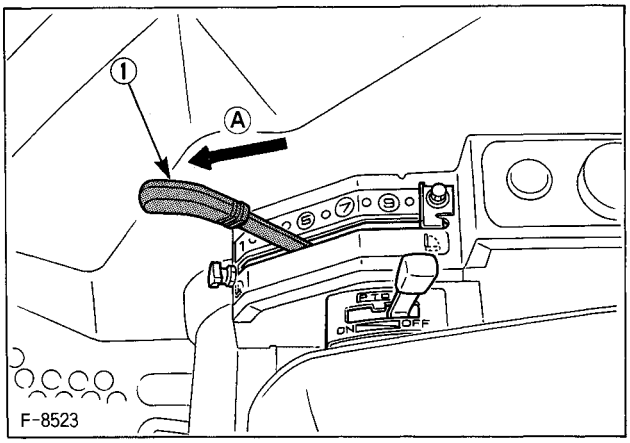


GL350・430仕様



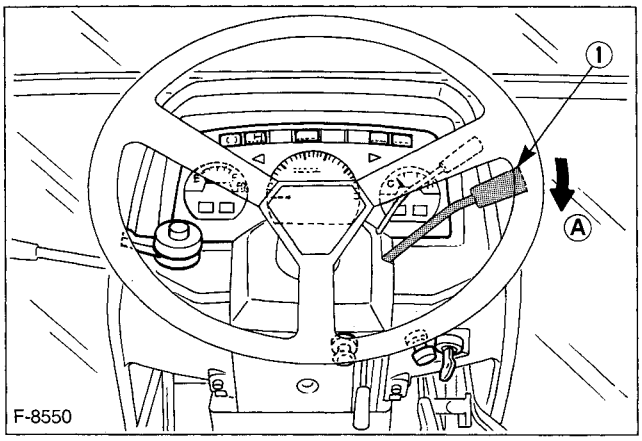
①PTOクラッチ
コントロールレバー　　Ⓐ “ON” (入)
Ⓑ “OFF” (切)

6.油圧レバーを“前方に倒し”作業機を下げます。



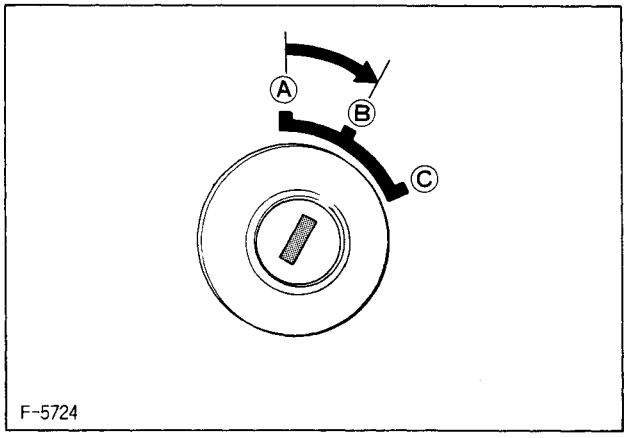
①油圧レバー　　Ⓐ “下げる”

7.アクセルレバーを“中程”まで引きます。



①アクセルレバー　　Ⓐ “加速”

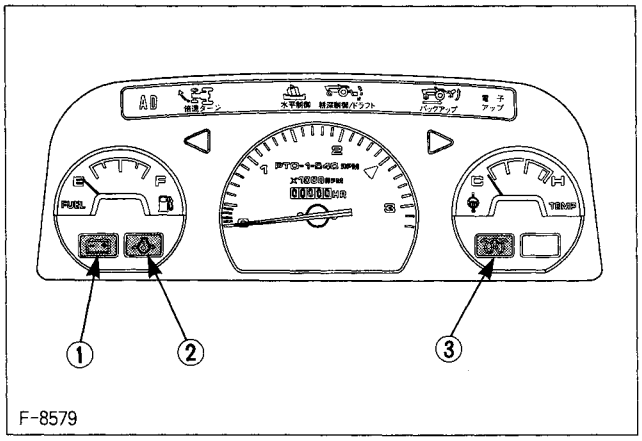
8.キースイッチにキーを差込み“ON”位置にします。



Ⓐ “OFF”
Ⓑ “ON”
Ⓒ “始動”

◆イージーチェッカランプ

1. キースイッチを“ON”位置にすると，①②③ランプが点灯します。
2. 予熱が完了すると自動的にグローランプ③が消灯します。



①バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
②エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）
③グローランプ

補　足

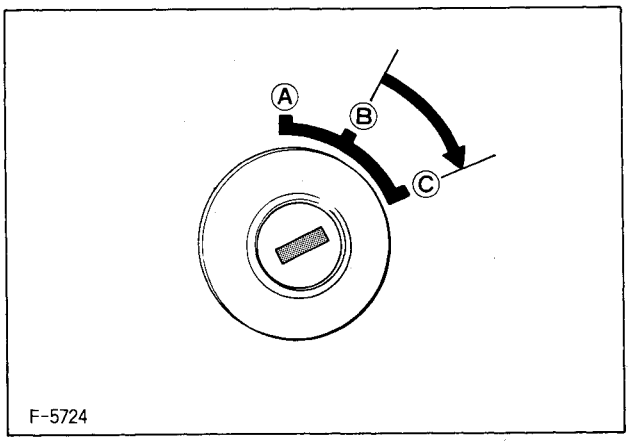
＊各レバーやスイッチの位置により，イージーチェッカ内のランプが点灯又は点滅する場合もあります。

9.クラッチペダルを“踏込み”ます。

補　足

＊クラッチペダルを踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

10.キーを“始動”位置に回します。



Ⓐ “OFF”
Ⓑ “ON”
Ⓒ “始動”

重 要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

11.エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

自動的に“ON”にもどります。

重 要

＊エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

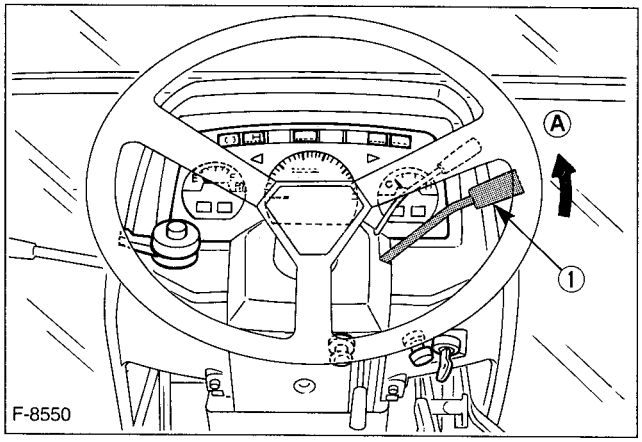
12.バッテリチャージランプ，エンジンオイルランプが“消灯”したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

13.エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま必ず暖機運転しましょう。

停止のしかた

1.アクセルレバーをいっぱい前へ“押し”てアイドリング状態にします。

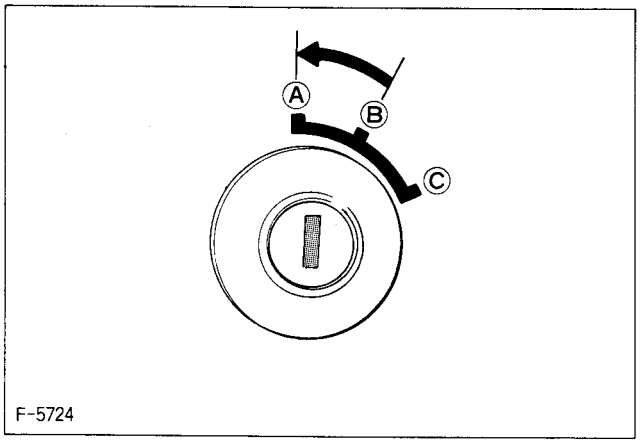


①アクセルレバー　　Ⓐ“アイドリング”

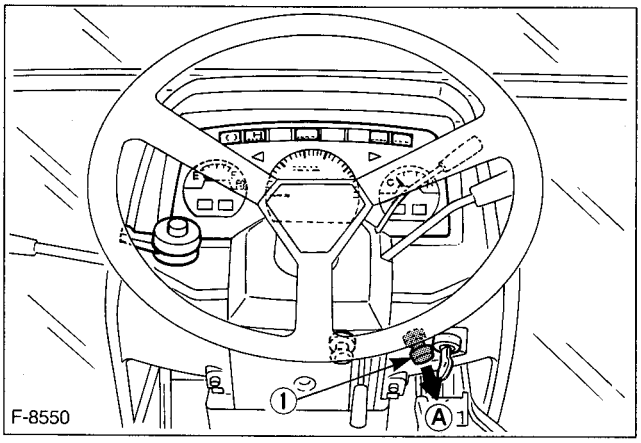
2.キースイッチのキーを“OFF”の位置にすると，エンジンは停止します。

重 要

＊万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。



Ⓐ“OFF”
Ⓑ“ON”
Ⓒ“始動”



①エンジンストップノブ　　Ⓐ“引張る”

重 要

＊**GL350・430仕様**のエンジンの停止は，5分間アイドリング運転してからにしてください。
高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

補 足

＊エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

＊エンジンが停止して数秒後，カチッと音がしますが，これはエンジン停止装置が作動する音です。

3.キーは必ず“抜き”ましょう。

暖機運転

注 意

＊換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆本トラクタはUシフトを装備しています。

Uシフトは油圧で作動し，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	少なくとも10分間
0～－10℃	10～20分間
－10～－20℃	20～30分間
－20℃以下	30分間以上

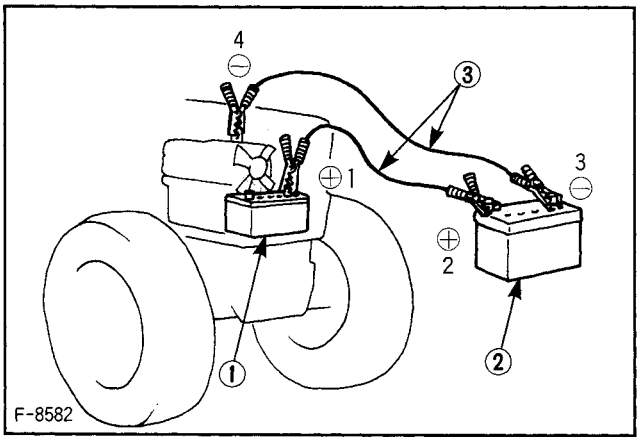
補 足

＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル(別売)があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
　＊バッテリの⊕端子同士を接続します
　＊マイナスケーブルの他端[4]の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
　(マイナスケーブルの他端[4]を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)



①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
❸トラクタのエンジンを始動します。
　(始動手順は**“エンジンの始動と停止”**の項を参照)
❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重 要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

トラクタの運転

警 告

＊トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。

＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。

＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。

＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。

＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。

＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。

＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転(最初の約50時間)

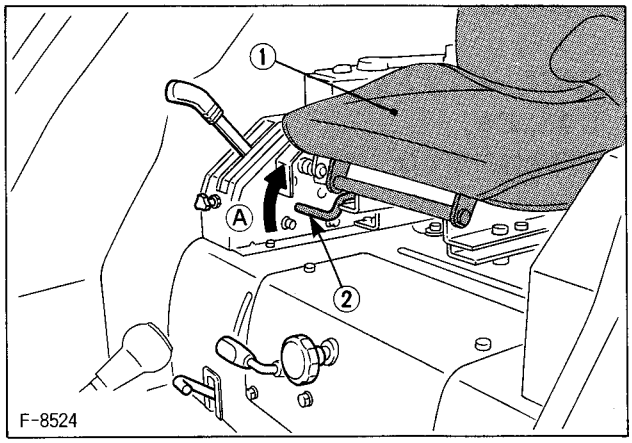
この期間中は，特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後，**“定期点検箇所一覧表”**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. シート下の調節レバーのロックを**“解除”**すると，前後４段階に調節できます。
2. 雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。

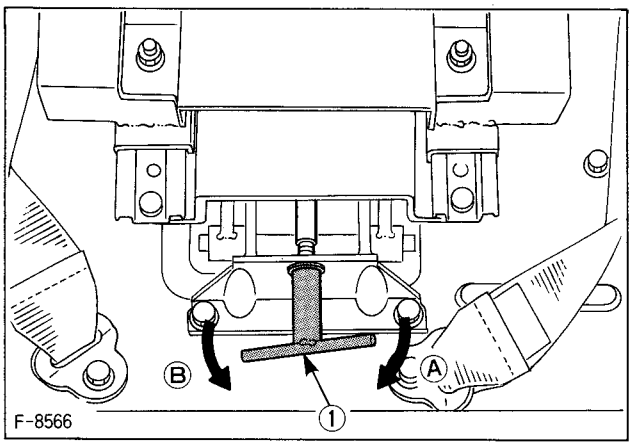


①シート　　Ⓐ “ロック解除”
②調節レバー

◆シートサスペンション

【GL400・470・530・600仕様】

体重調節グリップを回すと，クッションの強さが調節できます。



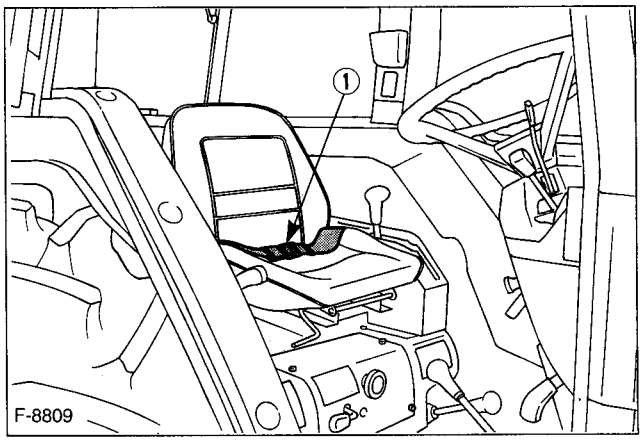
①体重調節グリップ　　Ⓐクッションが“強く”なります
Ⓑクッションが“弱く”なります

■安全フレームとシートベルト

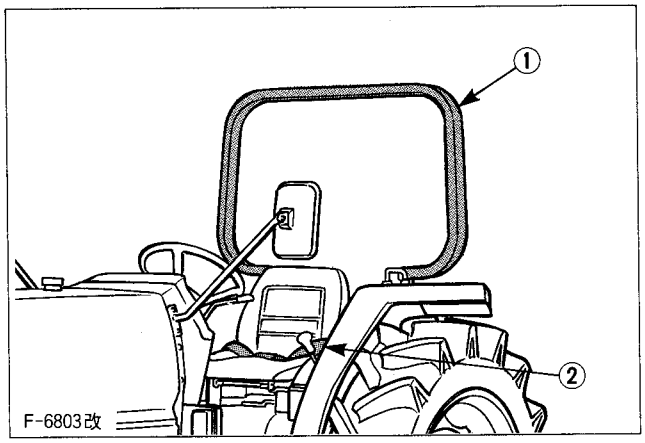
警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。
＊運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
＊安全キャブ又は，安全フレームの改造を絶対にしないでください。また強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。
＊安全フレームが確実に固定されているか確認してください。
＊シートベルトは作業者の身体に合わせて長さを調節してください。



①シートベルト



①安全フレーム
②シートベルト

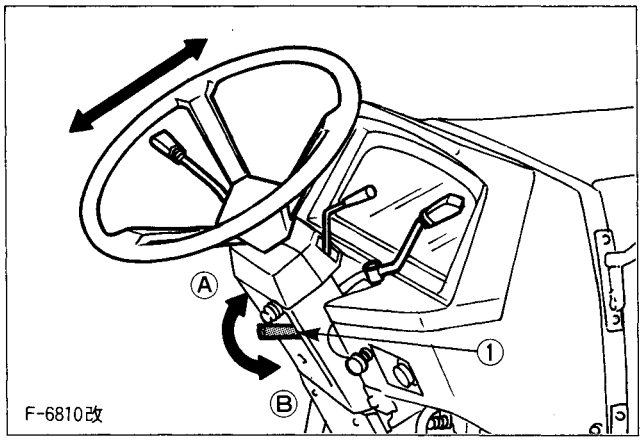
■ステアリングハンドル

注 意

＊調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

＊走行中の調節はしないでください。

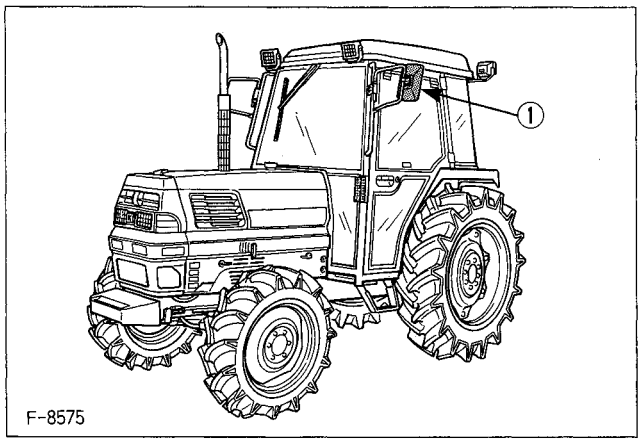
チルトレバーでロックを**“解除”**すれば，ステアリングハンドルが任意の位置に調節できます。



①チルトレバー　Ⓐ“ロック解除”　Ⓑ“ロック”

■バックミラー

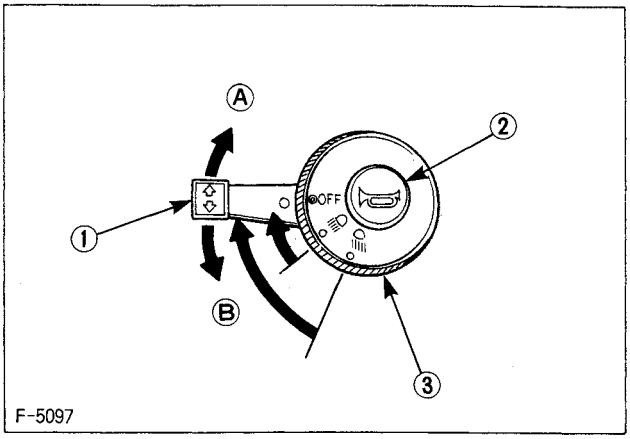
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。



①バックミラー

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ



①ウインカスイッチ　　Ⓐ “右点滅”
②ホーンボタン　　Ⓑ “左点滅”
③ライティングスイッチ

◆ライティングスイッチ

OFF……ヘッドランプ消灯位置。

≡D……ヘッドランプ上向き照射位置。

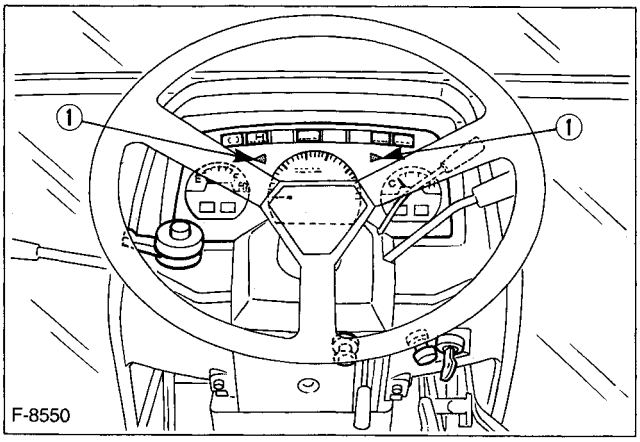
≡D……ヘッドランプ下向き照射位置。

補　足

＊**GL400・470・530・600仕様**では，ライティングスイッチ“≡D”“≡D”位置で，車幅灯，尾灯が点灯します。

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



①ウインカパイロットランプ

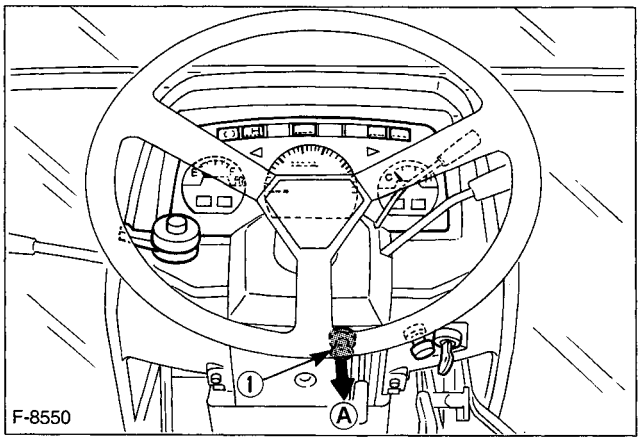
◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■駐車灯スイッチ

【GL400・470・530・600仕様】

キースイッチを**“OFF”**にしてスイッチを
引く……駐車灯が点灯します。
押す……駐車灯が消灯します。



①駐車灯スイッチ　　Ⓐ “引く”

■バックランプ

【GL400・470・530・600仕様】

シャトルレバーを**“後進”**の位置に入れると，バックランプが点灯します。

■ブレーキランプ

【GL400・470・530・600仕様】

ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

発進・走行

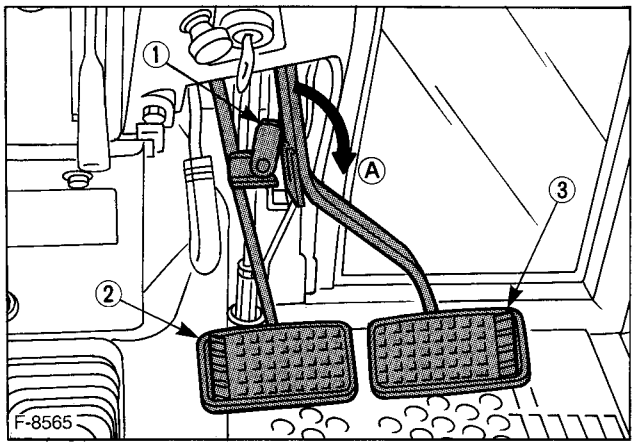
1.ブレーキペダルの確認

■ブレーキペダル

警　告

＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

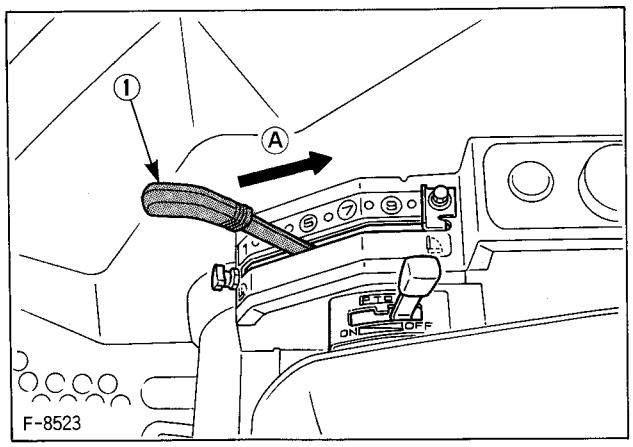
ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ “道路走行時は必ずかける”

2.油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は“油圧”の項を参照〕



①油圧レバー　　Ⓐ “上げる”

3.クラッチペダルを踏込みます。

注　意

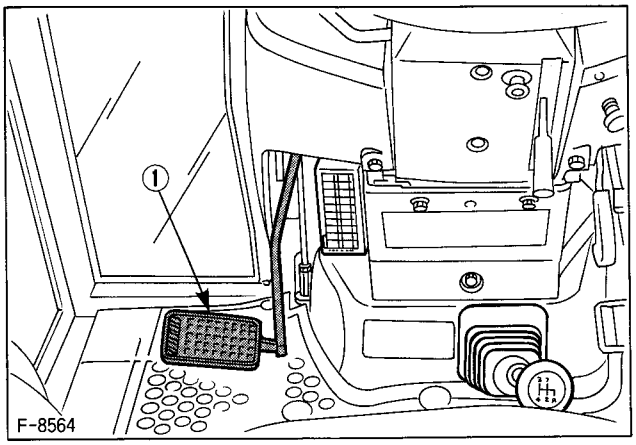
＊急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む……クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補　足

＊下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
・クリープレバー
・倍速ターンレバー
・ＰＴＯ変速レバー

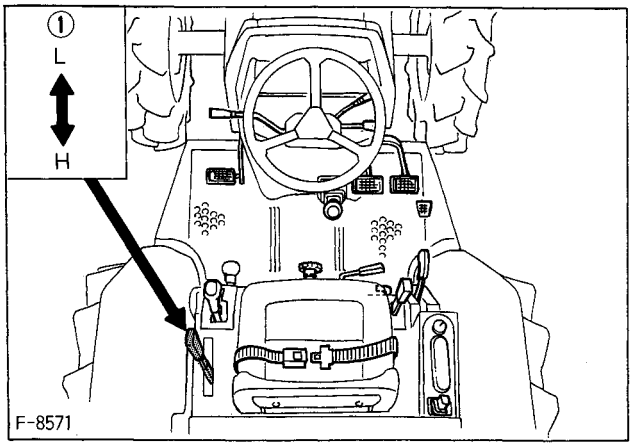


①クラッチペダル

4 .作業に応じ必要なレバー類を操作します。

■クリープレバー

“L” 位置で低速（クリープ速度），**“H”** 位置で高速が得られます。
クラッチペダルを踏込み操作します。



①クリープレバー　　Ⓛ “低速”
Ⓗ “高速”

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   ＊ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   ＊ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   ＊プランタによる移植作業。
   ＊農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
   ＊車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業(故障の原因になります)
   ＊湿田での沈没状態から脱出する作業。
   ＊けん引・トレーラ作業。
   ＊フロントローダ作業。
   ＊フロントブレード作業(除雪作業)。
   ＊土木作業。
   ＊ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   ＊変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   ＊発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   ＊クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
   停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊クリープ速度では，けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補　足

＊クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。
＊また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったんシャトルレバーを **“中立”** (N)にしてから操作してください。

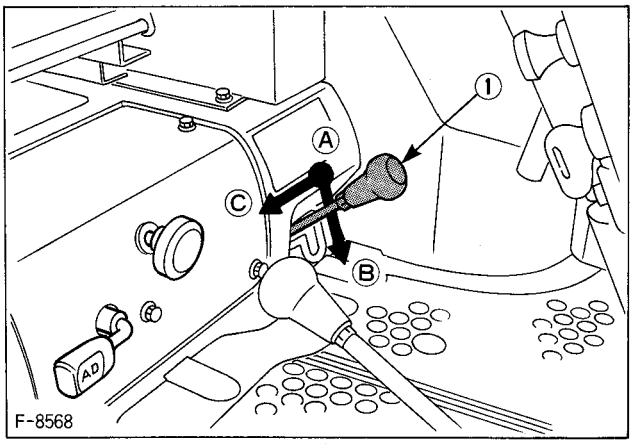
■倍速ターンレバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。

倍速ターン **“入”** ……倍速ターンが入る。

前輪駆動 **“入”** ……4輪が駆動される。

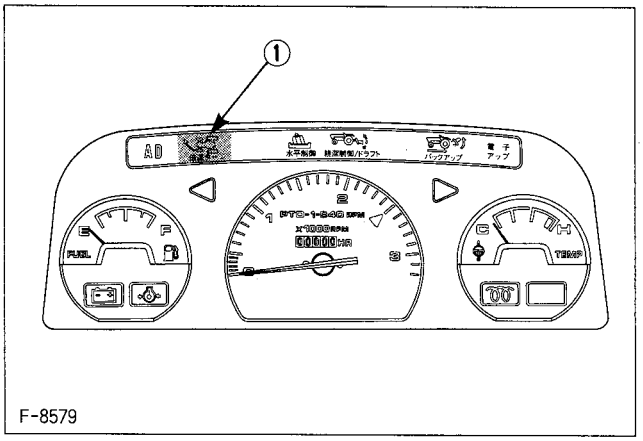
前輪駆動 **“切”** ……前輪駆動が切れる。



①倍速ターンレバー　Ⓐ前輪駆動 “入”
Ⓑ前輪駆動 “切”
Ⓒ倍速ターン “入”

補　足

＊倍速ターンレバーを **“入”** にすると，イージーチェッカの倍速ターンランプが点灯します。



①倍速ターンランプ

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

◆倍速ターンの使い方

警　告

＊倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを前輪駆動 “入” 又は前輪駆動 “切” に切換えてください。

＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

重　要

＊倍速ターンの **“入”** **“切”** は，前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。

＊プラウなどの速度の速い作業には，使用しないでください。

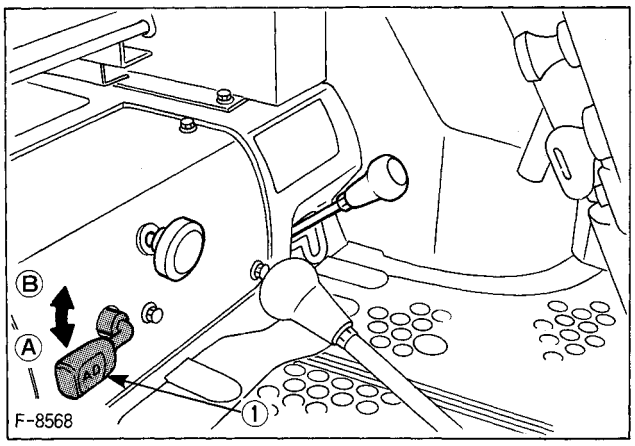
＊フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

■ AD(オートディスクブレーキ)レバー

片ブレーキの自動作動をさせるレバーです。

AD **“入”** ……ステアリングハンドルを一杯に回すと，自動的に内側後輪に軽くブレーキがききます。

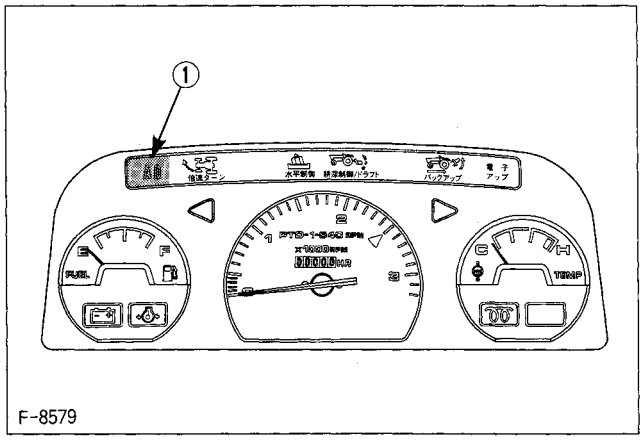
AD **“切”** ……片ブレーキの自動作動が切れます。



①ADレバー　　Ⓐ “入”
Ⓑ “切”

補　足

＊ADレバーを **“入”** にするとイージーチェッカのADランプが点灯します。



①ADランプ

◆ AD(オートディスクブレーキ)の使い方

注　意

＊AD “入” のままでほ場以外を走行すると，旋回時急に回わり事故の原因になります。
ほ場から出る前に必ずADレバーを “切” にしてください。

1. 隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回を小さくする操作が行なわれますが，ADはこの操作を自動的に行なうものです。
2. ADの作動は次のようになっています。
   旋回動作に入り，ステアリングハンドルを一杯に切ると，ADが連動して内側後輪に軽くブレーキがかかり，小さく，スムーズな旋回が行なえます。
3. ADは，２輪駆動時，４輪駆動時にも作動しますが，倍速ターンと併用すると最も効果を発揮します。

重　要

＊ADレバーの **“入”** **“切”** は前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。

＊危険防止のため，クリープ変速 **“H”** で主変速 **“5速”** 以上ではAD **“入”** にならない構造になっています。
AD **“入”** で旋回中及びハンドルを切った状態で，上記状態への変速をしないでください。
無理に変速レバーを操作すると故障につながります。

5 .エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

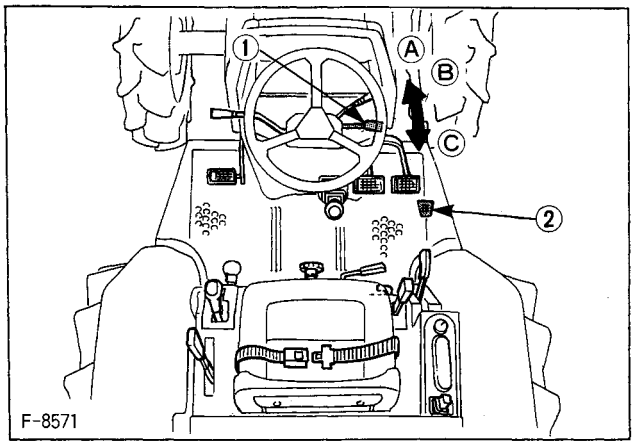
……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す……アイドリング状態。

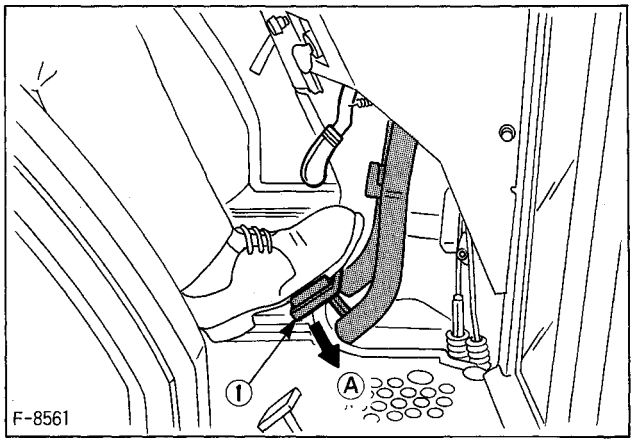


①アクセルレバー　　Ⓐ “アイドリング”
②アクセルペダル　　Ⓑ “低速”
Ⓒ “高速”

6 .駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

駐車ブレーキレバーを外すときは，ブレーキペダルを**“踏込む”**と外れます。

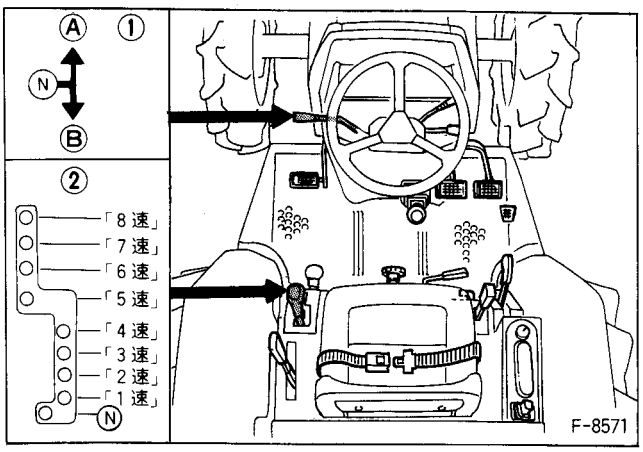


①ブレーキペダル　　Ⓐ “踏込む”

7 .主変速レバーを“１速”に入れます。

8 .シャトルレバーを“前進”又は“後進”に入れると，トラクタが動き始めます。

9 .主変速レバーを１段ずつ変速したい位置まで変速してください。



①シャトルレバー　　Ⓐ“前進”
②主変速レバー　　Ⓝ“中立”
　　Ⓑ“後進”

■主変速レバー

注　意

＊急発進はしないでください。
＊安全のため，急激な変速は避けてください。変速は１段ずつ行なってください。
＊緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊急な坂道，車両への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーで発進するとき，変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
・十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。
・低温時の発進遅れは異常ではないので，主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。

重　要

油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。
＊作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
＊急激なシフトダウンは避けてください。
＊トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，油温が上がってくると正常になります。

補　足

＊レバー１本で８段の車速が選択できます。
　停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
＊AD **“入”**のときの主変速レバー操作は，前輪タイヤを直進状態にして行なってください。

■シャトルレバー

レバーを持ち上げ，前に押して**“前進”**，手前（後）に引いて**“後進”**です。

◆シャトルレバーの使い方

1. シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。
2. **“前進”**⇔**“後進”**のシフト操作は，いったん**“中立”**（N）位置にして停止してから操作してください。
3. シャトルレバーは，ノンクラッチで前・後進操作することができます。

停車・駐車

警 告

＊Uシフトは油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注 意

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー（主変速・シャトル・PTO）を“中立”(N)，作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

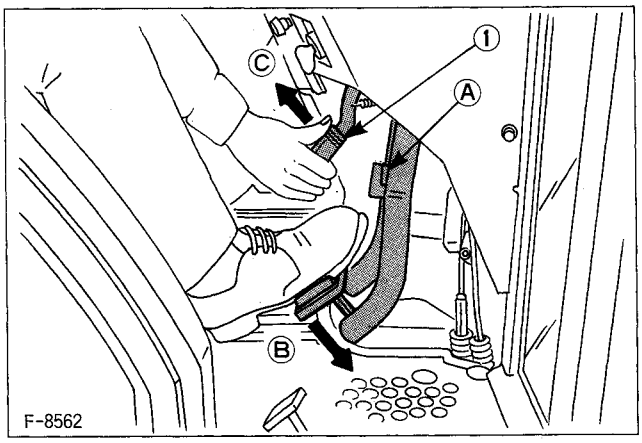
1.アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。

2.クラッチ及びブレーキペダルを“踏込み”ます。

3.完全に停止してから，シャトルレバー，主変速及びPTO 変速レバーを“中立”(N)にします。

4.作業機を取付けている場合は，ポジションコントロールレバーをゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。

5.駐車ブレーキを確実に“ロック”してください。



①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“上げる”

6.キースイッチを“OFF”にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

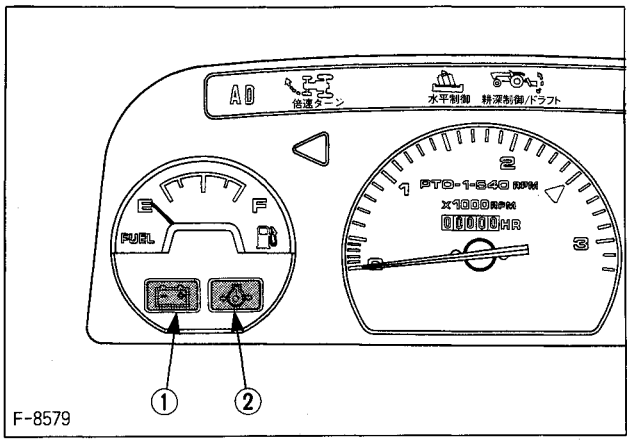
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

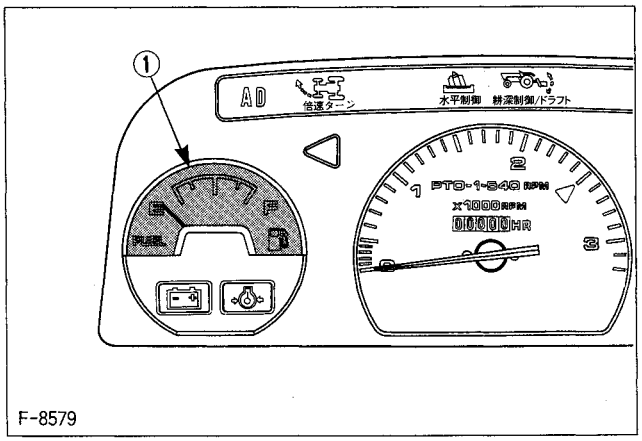


① バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**“ON”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

② エンジンオイルランプ
（エンジン油圧警告灯）
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。キースイッチを**“ON”**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

■燃料計

指針が**"E"**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照）



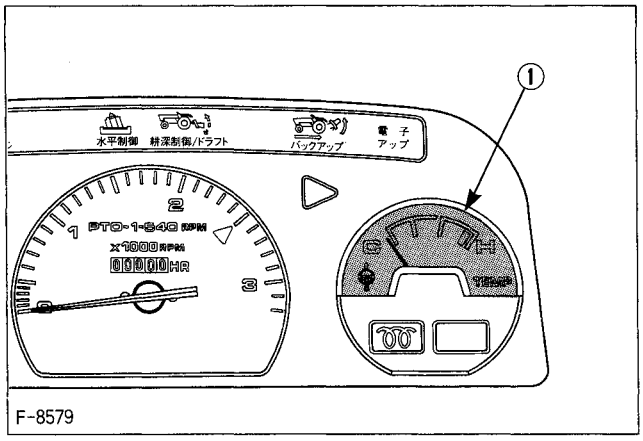
①燃料計

■水温計

注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**“H”**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



①水温計

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒート(水温計の針が**“H”**にあるとき)したときは，

❶作業を中止し，

❷エンジンを約５分間アイドリング回転してから，

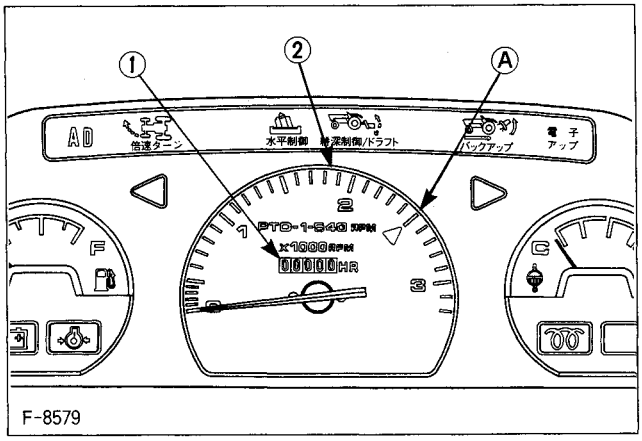
❸エンジンを停止し，停止後30分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。

1. リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
3. ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

＊リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記**“◆オーバーヒートしたときの処置”**を行なってください。

■トラクタメータ



①積算時間計　　Ⓐ ＰＴＯ-１：540rpm
②エンジン回転計

◆積算時間計

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は1/10時間(６倍すると**“分”**単位)を示します。

◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転速度を示します。

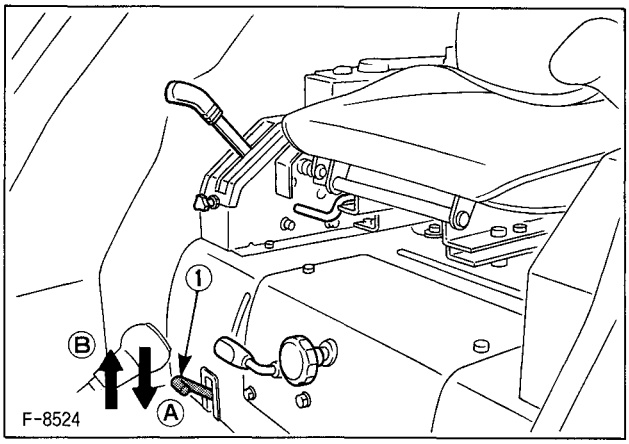
◆ＰＴＯ回転計

ＰＴＯ**“１速”**時，エンジン回転計の指針を**“PTO-1:540rpm”**位置に合わせると，ＰＴＯが540回転となります。

デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。
ペダルを踏込む……ロックされる。
ペダルから足を離す…自動的に外れる。



①デフロックペダル　　Ⓐ踏む“ロック”
Ⓑ離す“解除”

◆デフロックの使い方

注　意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。
1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

注　意

＊高速で回ると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと回ってください。

坂道での運転

警　告

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警 告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注 意

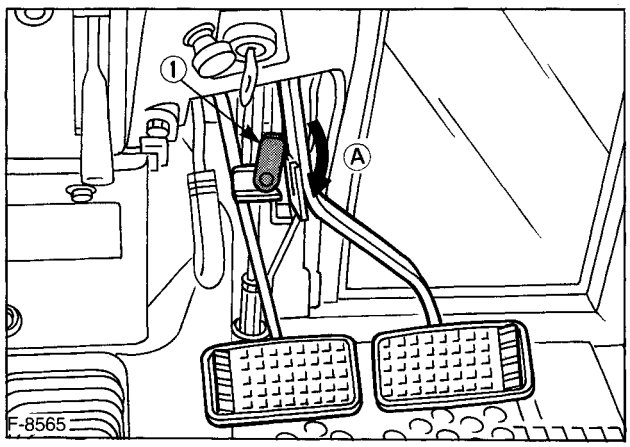
＊倍速ターンレバーは“２輪又は４輪駆動”にしてください。
＊AD(オートディスクブレーキ)レバーはAD“切”にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意

警 告

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①連結金具　　Ⓐ“道路走行時連結する”

注 意

＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
【道路運送車両法の保安基準】
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）
＊道路走行時にはモンロー切換えスイッチを必ず“切”にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドランプを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**“連結”**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注　意

＊パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重　要

＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

＊ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。

＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

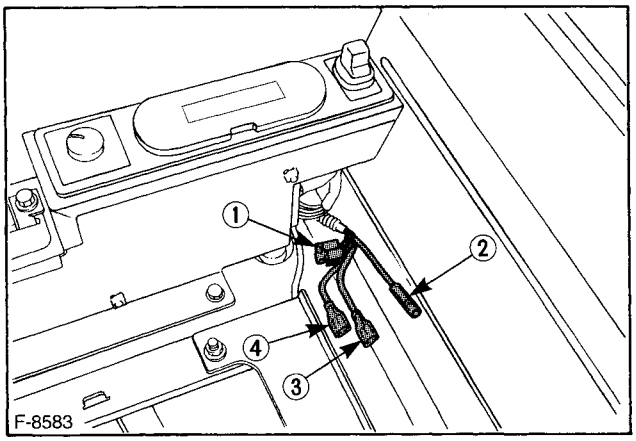
＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

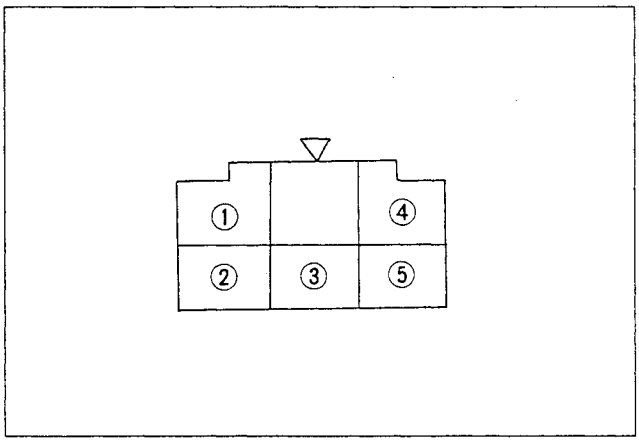
■作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ，ローダ電源用カプラ

作業灯，トレーラ尾灯，ローダ電源を使用するときは，シート後部に各々のカプラがあります。



①トレーラ尾灯用カプラ
②作業灯用カプラ
③作業機用電源カプラ
④作業機用電源カプラ

◆トレーラカプラ電源



機種 / 電源	GL400・470・530・600	GL350・430
①フラッシャ左（緑青）	○	○
②フラッシャ右（緑赤）	○	○
③テールランプ（緑白）	○	—
④ブレーキランプ（緑）	○	—
⑤バックランプ（緑黒）	○	—

油圧・三点リンク・PTO

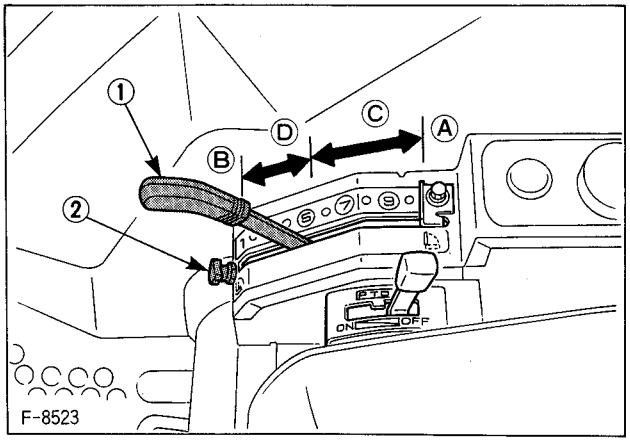
油圧

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧(ポジションコントロール)レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に作動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。 MA・MAD仕様ではオート耕うん作業ができます。



①油圧レバー
②レバーストッパ
Ⓐ “上がる”
Ⓑ “下がる”
Ⓒポジション範囲
Ⓓフローティング範囲

◆油圧レバー【MA・MAD仕様】

安全のため，次の取扱い特性があります。

1.エンジン始動後，油圧レバーを元の位置（エンジン停止時の位置）又はそれ以上に上昇側へ操作しないと作業機は昇降しません。

2.エンジン停止後，キースイッチを**“ON”**にして油圧レバーを**“前方に倒す”**と，作業機は下降します。

補　足

＊三点リンク高さ規制ダイヤルで上昇高さを制限している時は，制限位置までしか上昇しません。
〔詳細は**“モンローマチックオート”**の項を参照〕

■レバーストッパの使い方

❶油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■ポンパレバー【MA・MAD仕様】

注 意

＊危険防止のため，ポンパレバーの使用は，ほ場内作業のみにしてください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバー操作で作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる(電子アップランプ点灯)……作業機上昇
レバー下げる(電子アップランプ消灯)……作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，電子アップ制御が解除され（電子アップランプ消灯），ポジション制御になります。

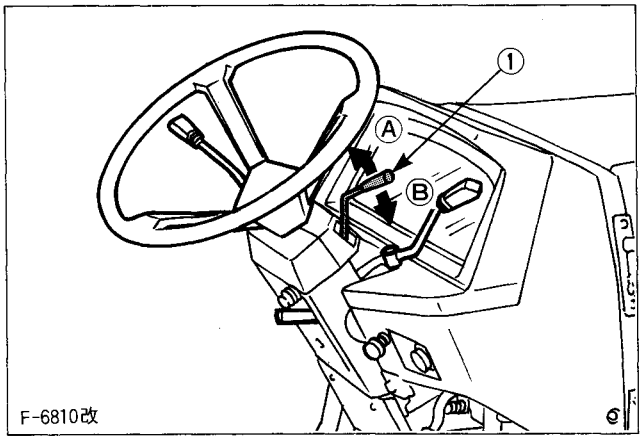
補 足

＊ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がフロアシートに当らないことを確認してください。

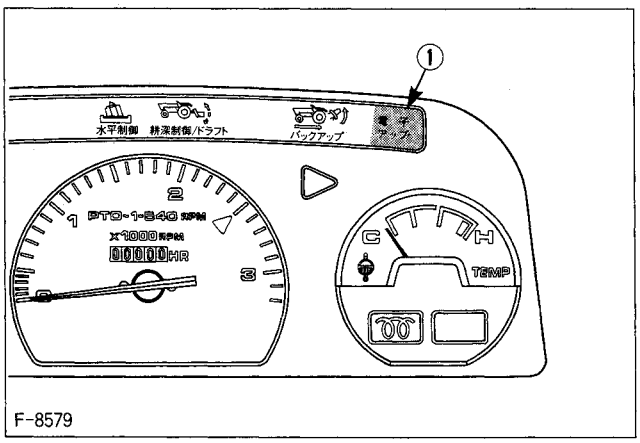
◆ポンパの上手な使い方

ポンパレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。

【耕深位置制御】



①ポンパレバー　Ⓐ “上げる”　Ⓑ “下げる”



①電子アップランプ

補 足

＊電子アップランプが点滅している場合，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，電子アップランプの **“点滅を解除”** してから使用してください。

■電子アップランプについて【MA・MAD仕様】

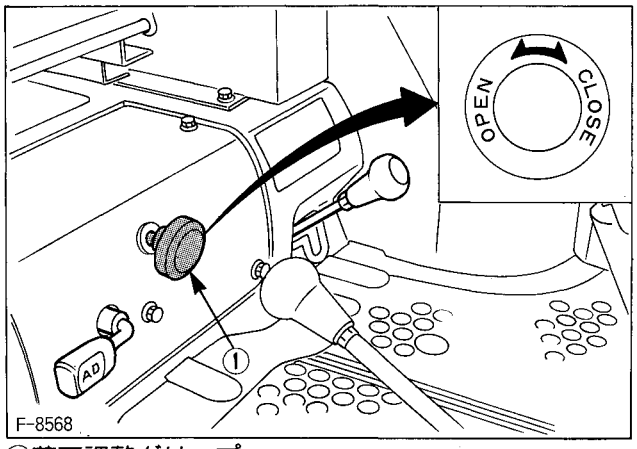
油圧レバー位置及びポンパレバーの状態とロアーリンク位置が異なる状態でエンジンを始動した場合，電子アップランプが点滅するようになっています。このようなときは，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，電子アップランプの点滅を解除して使用してください。
また，三点リンク高さ規制ダイヤルを **“油圧取出”** 位置でエンジンを始動した場合も，電子アップランプが点滅するようになっています。
このようなときは，**“油圧取出”** 位置から **“高”** に戻してください。このとき，さらに電子アップランプが点滅しているときには，油圧レバー又はポンパレバーを操作して点滅を解除して使用してください。

■作業機落下速度の調整

注 意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下調整グリップでロックした後，油圧レバーを“前方に倒して”，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。



①落下調整グリップ

“OPEN” 方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。

“CLOSE” 方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**“CLOSE”** 方向に軽く締込むと，油圧がロック(停止)します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

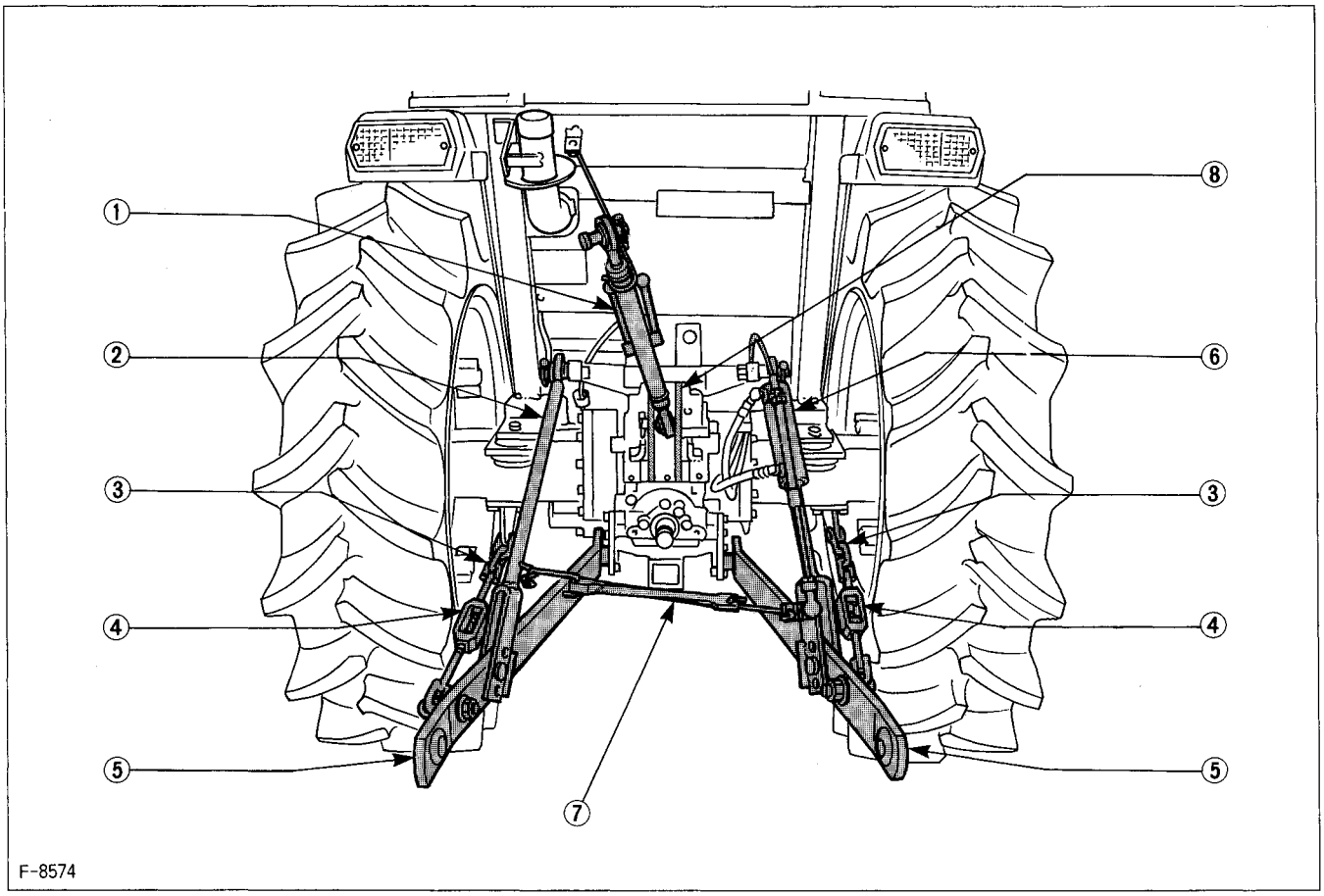
重 要

＊グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

◆油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管しますと，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
❶エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して，軽く締込んでください。
❷油圧レバーを**“前方に倒して”**ください。
(このとき，作業機が下がらないことを確認してください。)
❸エンジンを停止してください。

三点リンク



①トップリンク
②リフトロッド左
③チェックチェーン
④ターンバックル
⑤ロアーリンク
⑥リフトシリンダ（リフトロッド右）
⑦振止めゴム
⑧トップリンクブラケット

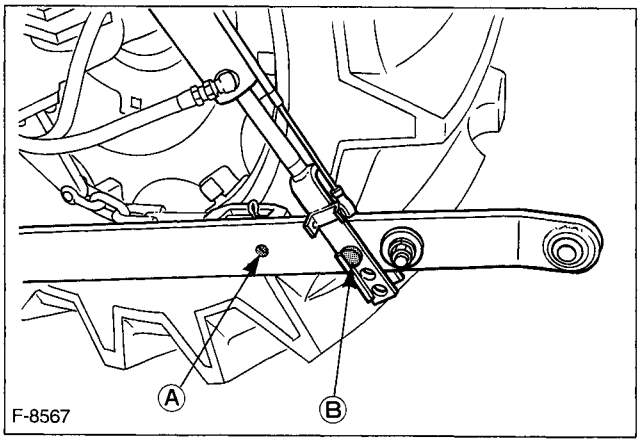
1. 三点リンクは，JIS I 形です。
2. 後輪輪距を広げてください。(詳細は**“輪距の調整”**の項を参照)

	GL350仕様	GL400仕様	GL430仕様	GL470仕様	GL530仕様	GL600仕様
後輪輪距	1140 mm	1220 mm	1140 mm	1220 mm	1175 mm	1175 mm

1.インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 一般作業機を使うときは，ロアーリンクの**“前穴”**を使ってください。
2. 特殊三点リンクロータリを使うときは，ロアーリンクの**“後穴”**を使ってください。



Ⓐ “前穴”
Ⓑ “後穴”

2.作業機の着脱

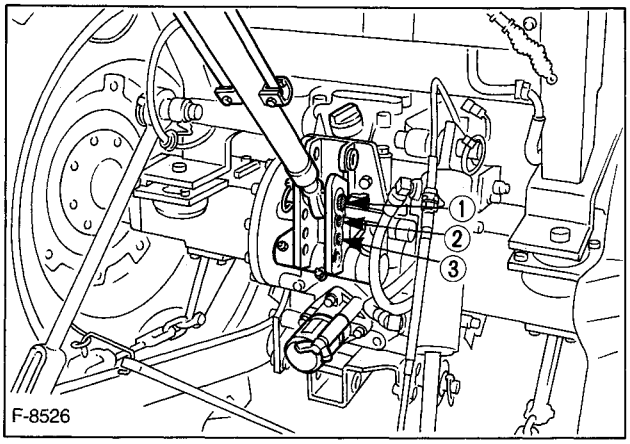
警 告

＊作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどのＰＴＯ作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

◆取付け穴の選択【MAD仕様】

油圧装置がドラフトコントロールとして作動しているときは，下から上にいくほど敏感になります。
原則として，ドラフトコントロールを使用しない場合は③の穴を使用してください。

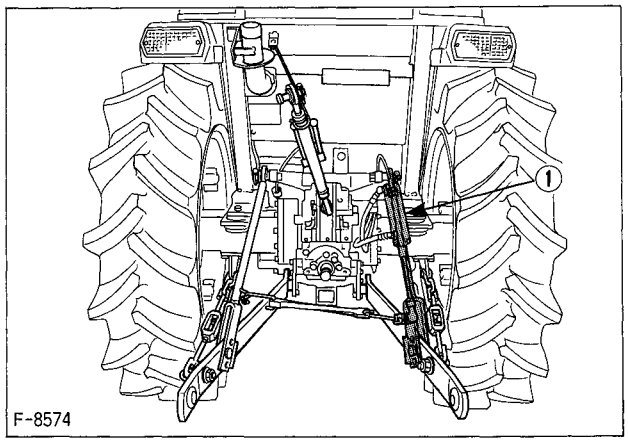


◆トップリンク長さの調整

伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。

■リフトロッドの調整

リフトロッド右を操作して，作業機の傾きを調整してください。
〔**【M・MA・MAD仕様】**の調整方法は**“モンローマチック・モンローマチックオート・モンローマチックオートドラフトの取扱い”**の項を参照〕

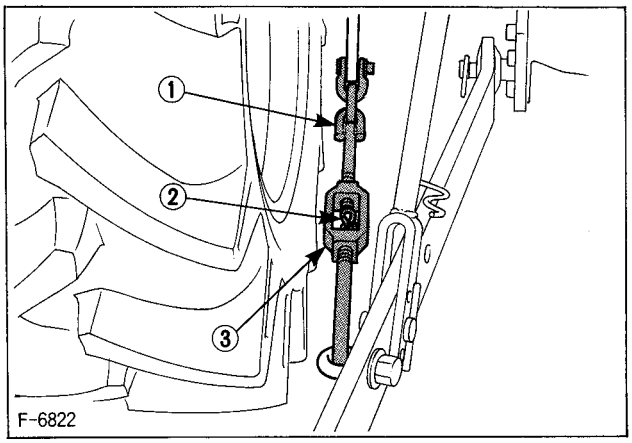


①リフトロッド右(リフトシリンダ)

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンでターンバックルを固定してください。

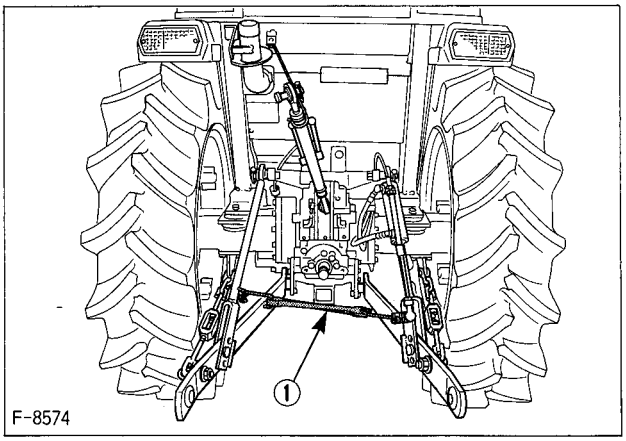
作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる 作業機が横方向に ５～６㎝動く程度
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ，	軽く締める



①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。



①振止めゴム

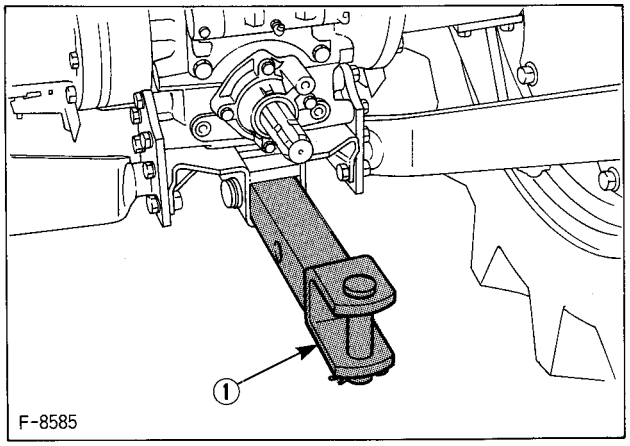
けん引ヒッチ（別売）

警　告

＊けん引作業をするときは，けん引ヒッチ(別売)を必ず使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。
転倒事故を引起すおそれがあります。

＊三点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ，ブロードキャスタなど)を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。
そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起すおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

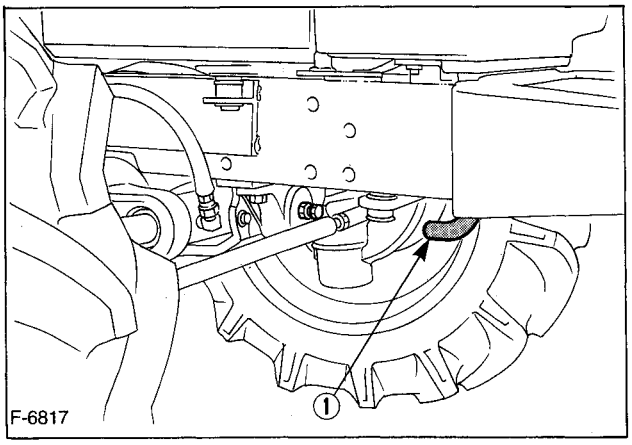


①けん引ヒッチ

■けん引フック

注 意

＊けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
横に引張ると，外れやすくフレームが曲るおそれがあります。



①けん引フック

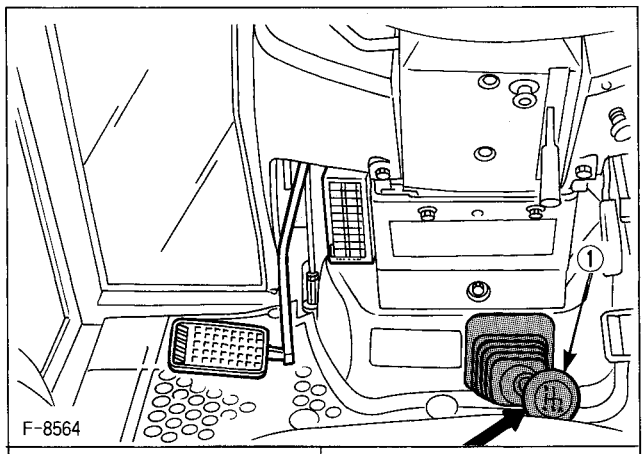
PTO

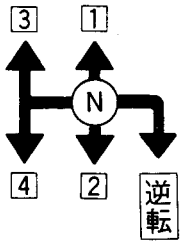
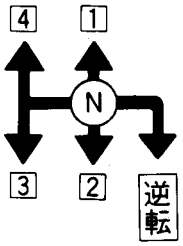
■PTO変速レバー

注 意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，正転４段階逆転１段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。



GL350･430･530･600仕様	GL400・470仕様
	

①PTO変速レバー　Ⓝ“中立”

◆PTO“逆転”の使い方

1. 使用できる作業機
＊メーカ指定のロータリに限ります。

重 要

＊メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
＊土寄せ作業
＊草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

重 要

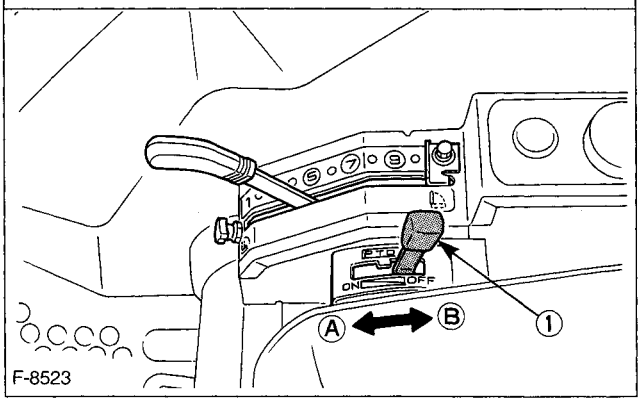
＊オート切換えスイッチは**“切”**にして油圧（ポジション）レバーで作業してください。
(詳細は**“モンローマチックオート”**の項を参照)
【MA・MAD仕様】

3. 使用できない作業
＊未耕地での耕うん作業
＊ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

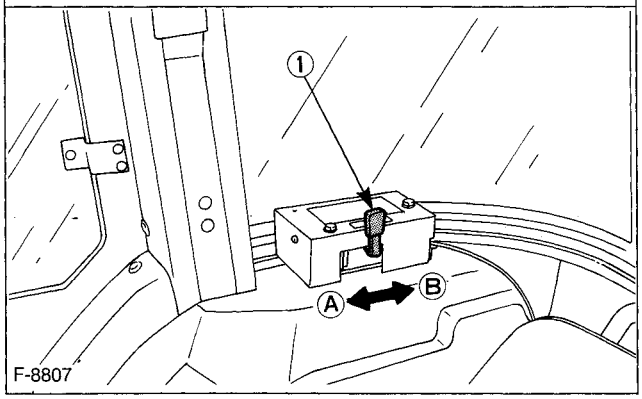
■PTOクラッチコントロールレバー【N仕様】

走行に関係なくPTOクラッチコントロールレバーを“ON”(入)にすると，PTOクラッチが接続されます。また，クラッチペダルの操作でPTOの断続もできます。

GL350キャブ・430キャブ仕様以外



GL350キャブ・430キャブ仕様



①PTOクラッチ コントロールレバー　Ⓐ“ON” (入)　Ⓑ“OFF” (切)

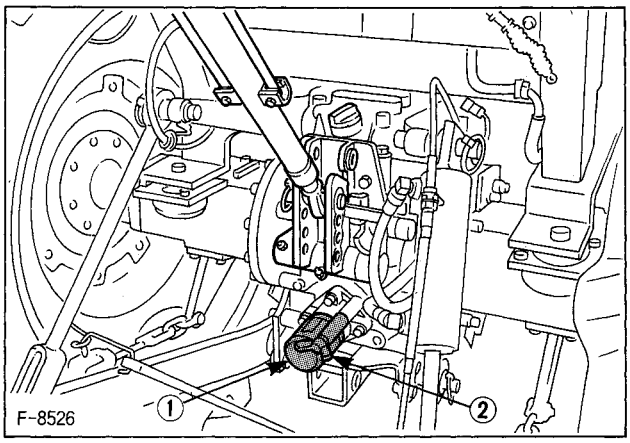
重 要

＊コントロールレバーを急激に操作するとクラッチが急接続され，作業機や油圧クラッチなどが損傷するおそれがあります。必ずゆっくり操作してください。
＊半クラッチ状態でコントロールレバーを保持しないでください。クラッチ損傷の原因となり，またステアリングハンドルが重くなります。
＊PTO変速レバーを操作するときは，クラッチペダルを踏んでください。

■PTO軸カバー

注 意

**＊PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，カバーを取付けておいてください。
そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。**
＊PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
＊PTO軸カバーの上に乗らないでください。



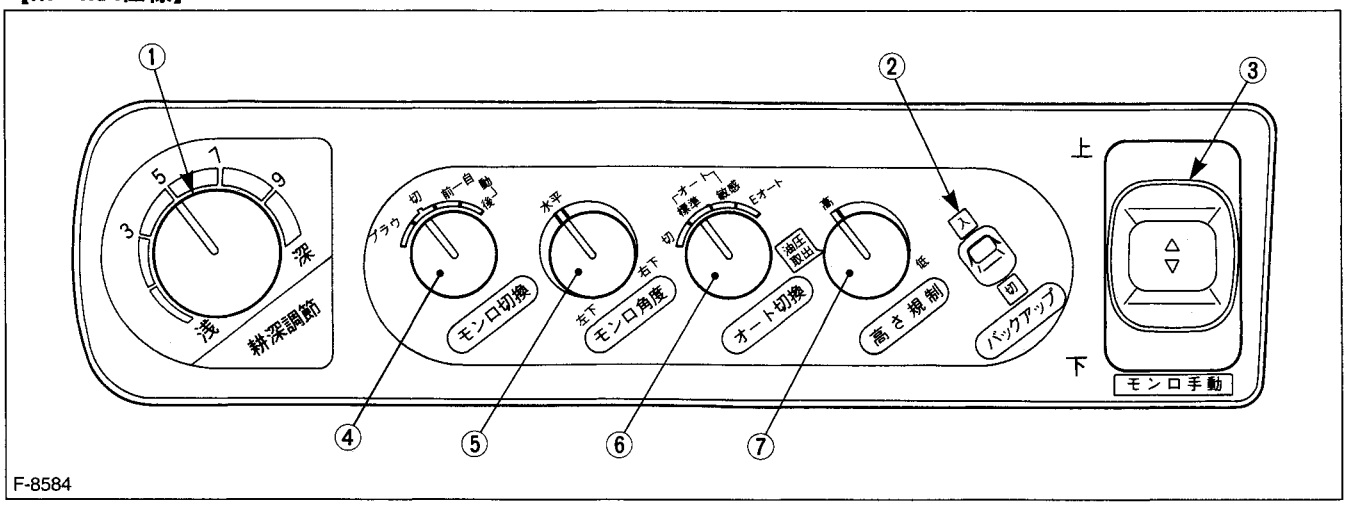
①PTO軸カバー
②蝶ボルト

モンローマチック・モンローマチックオート・モンローマチックオートドラフトの取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオート／ドラフトは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

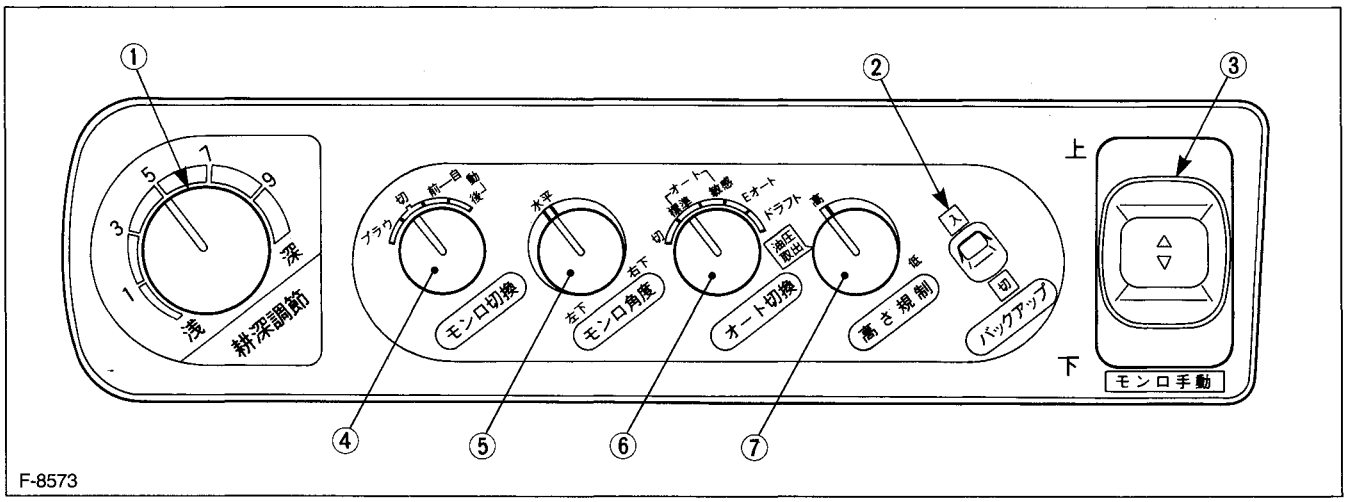
■スイッチの取扱い

【M・MA仕様】



①耕深調節ダイヤル【MA仕様】
②バックアップスイッチ【MA仕様】
③モンローマチック手動スイッチ
④モンロー切換えスイッチ
⑤モンローマチック角度調節ダイヤル
⑥オート切換えスイッチ【MA仕様】
⑦三点リンク高さ規制ダイヤル【MA仕様】

【MAD仕様】

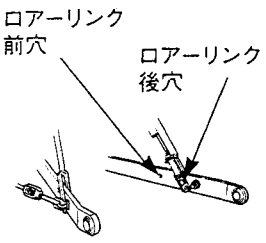


①耕深調節ダイヤル
②バックアップスイッチ
③モンローマチック手動スイッチ
④モンロー切換えスイッチ
⑤モンローマチック角度調節ダイヤル
⑥オート切換えスイッチ
⑦三点リンク高さ規制ダイヤル

■モンロー切換スイッチ

前，後，プラウの切換えは，作業機によって定まる三点リンクの取付け状態（ロアーリンク幅及びロアーリンク穴）に応じて選択してください。

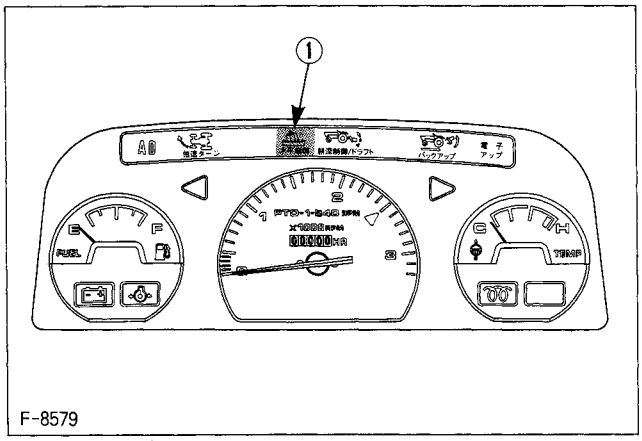
モンローマチック	切換えスイッチ	ロアーリンク穴位置	作　業　機　例
自動		後	特殊三点リンク仕様 Aフレーム付ロータリ Aフレーム付代かきハロー
自動		前	標準三点リンク仕様 代かきハロー（ロータリ）
手動		モンローマチックの自動制御と位置制御が解除され，**“手動”** になります。	
位置制御		前	プラウ，サブソイラ



F-6820

◆水平制御ランプ

モンロー切換えスイッチが **“切”以外の位置**で点灯します。



F-8579

①水平制御ランプ

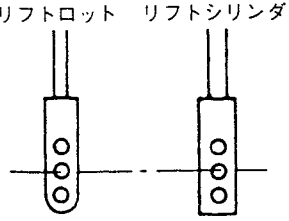
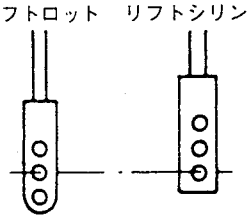
補　足

＊**位置制御**（切換えスイッチ プラウの位置）とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にモンローリフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。**“モンロー切換え”** スイッチをプラウにセットすると，モンローリフトシリンダの長さを **“モンローマチック角度調節”** ダイヤルで，設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。なお，**“モンローマチック角度調節”** ダイヤルの **“水平”** 位置では，作業機が車体と平行になります。

リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，モンローリフトシリンダを **“モンローマチック角度調節ダイヤル”** で適当な長さに合せて，耕起できます。通常に耕起する場合には，**“モンローマチック角度調節”** ダイヤルを **“水平”** 位置に戻すだけで，常にプラウは車体と平行に保たれます。

＊ロアーリンクにリフトロッド（リフトシリンダ）との接合穴が2コありますので，後穴を使用する場合ロアーリンク穴位置 **“後”** として切換えスイッチを選択してください。

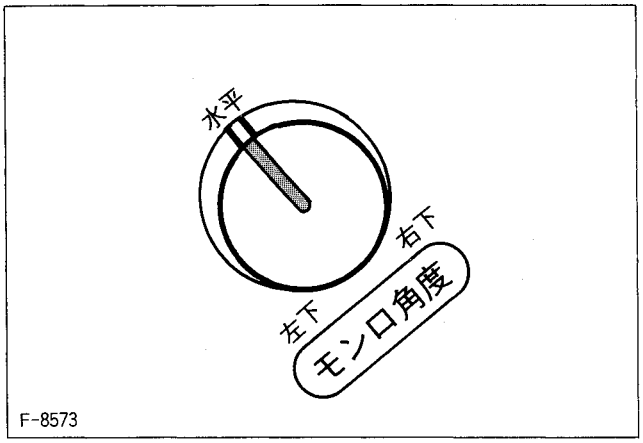
リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

良い例	悪い例
 同じ位置の穴	 異なる位置の穴

F-8586

■モンローマチック角度調節ダイヤル

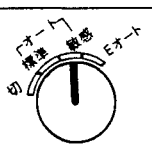
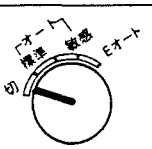
モンロー切換えスイッチが**“切”**以外の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。



1. ダイヤルを**“水平”**位置にしますと，作業機は**水平**に保持されます。
2. ダイヤルを**“左下”**方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。
3. ダイヤルを**“右下”**方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

なお，モンロー切換えスイッチが**“自動”**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

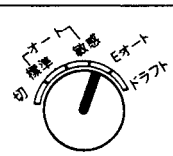
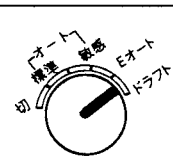
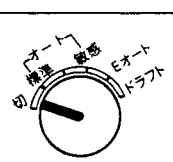
■オート切換えスイッチ【MA仕様】

	オート切換えスイッチ	作　業　例
オート自動		浅起しから深起しまで,一般的な作業で使用します。
		湿田での浅起し，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。
		ロータリカバーを上げたままで行なうオート作業に使用します。
切		オートの**“自動”**制御が解除されます。

補　足

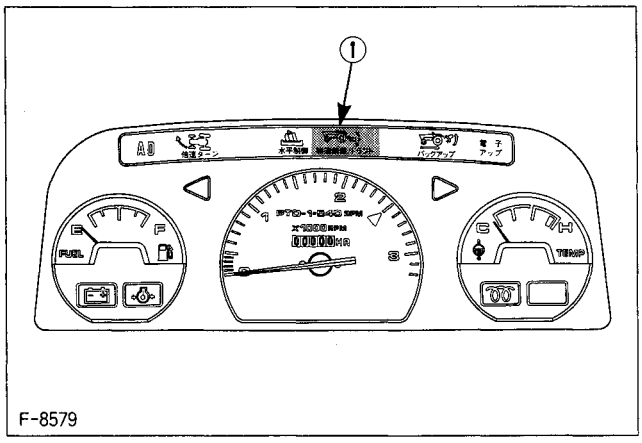
＊畝立て作業などロータリカバー２を上げて作業するときは，**“Eオート”**または，**“切”**にしてください。

■オート切換えスイッチ【MAD仕様】

	オート切換えスイッチ	作　業　例
オート自動		浅起しから深起しまで,一般的な作業で使用します。
		湿田での浅起し，代かき作業その他仕上がりに応じて使用します。
		ロータリカバーを上げたままで行なうオート作業に使用します。
ドラフト自動		けん引負荷を感知して,自動的に作業機を上下させます。
切		オート，ドラフトの**“自動”**制御が解除されます。

◆耕深制御／ドラフトランプ

オート切換えスイッチが**“切”以外の位置**で点灯します。

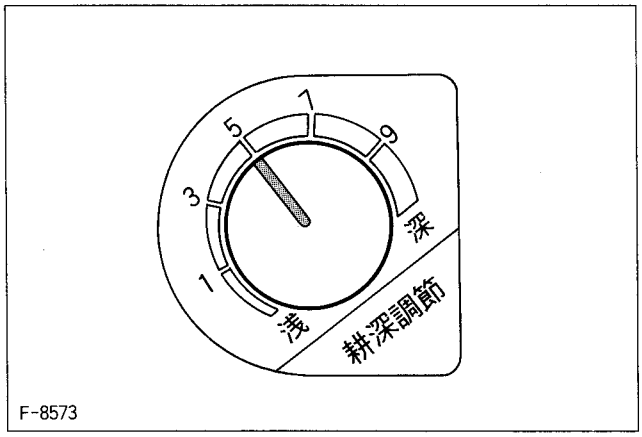


①耕深制御／ドラフトランプ

補　足

＊畝立て作業などロータリカバー２を上げて作業するときは，**“Eオート”**または，**”切”**にしてください。

■耕深調節ダイヤル【MA・MAD仕様】



◆オート耕深調節ダイヤルとして使用する場合

オート切換えスイッチが，**“標準”** **“敏感”** **“Eオート”** の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

補　足

＊**“浅”** から **“1”** 付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田での代かき作業に利用してください。

＊ほ場内で，部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり，耕深が深くなる場合は，ダイヤルで調節してください。

◆ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合

プラウなどでの耕深を調節するときに使用します。

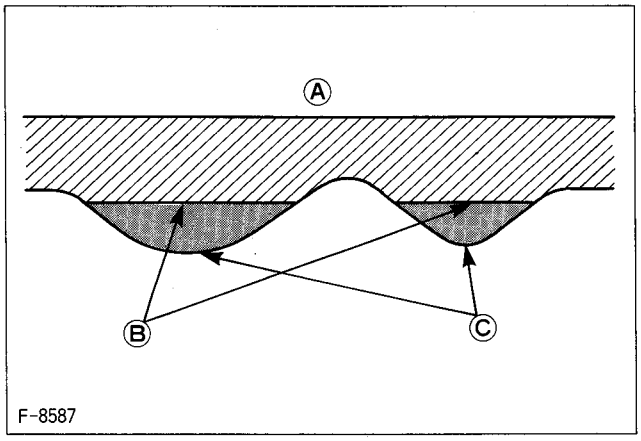
1. ダイヤルを **“浅い”** 方向へ回すと，プラウの耕深が浅く保持されます。
2. ダイヤルを **“深い”** 方向へ回すと，プラウの耕深が深く保持されます。

補　足

＊ダイヤルを **“深い”** 方向へいっぱい回すと，フローティング範囲になります。また **“浅い”** 方向へいっぱい回すと作業機が上端まで上昇します。

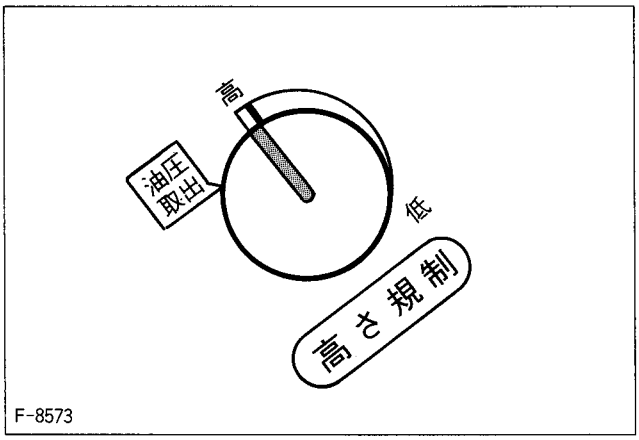
◆ミックスコントロール

油圧レバーで作業機の降下位置を規制し，ドラフトコントロールでけん引抵抗に応じた制御をするという2つのコントロールをします。軟弱な土質でのプラウ・サブソイラなどの作業に適しています。



Ⓐ地表面
Ⓑ降下を制限する
Ⓒ軟弱で抵抗が小さい

■三点リンク高さ規制ダイヤル【MA・MAD仕様】



三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

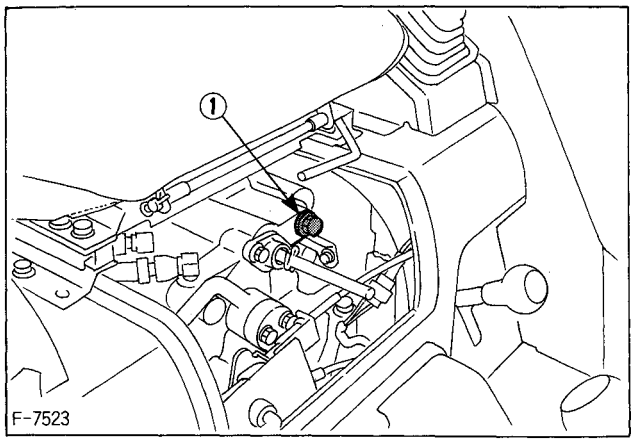
1. ダイヤルを **“高”** にすると，三点リンクの上昇高さが**高く**なります。
2. ダイヤルを **“低”** 方向に回すと，三点リンクの上昇高さが**低く**なります。

補　足

＊三点リンク高さ規制ダイヤルにより，ポンパレバー及び油圧レバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

◆油圧取出しの使い方

油圧シリンダから油圧を取出すときに使用します。



①油圧取り出し口

1. ポンパレバー又は，油圧レバーで三点リンクを最上位置にし，モンローマチックを**“平行停止”**させます。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルを**“油圧取出”**位置にします。
3. 落下調整グリップを回し，油圧をロックします。
4. 油圧の取出し**“上げ－中立－下げ”**は，モンローマチック手動スイッチで行ないます。

補　足

＊三点リンク高さ規制ダイヤルを**“油圧取出”**位置にすると，**“耕深制御／ドラフトランプ”** **“電子アップランプ”** **“バックアップランプ”** **“水平制御ランプ”**が消灯します。

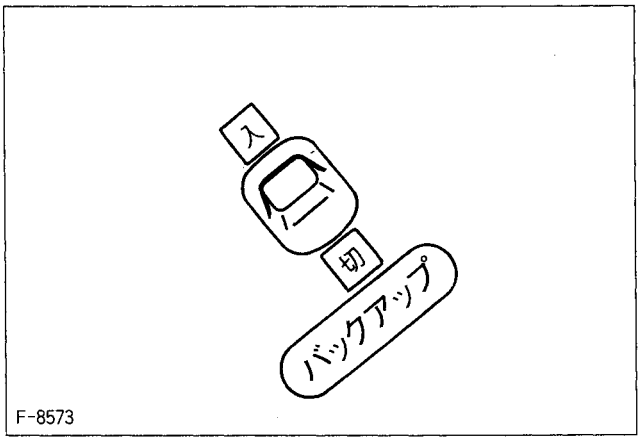
＊**“油圧取出”**位置では，油圧レバー，ポンパレバー，モンローマチックオート／ドラフトは作動しません。

＊**“油圧取出”**位置でエンジンを停止し，再度**“油圧取出”**作業を行なう場合は，エンジン始動後，**“油圧取出”**を解除し(ダイヤルを**“油圧取出”**位置から**“高”**，**“低”**の方向へ回す),再度**“油圧取出”**位置にしてください。

＊油圧取出し作業の終了後は，**“油圧取出”**を解除してください。

■バックアップスイッチ【MA・MAD仕様】

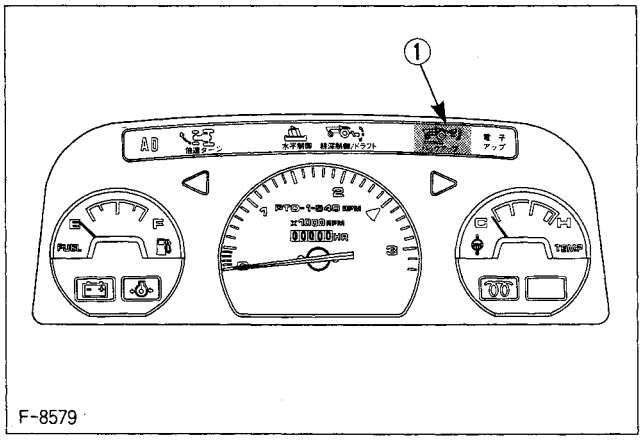
シャトルレバーを**“後進”**に入れると，作業機が上昇する装置です。



1. 作業機を下げたままの**“うっかりバック”**から作業機を守ります。
2. バックアップで上昇した作業機下げるときは，油圧レバー又はポンパレバーを操作してください。

◆バックアップランプ

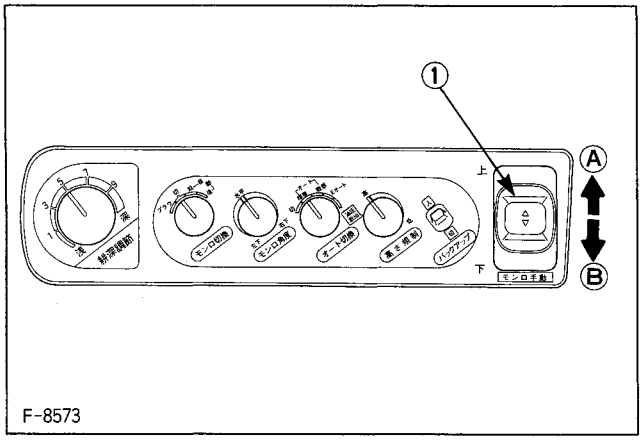
バックアップスイッチが**“入”の位置**で点灯します。



①バックアップランプ

■モンローマチック手動スイッチ

モンロー切換えスイッチが**“切”**の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



F-8573

①モンローマチック手動スイッチ　Ⓐ “上げ”　Ⓑ “下げ”

1. **“上げ”**方向へレバーを押している間，作業機の右側が上がります。
2. **“下げ”**方向へレバーを押している間，作業機の右側が下がります。

重　要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆モンローマチック“入”（自動）では次のような作業に効果があります。

トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機の傾斜が一定になります。

1. モンローマチック角度調節ダイヤルが**“水平”**位置の場合
   ＊水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
   ＊整地板・代かきロータリなどによる均平作業
   ＊畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. モンローマチック角度調節ダイヤルが**“水平”**位置以外の場合
   ＊広幅畝立て，その他

◆モンローマチック“切”（手動）では次のような作業に効果があります。

＊メロンなどの高畝作り，その他
＊作業機の着脱

重　要

＊モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，**“切”**で作業してください。
＊**“手動”**で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

◆後部手動スイッチ【キャブ仕様】

手動スイッチは後部にもあります。
“インプルメントの装着”の項を参照してください。

■作業機の取扱い

◆リフトシリンダを取付け，取外しする場合

購入先にご相談ください。

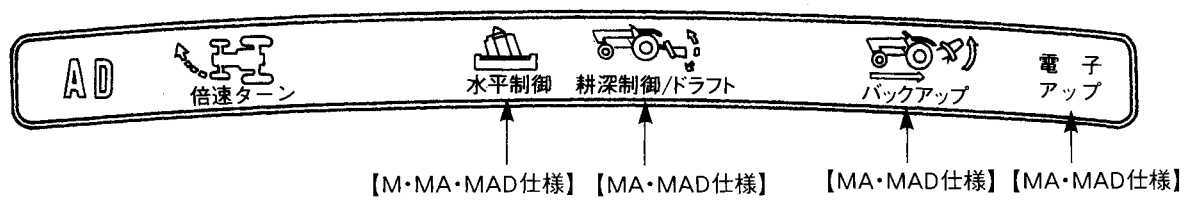
●取外す場合は，下記部品が必要となります。

（別途購入品）

品　番	品　名	備　考
99093－9800－1	キャップアッシ	キャップ及びプラグを含む

■故障・異常の表示

1. **M・MA／MAD**仕様 は，下記のセンサを使用しています。
2. これからのセンサに異常が発生した場合には，耕深制御／ドラフト，水平制御のランプで異常を表示します。
   （点検調整は購入先にご相談ください）
3. 異常の表示方法と対応方法を下に示します。



F-8579

センサ名称	警告方法	異常の現象	緊急の対応方法
リフトアームセンサ	水平制御， 耕深制御/ドラフト ランプ点滅。	ポジション，オート耕うん，モンローマチック作動せず。	モンローマチック手動で平行にする。 **“油圧取出”** 位置で作業機昇降する。
油圧レバーセンサ	水平制御， 耕深制御/ドラフト ランプ点滅。	ポジション，オート耕うん，モンローマチック作動せず。	モンローマチック手動で平行にする。 **“油圧取出”** 位置で作業機昇降する。
ストロークセンサ	水平制御ランプ点滅。	モンローマチック自動とプラウ位置で作動せず。	手動で動かす。
カバーセンサ	耕深制御/ドラフト ランプ点滅。	オート耕うん（標，敏）作動せず。	**“Eオート”** 油圧レバーで動かす。
アクセルセンサ	耕深制御/ドラフト ランプ点滅。	エンジン回転による制御を行なわない。	通常のMAとして作動する。
エンジン回転センサ	耕深制御/ドラフト ランプ点滅。	エンジン回転による制御を行なわない。	通常のMAとして作動する。
ローリングセンサ	————	作業機が傾く。	手動で動かす。
ドラフトセンサ	耕深制御/ドラフト ランプ点滅。	ドラフト耕うん作動せず。	油圧レバーで動かす。

タイヤ・ウエイト

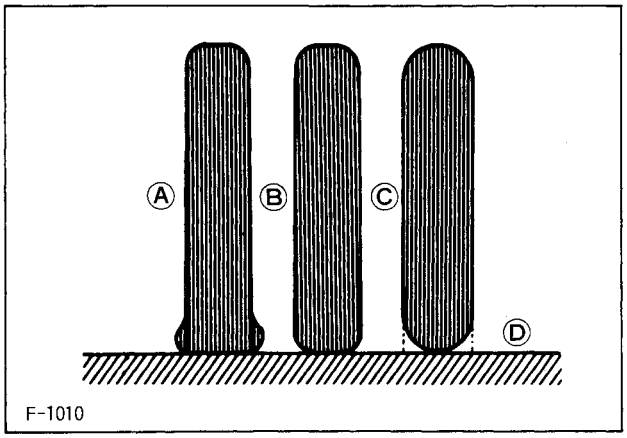
タイヤ

■タイヤの空気圧

警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

【 】内はローダ装着時

		タイヤの呼び	空気圧kPa(kgf/㎠)
前輪		8-18-4PR 8.3-20-4PR	160 (1.6)【200 (2.0)】
後輪	GL430	13.6-26-4PR	100 (1.0)
	GL470	13.6-28-4PR	
	GL350 GL400	12.4-28-4PR	120 (1.2)
	GL530 GL600	12.4-32-4PR	

輪距の調整

注 意

＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安全を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

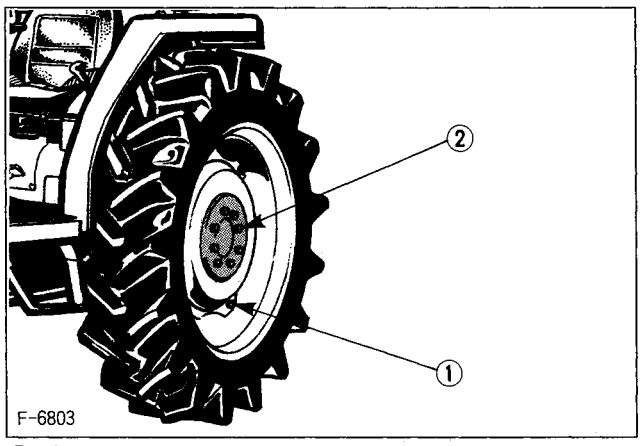
リムとディスクの取付け位置変更により，５～７段階に変えられます。(タイヤの仕様により異なります。)

重 要

＊決められた輪距以外では使用しないでください。

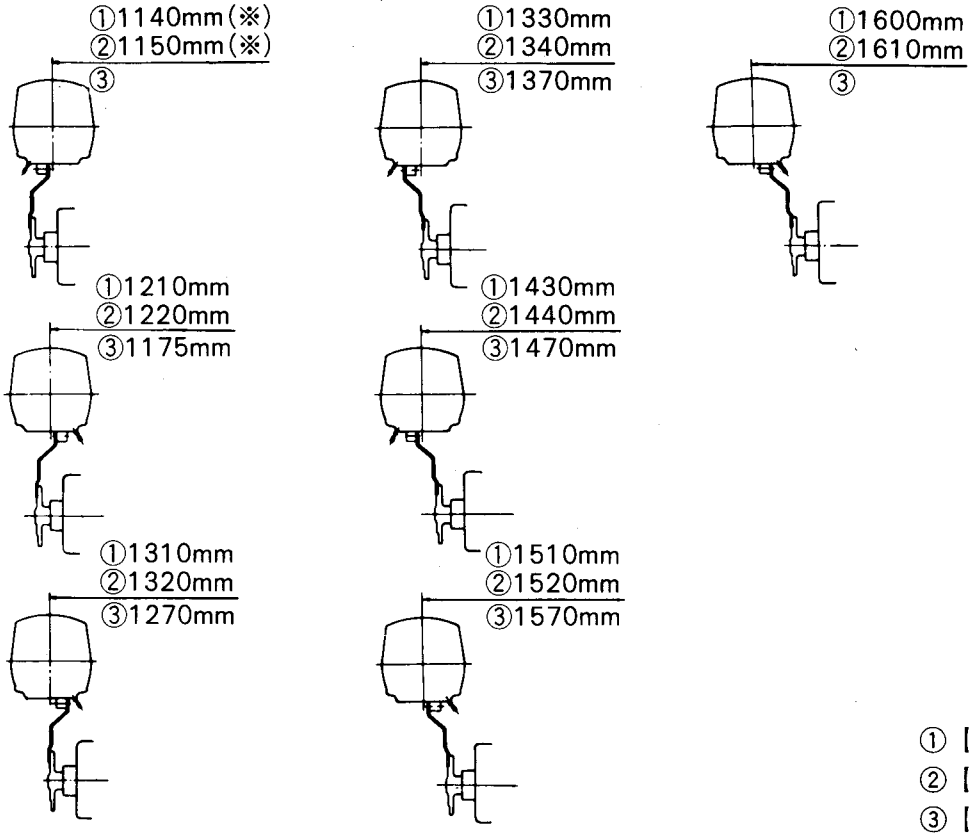
補 足

＊タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。



①ボルト(６個),ナット(６個)
②ボルト(６個),ナット(２個)

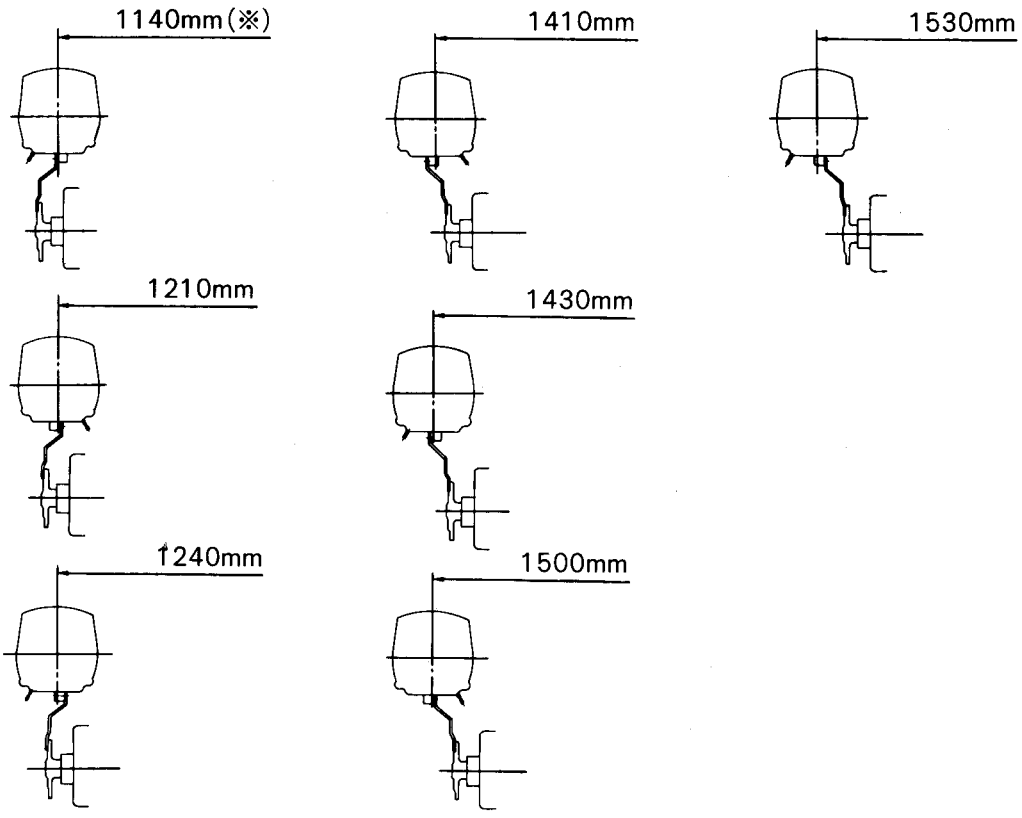
【GL350・400・470・530・600仕様】



F-4592

① 【GL350仕様】
② 【GL400・470仕様】
③ 【GL530・600仕様】

【GL430仕様】



F-4593

※最小輪距

ウエイト

注 意

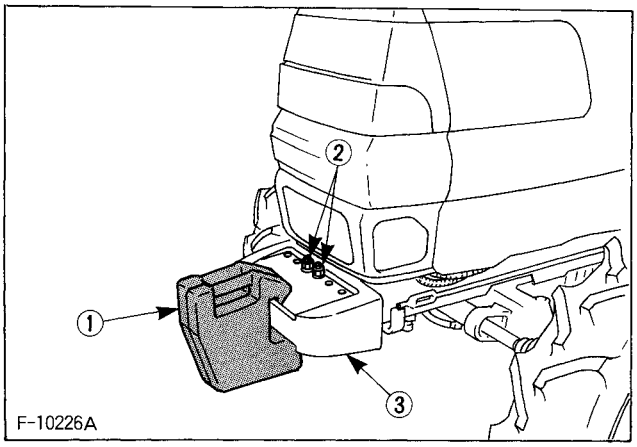
＊トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重がトラクタ質量の20％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

■ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆前部ウエイトの取付け方法

トラクタのフロントバンパにウエイトをひっかけ，付属のボルト，ナットで固定します。
ウエイト1枚の重量は25kgで1～6枚取付けできます。



①前部ウエイト
②ボルト，ナット，ザガネ
③フロントバンパ

キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

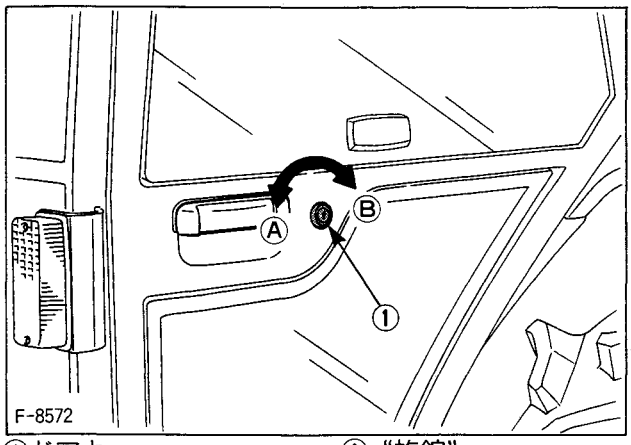
注　意

＊リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ガラスを破損させるおそれがありますのでキャブ内には物を載せないでください。
＊ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

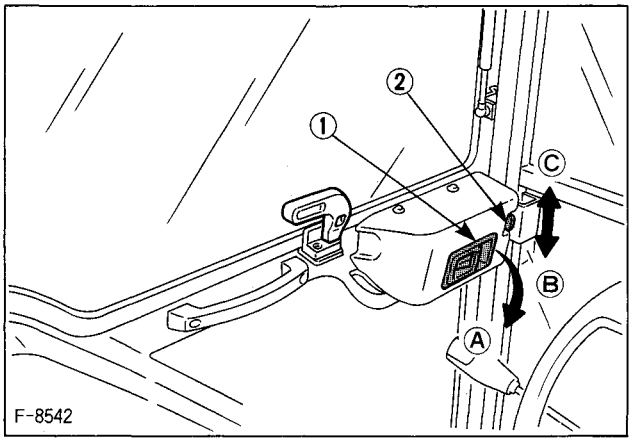
◆ドアの開閉とロック

車外から……キー（専用キー）を回すと**“施錠”** **“解錠”**されます。
ドアアウタハンドルを引き，開けます。



①ドアキー　　Ⓐ “施錠”
Ⓑ “解錠”

車内から……ロックノブを下げると**“旋錠”**，上げると**“解錠”**されます。
インナハンドルを引き，開けます。



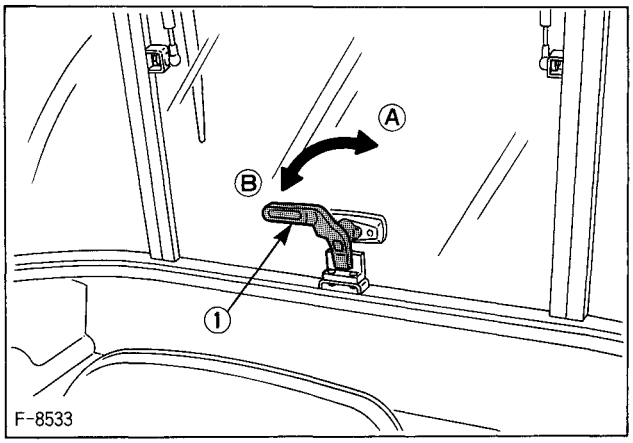
①ドアインナーハンドル　　Ⓐ “開く”
②ロックノブ　　Ⓑ “施錠”
Ⓒ “解錠”

補　足

＊ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。



①リヤウインドハンドル　　Ⓐ “開”
Ⓑ “閉”

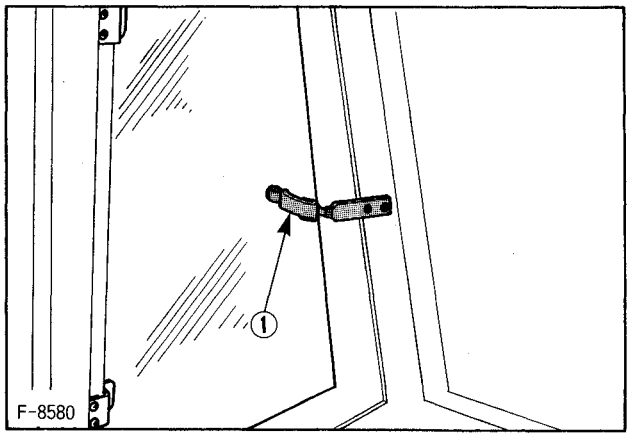
重　要

＊作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■サイドウインド

【GL350・430仕様】

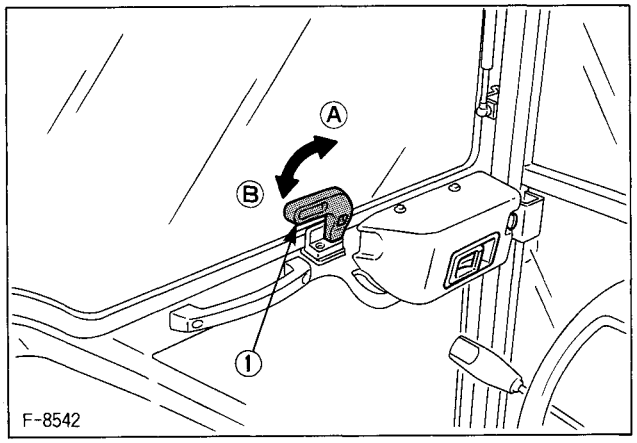
止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。



①止め金具

【GL400・470・530・600仕様】

ハンドルを反時計方向に回し，そのまま押すと開きます。



①サイドウインドハンドル　　Ⓐ “開”
Ⓑ “閉”

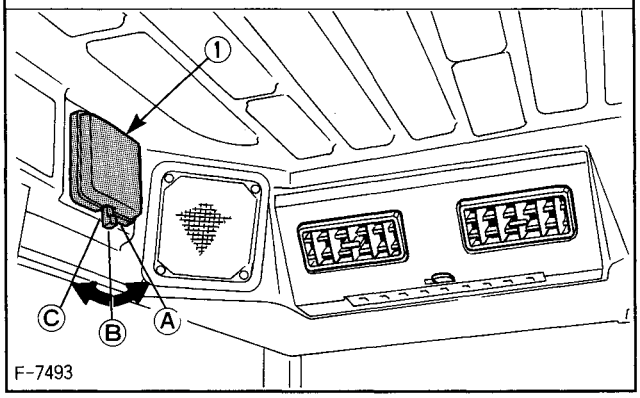
■ルームランプ

“OFF” ……常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

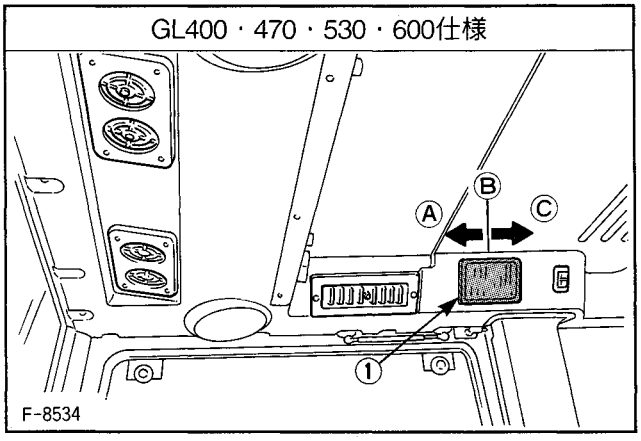
“DOOR” ……＊ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。
【GL400・470・530・600仕様】
＊左ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプが消灯します。　【GL350・430仕様】

“ON” ……ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様



①ルームランプ　　Ⓐ “ON”
Ⓑ “DOOR”
Ⓒ “OFF”

補　足

＊ルームランプカバーを横方向にスライドさせることにより，スイッチが作動します。
【GL400・470・530・600仕様】

ワイパ

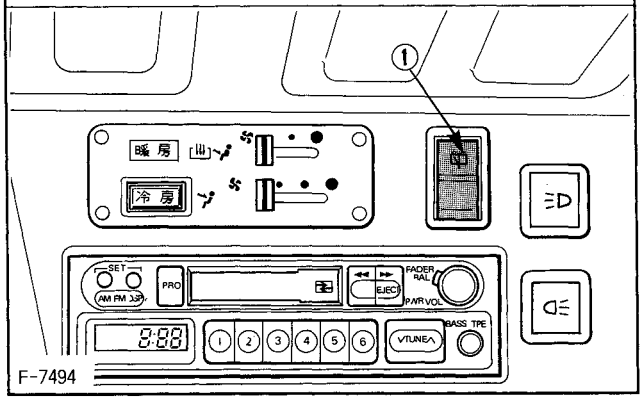
■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

マークを1段押すとワイパが作動します。さらに2段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
また，ワイパが **“OFF”** の状態でもOFFマークを押すと，押している間ウォッシャ液が噴射します。
マークはライト点灯時点灯します。

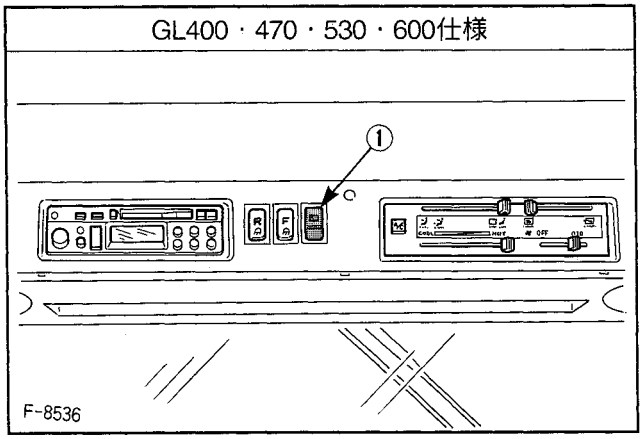
補 足

＊からぶきはガラスを傷つけることがあります。
必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様

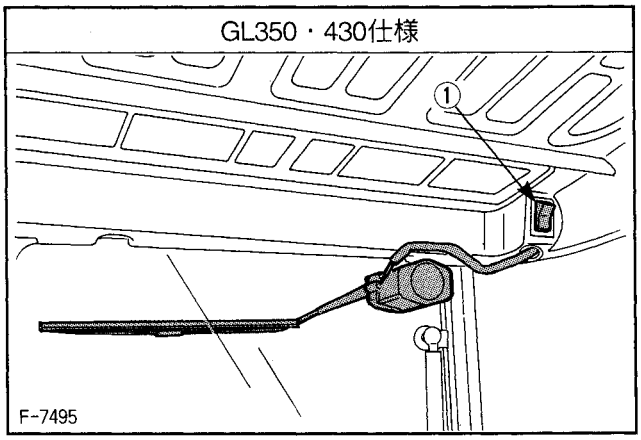


①フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

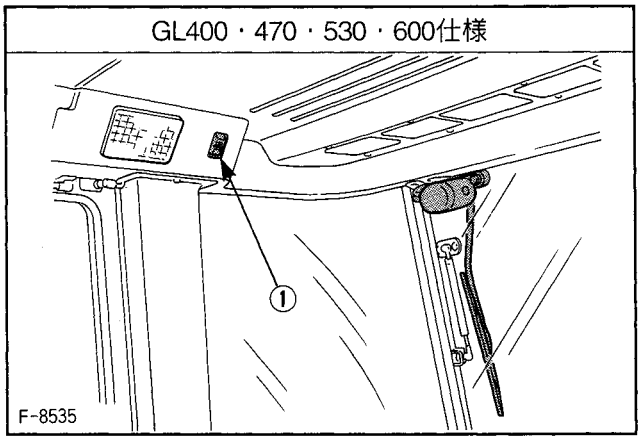
■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

取扱いはフロントワイパと同様です。

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様



①リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

作業灯

作業灯……前後４灯

【GL350・430仕様】

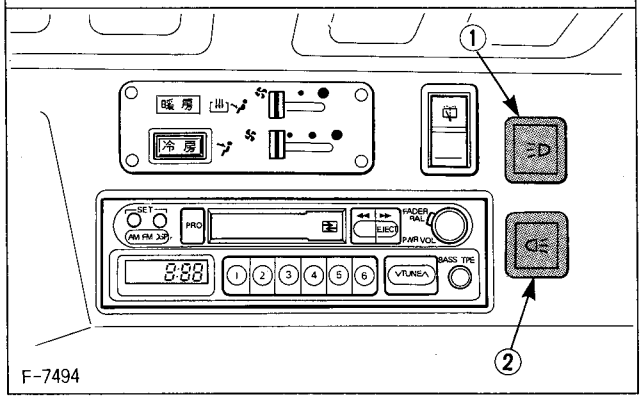
キースイッチ“ＯＮ”位置にして作業灯スイッチを押すと作業灯が点灯します。再度押すと消灯します。

【GL400・470・530・600仕様】

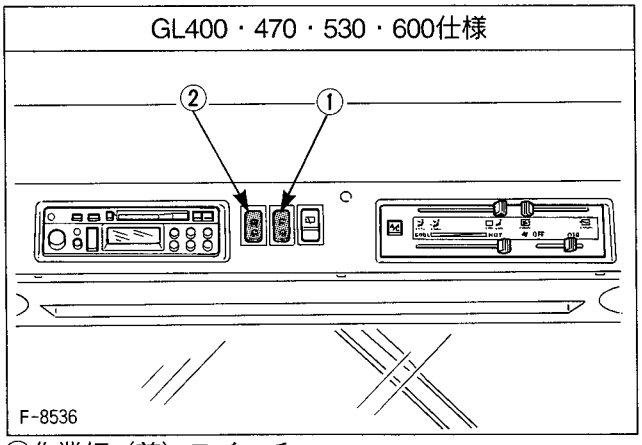
キースイッチ“ＯＮ”位置にして，作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯します。下側を押すと消灯します。

■作業灯スイッチ

GL350・430仕様

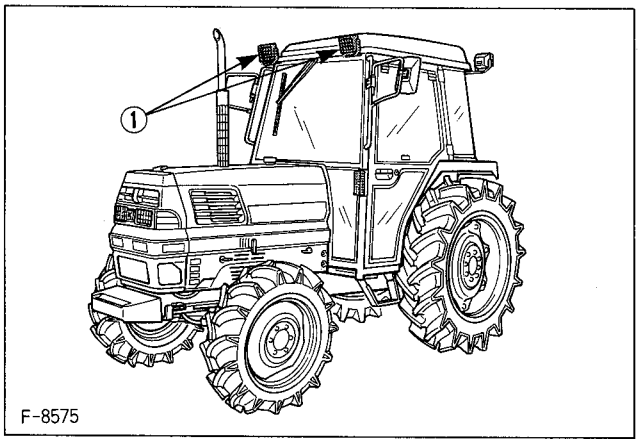


GL400・470・530・600仕様



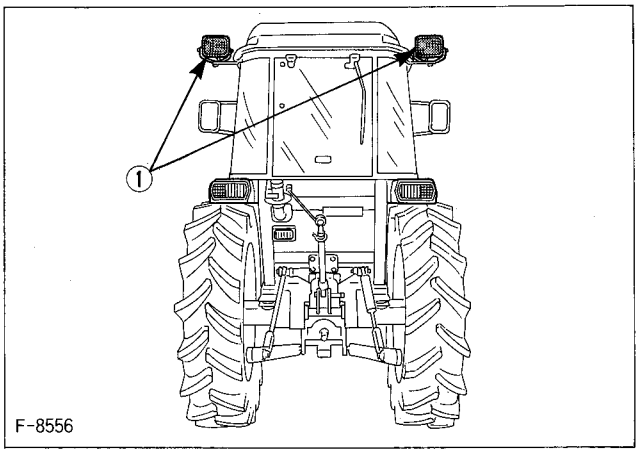
①作業灯（前）スイッチ
②作業灯（後）スイッチ

■作業灯（前）



①作業灯（前）

■作業灯（後）



①作業灯（後）

重　要

＊バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1800min^{-1} (rpm)以上にしてください。

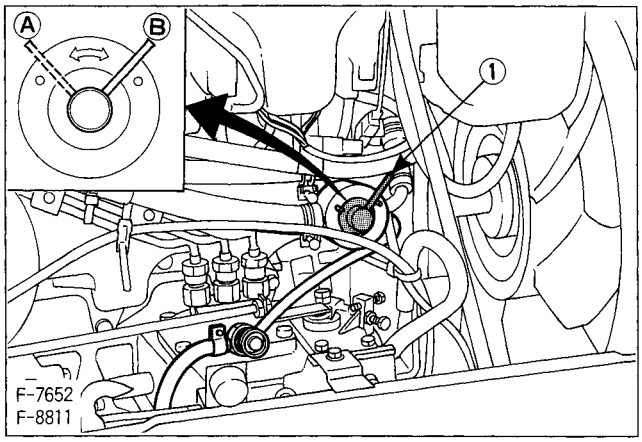
補　足

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

ヒータ【Q1仕様】

■ヒータ用コック

ヒータを使用するときは，コックを全開（時計方向に回す）にします。
夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，コックを閉じておいてください。



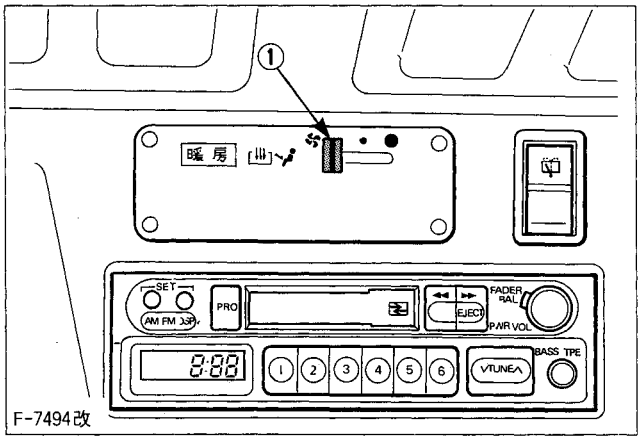
①コックレバー　　Ⓐ “夏期”
Ⓑ “冬期”

重　要

＊水量をチェックするときは，コックを全開にして行なってください。

■ヒータスイッチ

風量を（弱）（強）の2段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。



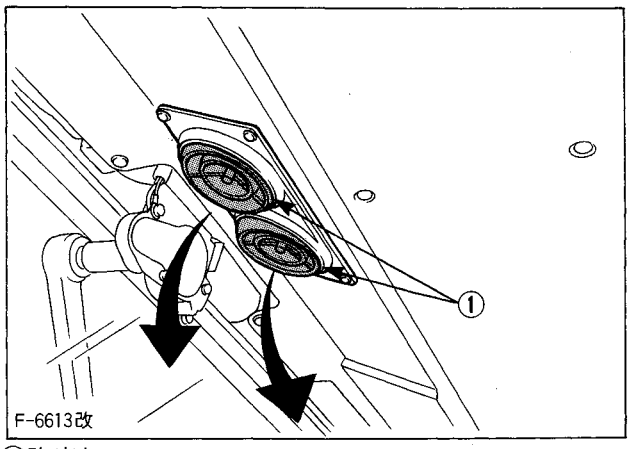
①ヒータスイッチ

補　足

＊暖機運転をした後ヒータスイッチを**“弱”**にしてください。
また，室温が上昇中にガラスが曇ればやわらかい布で水気をふきとってください。
＊ヒータの吹出し口をふさがないようにしてください。故障の原因になります。

■風向調整

温風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。



①吹出し口

■ヒータ使用上の注意

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
   また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
   (冷却水の排水のしかたは，**“2年ごとの点検・整備”**の**“冷却水の交換”**の項を参照してください。)
3. ウォータホースは2シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
   次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
   （ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）
   ＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ，
   ＊ウォータホースジョイント部の水漏れ
   ＊ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
   ＊本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損
5. ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

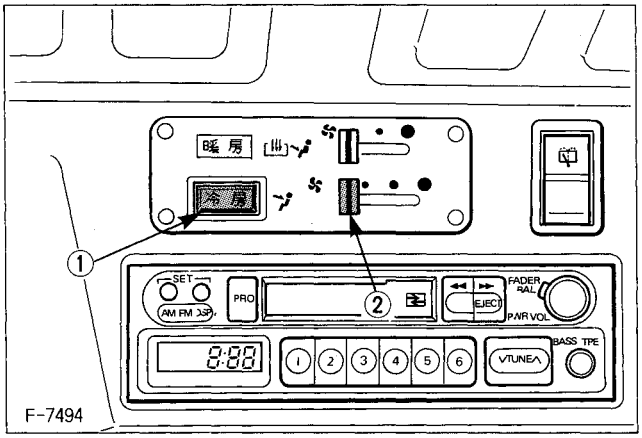
クーラ・ヒータ【GL350·430Q3仕様】

クーラの取扱い

■スイッチ

◆ファンスイッチ
風量を（弱）（中）（強）の3段階に調整できます。室内の温度によって使い分けてください。

◆クーラスイッチ
クーラを使うときは，スイッチを押して“ＯＮ”にします。（スイッチ内のランプが点灯します）再度スイッチを押すと“ＯＦＦ”になります。

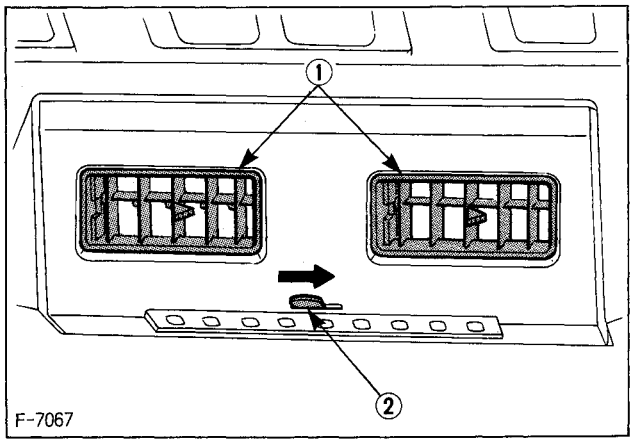


①クーラスイッチ
②ファンスイッチ

■風向調整

◆モードレバー
モードレバーを矢印方向に開くと，冷風は足元方向にも吹出します。

◆ルーバー
冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調節できます。

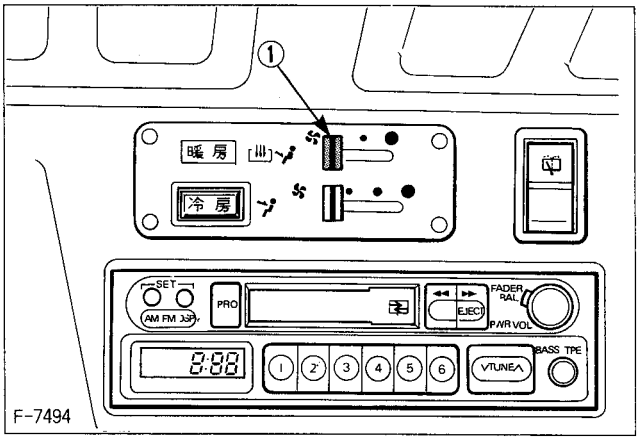


①ルーバー
②モードレバー

ヒータの取扱い

■ヒータスイッチ

風量を（弱）（強）の２段階に調節できます。
室内の温度によって使い分けてください。



①ヒータスイッチ

■除湿暖房

フロントガラスのくもり除去や室内の除湿暖房を行なうときは，クーラとヒータを同時に使用してください。最適のコンディションが得られます。

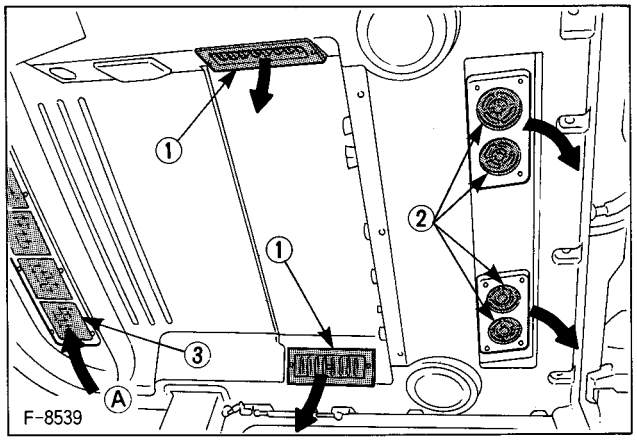
補　足

＊その他ヒータに関する取扱いは，前ページを参照ください。

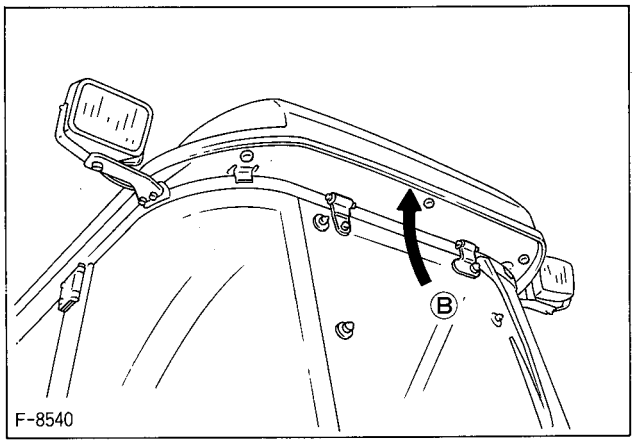
エアコン
【GL400・470・530・600Q$_3$仕様】

■空気の流れ

キャビン内の空気の流れは下図のとおりです。４カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。

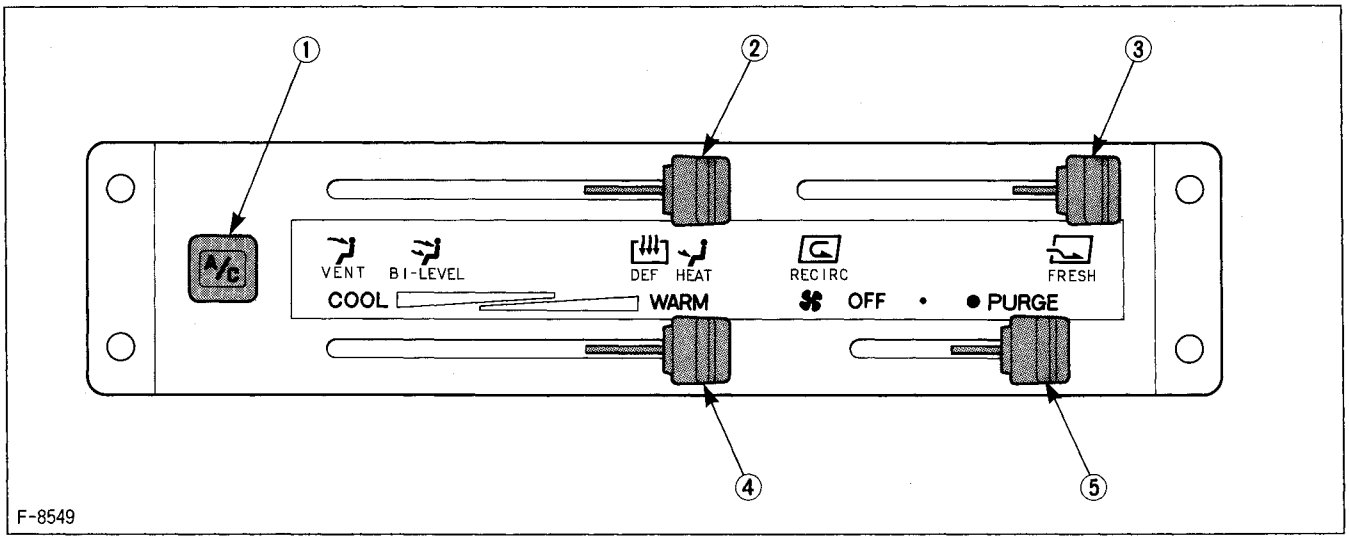


①サイド吹出口　　Ⓐ内気循環
②フロント吹出口
③室内エアーフィルタ



Ⓑ外気導入

■コントロールパネルの説明



①エアコンスイッチ
②モードレバー
③内外気切換えレバー
④温度コントロールレバー
⑤ファンスイッチ

◆モードレバー

使う目的に応じて位置を選んでください。

換気

VENT　顔面……夏期は扇風機として使えます。
胸元　エアコンをつけたときは，冷房する位置。

頭寒足熱

BI-LEVEL　胸元……顔が涼しく足元が暖かい，快適な空調が得られます。
足元　空調が得られます。

くもり取り

DEF　フロント……ウインドガラスのくもりを取るガラス　ときの位置。

通常暖房

HEAT　足元……暖房するときの位置です。

◆内外気切換えレバー

内気循環

RECIRC ……レバーをこの位置にすると外気は入りません。いやな臭いやほこりが入るときは，この位置にします。

外気導入

FRESH ……レバーをこの位置にすると外気が入ってきます。暖房にするときは，この位置にします。

◆温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

◆ファンスイッチ

風量が３段階に切換えられます。 PURGE は最も風量の多い位置です。

◆エアコンスイッチ

エアコンを使うときは，このスイッチを押して“ＯＮ”にします。“ＯＮ”のとき，インジケータランプが点灯します。

■取扱操作方法

◆暖房

室内を暖房するとき，HEAT，FRESH，にセットします。暖かくなりすぎるときはのスピードを下げるか，温度コントロールレバーを左に寄せてください。
外の空気が汚れているときはRECIRCに切換えますが，ガラスがくもりやすくなるので，長時間の使用は避けてください。

◆除湿暖房

室内の除湿をするときは，各レバーを，DEF，FRESH，にセットし，エアコンスイッチを“ON”にしてください。

◆デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは，DEF，FRESH，にセットし，吹出口（前２カ所）をフロントガラスに向けてください。

◆換気，冷房

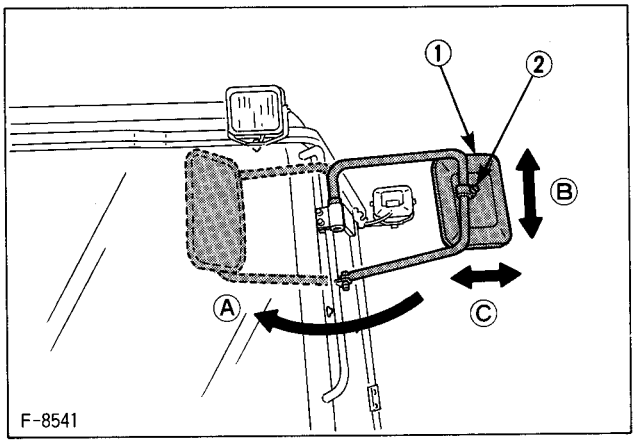
換気したいときはBI-LEVEL，FRESH，にセットします。
冷房するときはFRESHをRECIRCにしたのち，エアコンスイッチを“ON”にしてください。

◆頭寒足熱

顔が涼しく，足元が暖かい快適な状態を得るには，BI-LEVEL，FRESH，にセットし，エアコンスイッチを“ON”にし，温度コントロールレバーは中間位置を使用してください。

バックミラーの調節・格納

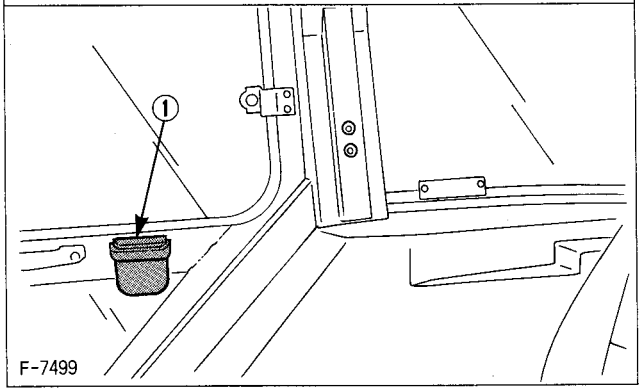
1. バックミラーは，上下・左右に調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. バックミラーは，格納できますので狭い場所などで利用してください。



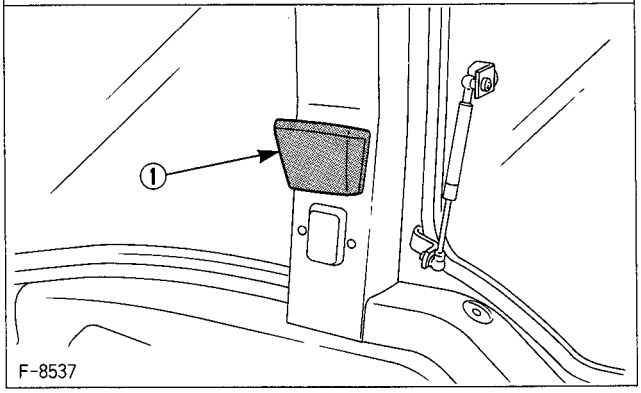
①バックミラー　Ⓐ “格納”
②調整ボルト　Ⓑ “上下”
Ⓒ “左右”

灰皿

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様



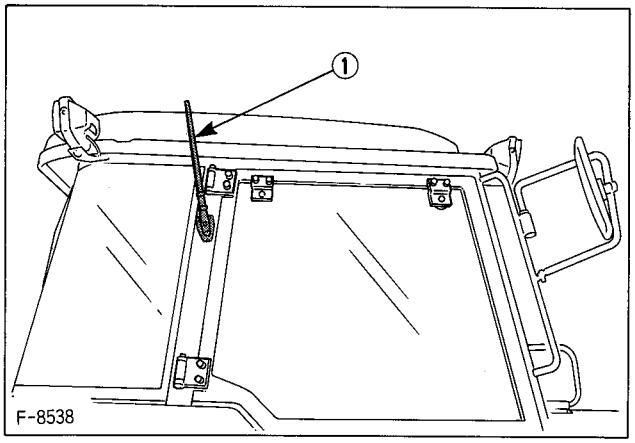
①灰皿

ラジオ

注 意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

■アンテナ



①アンテナ

重 要

＊アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

■AM／FMラジオ付きカセットプレーヤ

操作方法は，巻末に記載しておりますので参照してください。

インプルメントの装着

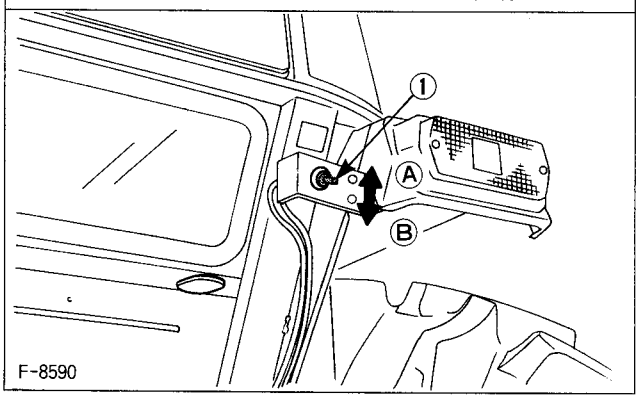
■モンローマチック手動スイッチ【M・MA・MAD仕様】

注 意

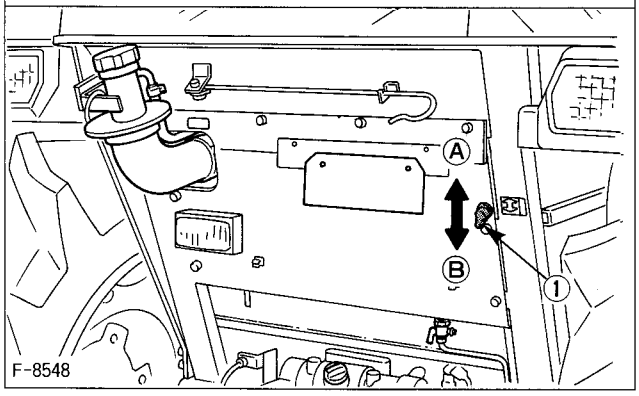
＊インプルメント装着後は，特に機械に巻込まれるおそれがありますので操作しないでください。

このスイッチを操作しリフトシリンダを伸縮させると，三点リンク用インプルメントの着脱が容易に行なえます。
スイッチの取扱い方法は，**“モンローマチック手動スイッチ”**の項を参照してください。

GL350・400・430・470・530仕様



GL600仕様

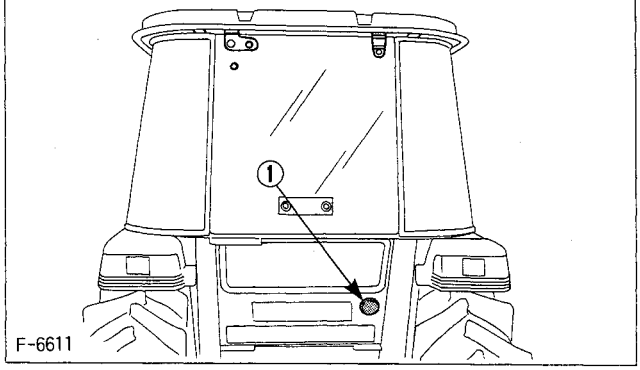


①スイッチ　　Ⓐリフトシリンダが**“縮み”**ます
Ⓑリフトシリンダが**“伸び”**ます

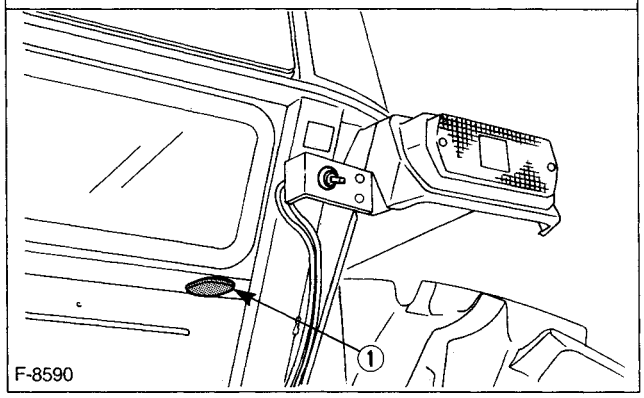
■インプルメント用操作ボックスの組付け

ゴムキャップに穴を開け，インプルメント用操作コード・油圧ホースなどをキャブ室内に導入してください。

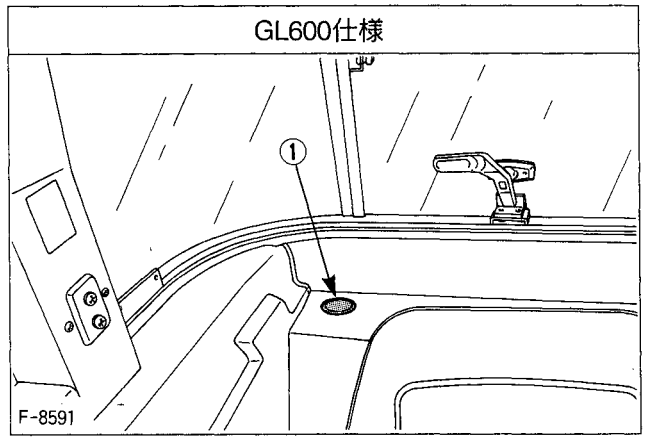
GL350・430仕様



GL400・470・530仕様

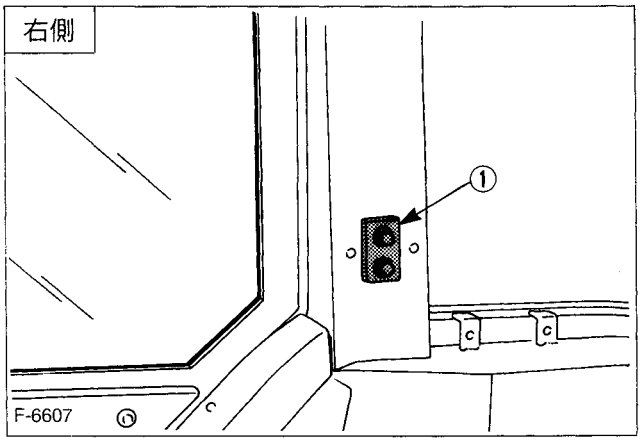


GL600仕様



①ゴムキャップ

右側



①ローダ用操作ボックス取付け位置

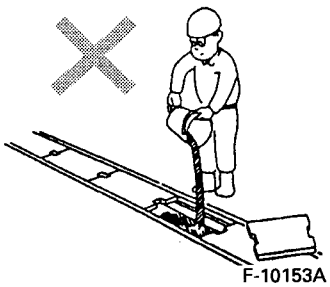
トラクタの簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは
❶トラクタを平たんな広い場所に置き
❷作業機を降ろし
❸駐車ブレーキをかけ
❹エンジンを止め
❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

＊抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
＊廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。


F-10153A

定期点検箇所一覧表〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間															それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	
1	エンジンオイル	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	71
2	エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	75
3	油圧オイルフィルタカートリッジ	交換		◎		○				○				○				○	200時間ごと	76
4	ミッションオイル	交換		◎						○								○	400時間ごと	80
5	前車軸ケースオイル	交換						○						○					300時間ごと	79
6	グリースの注入	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	69
7	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	69
8	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	70
9	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	70
10	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	70
11	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	71
12	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	73
		交換																	1年ごと	82
13	燃料フィルタエレメント	交換								○								○	400時間ごと	81
14	ファンベルト	調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	73
15	クラッチペダル	調節	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	74
16	ブレーキペダル	調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	74
17	停止ソレノイドリンク	注油																	1年ごと	82
18	ラジエータホース	点検				○				○				○				○	200時間ごと	76
		交換																	2年ごと	83
19	パワーステアリングオイルホース	点検				○				○				○					200時間ごと	77
		交換																	2年ごと	83
20	燃料パイプ	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	75
		交換																	2年ごと	83
21	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○				○	200時間ごと	77
22	エンジンバルブクリアランス	調節																○	800時間ごと	82
23	前部デフケース前後遊び	調節												○					600時間ごと	81
24	ラジエータ(クーリングシステム)	洗浄																	2年ごと	83
25	冷却水	交換																	2年ごと	82
26	クラッチワイヤ	交換																	2年ごと	83
27	燃料の空気抜きのしかた	—																	必要に応じて	84
28	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	85
29	ランプ類	交換																	必要に応じて	85

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。

【キャブ仕様】

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間															それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	
1	内気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	78
2	外気フィルタの詰まり【大特Q3仕様】	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	78
3	コンデンサの詰まり	清掃				○				○				○				○	200時間ごと	79
4	エアコン／クーラベルトの張り	調節				○				○				○				○	200時間ごと	79
5	ヒータ配管，ホース	点検																	1年ごと	82
6	エアコン／クーラ配管，ホース	点検																	1年ごと	82
7	ウォッシャ液	補充																	必要に応じて	86
8	各部への注油	―																	必要に応じて	86

給油（水）一覧表

No.	給油（水）項目	容量（L）						備考
		GL350	GL430	GL400	GL470	GL530	GL600	
1	燃料	50					65	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油
2	冷却水	7.5	7.5	8.5	9.3			清水　不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。
3	エンジンオイル	6.7	6.7	8.2	9.1			クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)
4	ミッションオイル（油圧オイル）	36						クボタ純オイルスーパーＵＤＴ
5	前車軸ケース	6.0						
6	各操作レバーペダル支点	注油						
7	三点リンク	注入・塗布						シャーシグリース
8	バッテリターミナル	塗布						
9	倍速カム	塗布						
10	ウォッシャ液【キャブ仕様】	1		2.5				自動車用ウォッシャ液

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイル
日本石油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 ターボ付エンジンは D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD	クボタ純オイルスーパーUDT	クボタ純オイルM90 又は クボタ純オイルM80B
コスモ石油			
ジャパンエナジー			
昭和シェル石油			
富士興産			

■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソスタンダード石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホーイルベアリング HDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

フロントグリル及びサイドカバーの外し方

注　意

＊エンジン回転中は絶対にサイドカバーを開けないでください。
＊マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■フロントグリル及びサイドカバー

注　意

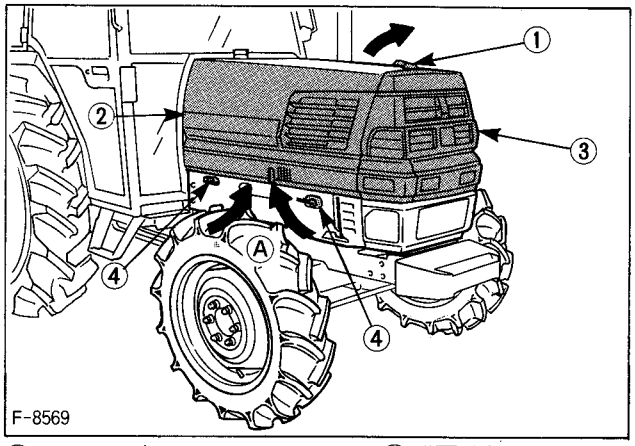
＊ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

❶フロントグリルはマスコットを回すと外れます。

補　足

＊フロントグリルを外す場合，ヘッドライトの配線コネクタを外してください。

❷サイドカバーはロックハンドルを回すと外れます。



①マスコット　　Ⓐ “回す”
②サイドカバー
③フロントグリル
④ロックハンドル

日常点検

注　意

＊火気厳禁
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴き出してヤケドをすることがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2.トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

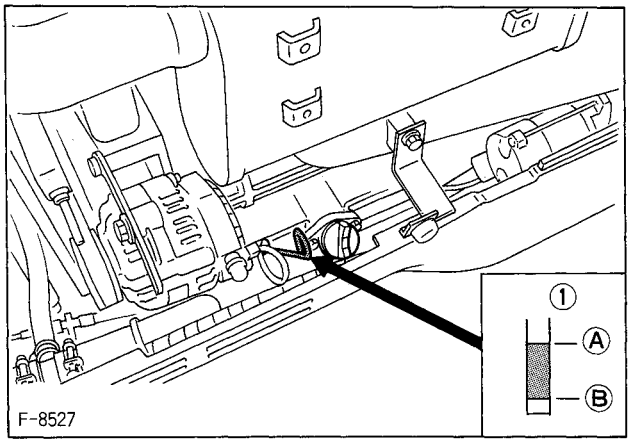
■エンジンオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。



①オイルゲージ　Ⓐ“上限”　Ⓑ“下限”

重 要

＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

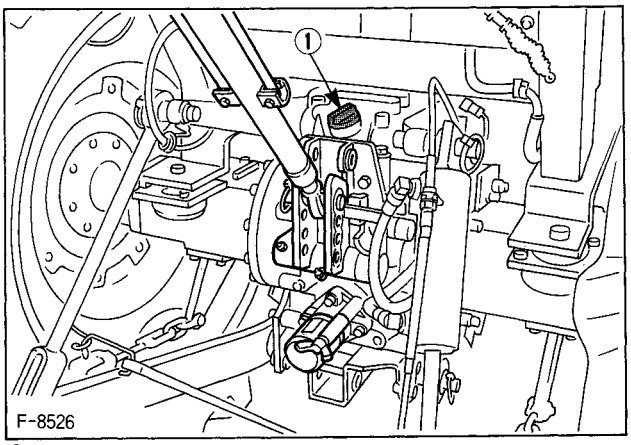
■ミッションオイルの量及び汚れ

注 意

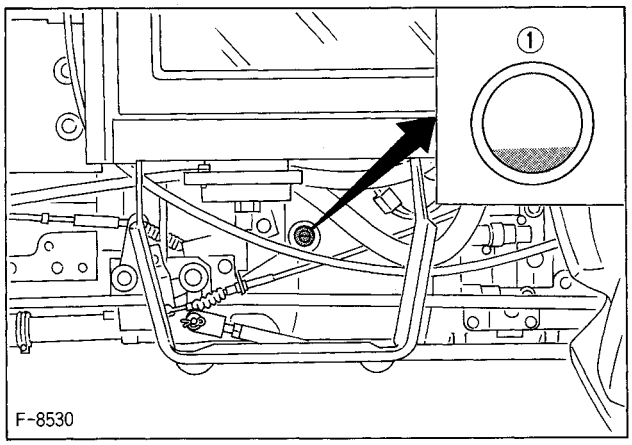
＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶エンジン始動後，オイルレベルが検油窓にあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

❷検油窓以下の場合は補給が必要ですが，検油窓以上には入れないでください。（油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。）



①給油口



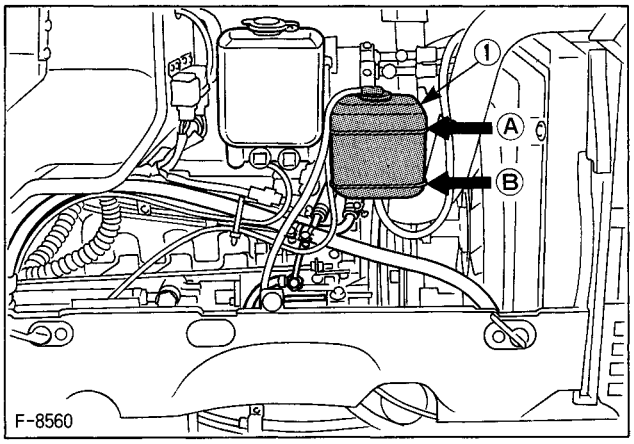
①検油窓

■冷却水の量

注　意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。
FULL以上は入れないでください。



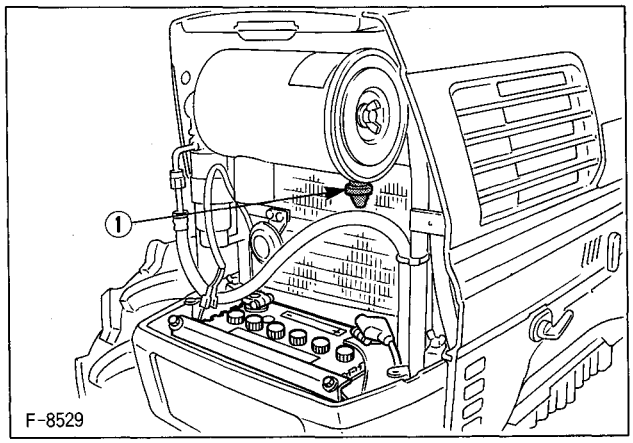
①リザーブタンク　Ⓐ “FULL”　Ⓑ “LOW”

補　足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアークリーナを掃除してください。



①バキュエータバルブ

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら燃料フィルタコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

❶燃料フィルタコックを“OFF”にしてください。

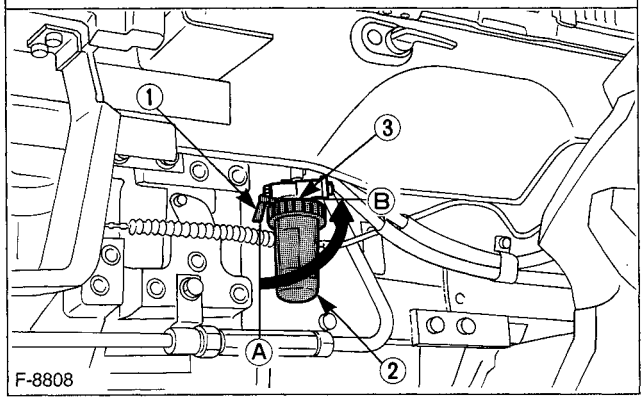
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

重　要

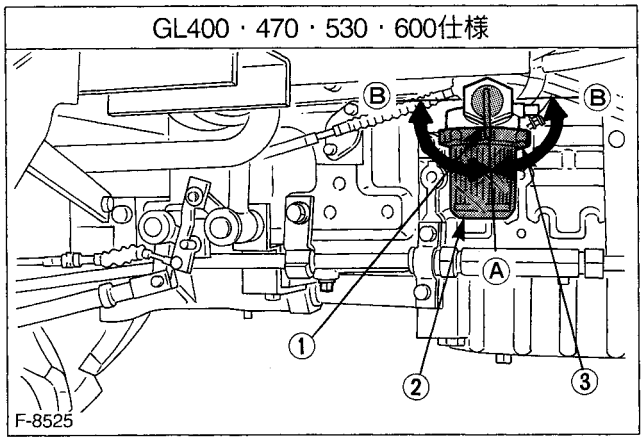
＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

＊エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。
（**“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照）

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様



①燃料フィルタコック　Ⓐ“ON”
②燃料フィルタ　Ⓑ“OFF”
③リテーナリング

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

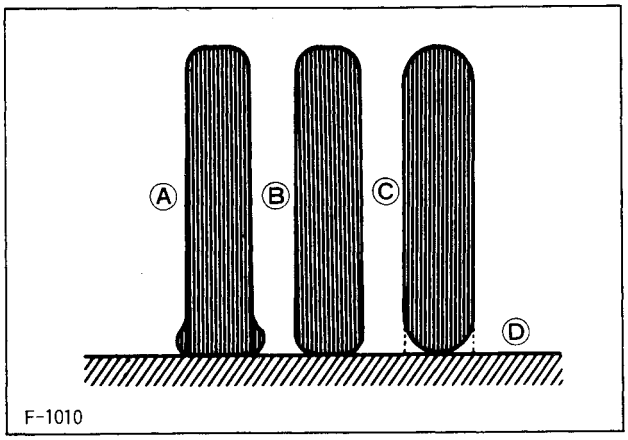
警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

＊タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

【　】内はローダ装着時

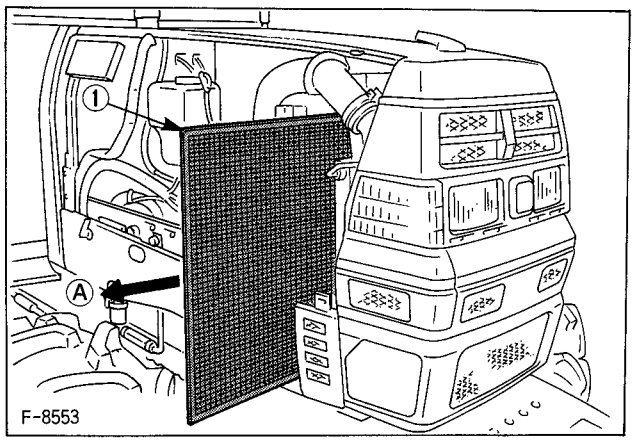
		タイヤの呼び	空気圧kPa(kgf/㎠)
前　輪		8-18-4PR 8.3-20-4PR	160 (1.6)【200 (2.0)】
後輪	GL430	13.6-26-4PR	100 (1.0)
	GL470	13.6-28-4PR	
	GL350 GL400	12.4-28-4PR	120 (1.2)
	GL530 GL600	12.4-32-4PR	

■防虫網の清掃

注 意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
防虫網を引出して掃除します。



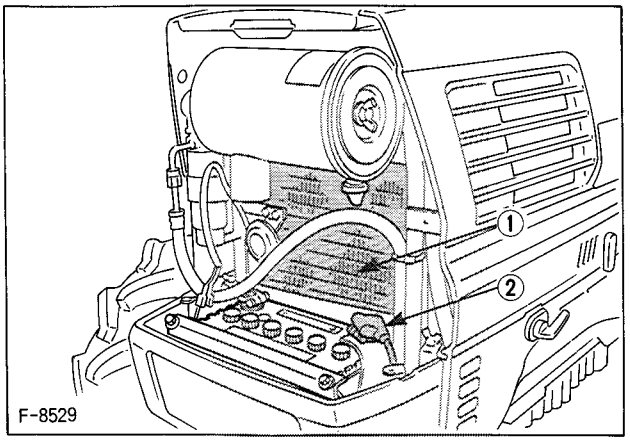
①防虫網　　Ⓐ “引出す”

■防虫網の清掃（コンデンサ用）

エアコン／クーラ仕様では，ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。
防虫網は下側より巻上げ清掃してください。清掃後は，必ずコンデンサに沿って伸ばしておいてください。

重 要

＊バッテリの⊕端子に触れないように特に注意してください。



①防虫網
②⊕端子

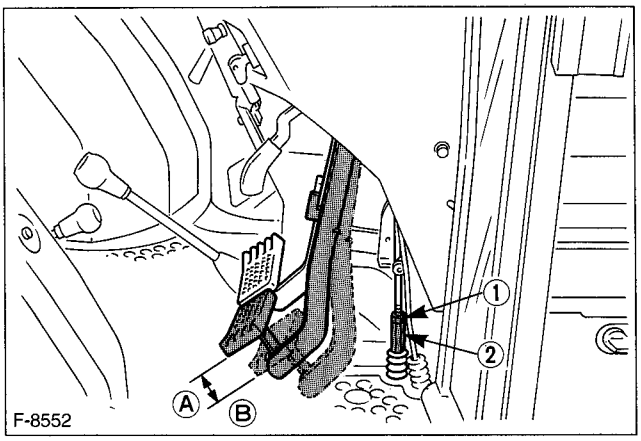
3.運転席に座って

■ブレーキペダルの遊び・点検

警 告

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

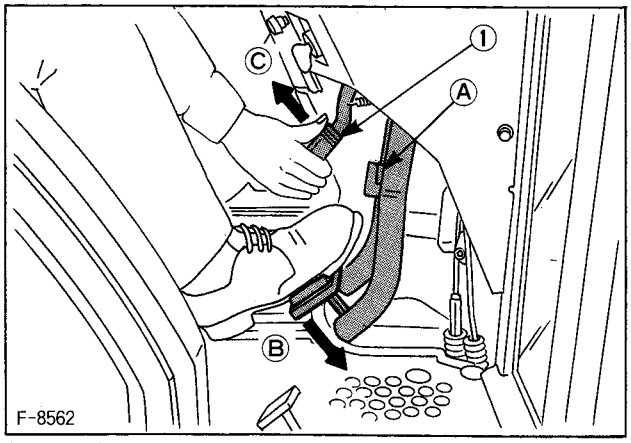
ペダルを踏んで遊び量が**“20～30㎜”**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**5㎜以内**かどうかを調べます。



①ナット
②ターンバックル
Ⓐ遊び
Ⓑこの位置での左右差 5㎜以内

■駐車ブレーキの作動点検

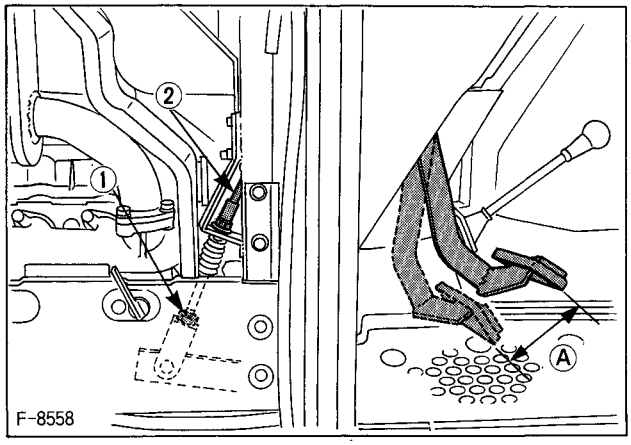
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**“上げ”**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



①駐車ブレーキ レバー
Ⓐ “連結金具をかける”
Ⓑ “踏み込む”
Ⓒ “上げる”

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が“20～30㎜”あるか確認してください。



①ロックナット　　Ⓐ遊び
②ワイヤ

重　要

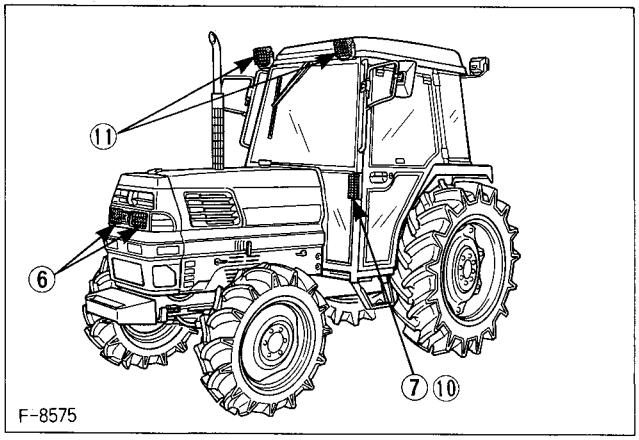
＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起し損傷につながります。

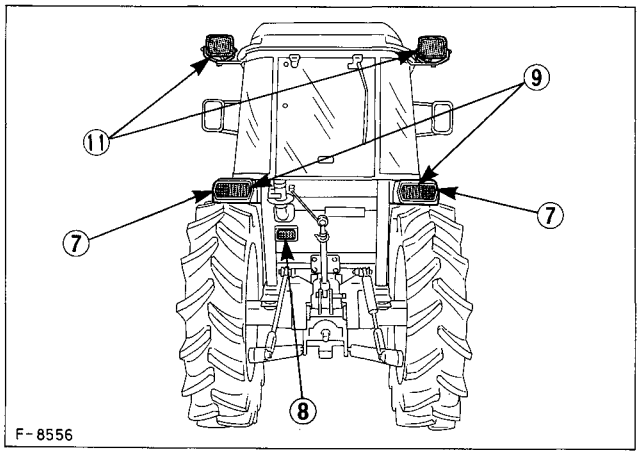
4.エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

①燃料計
②水温計
③エンジン回転計
④ホーン
⑤イージーチェッカ
⑥ヘッドライト
⑦ウインカ(前・後)
⑧後退灯【GL400・470・530・600仕様】
⑨尾灯(駐車灯)，制動灯
【GL400・470・530・600仕様】
⑩車幅灯(駐車灯前)【GL400・470・530・600仕様】
⑪作業灯





5.燃料の補給

注　意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

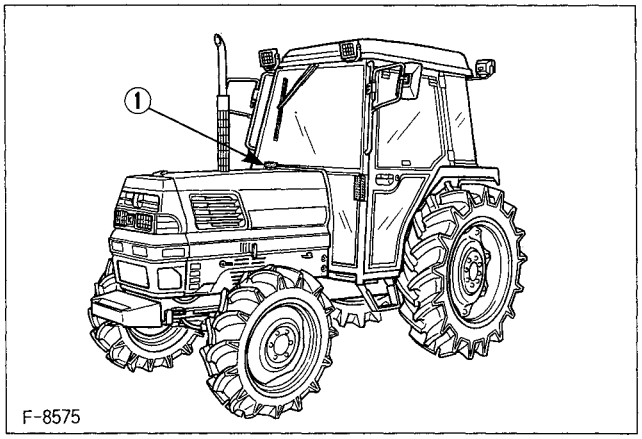
燃料には，**“クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油”**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特　1　号	+5以上
1　　号	0及び－5
2　　号	－10
3　　号	－15及び－20
特　3　号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

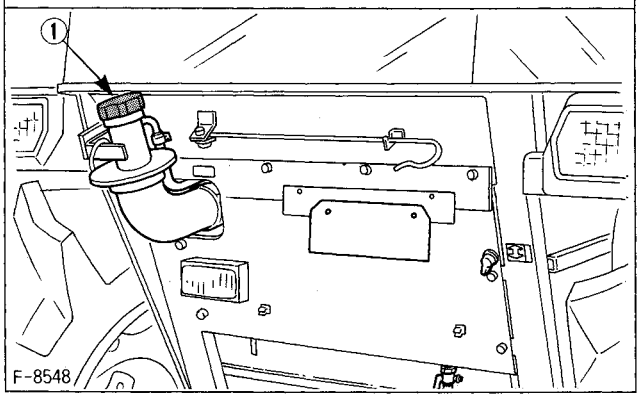
補　足

＊GL600仕様はメインタンク，補助タンクの両方に給油してください。運転中はメインタンク，補助タンクの両方から同時に燃料が消費されます。



①燃料給油口

GL600仕様



①補助タンク給油口

重　要

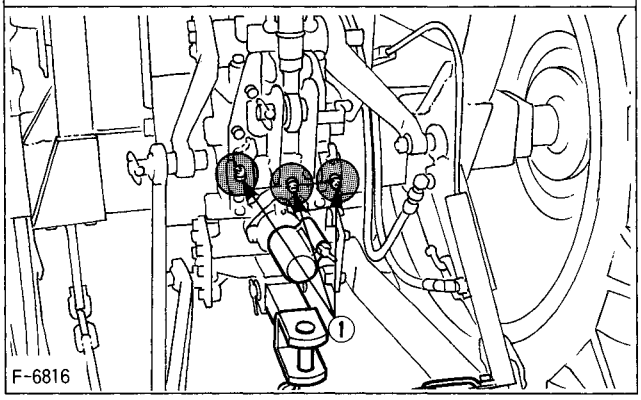
＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

50時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

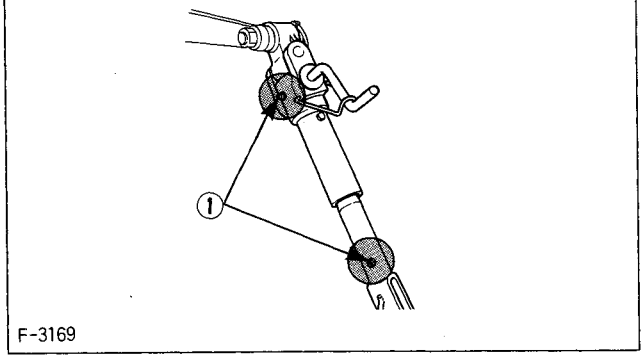
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。

MAD仕様

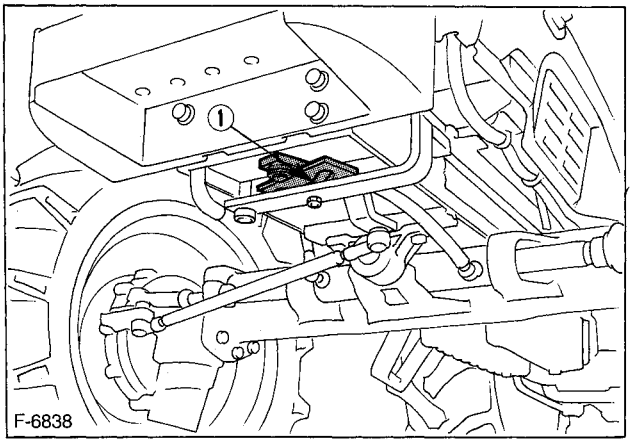


①トップリンクブラケット

M・MA・MAD仕様以外



①リフトロッド（右）



①倍速カム

■エンジン始動システムの点検

注　意

＊点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。

＊装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

❶運転席に座り，主変速及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にします。

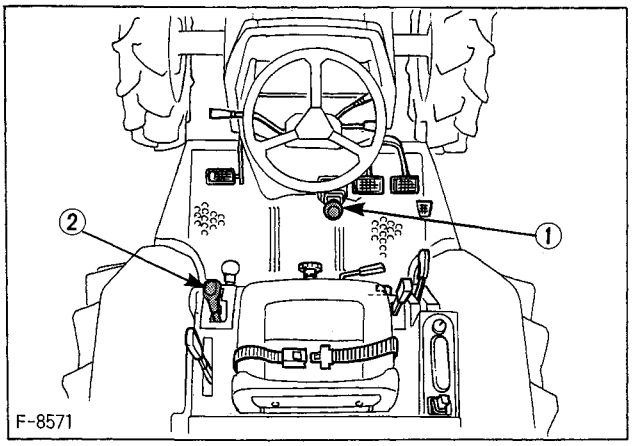
❷駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。

❸アクセルレバーを**“最低速”**位置にします。

❹クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。
この時，エンジンが回れば正常です。

❺次に，クラッチペダルから足を離し，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。
この時，エンジンが回らなければ正常です。

❻もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

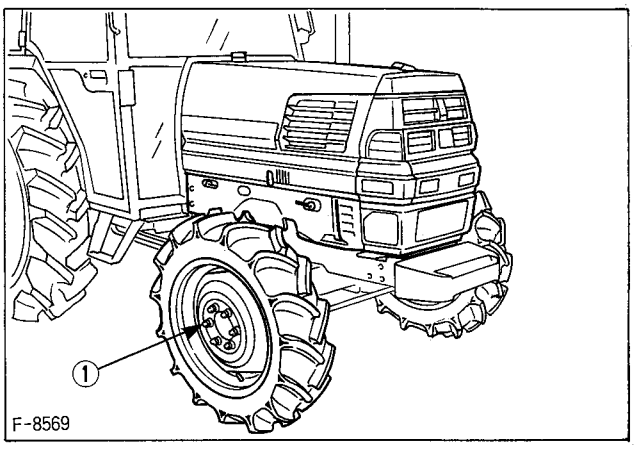


①PTO変速レバー
②主変速レバー

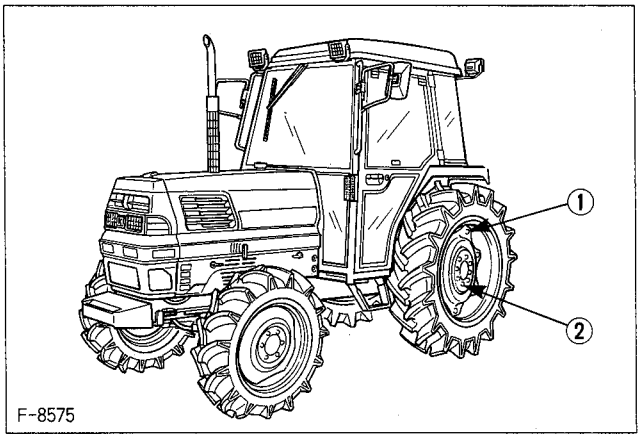
■タイヤ取付けボルトの点検

注 意

＊タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起すおそれがあります。



①ボルト／ナット



①ボルト／ナット
②ボルト／ナット

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注 意

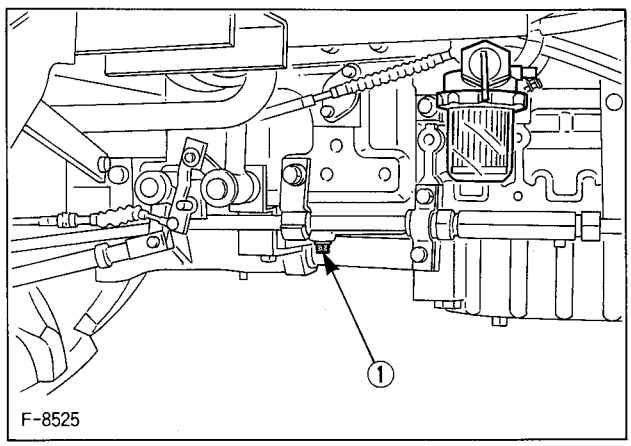
＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



①ドレーンプラグ

100時間ごとの点検・整備

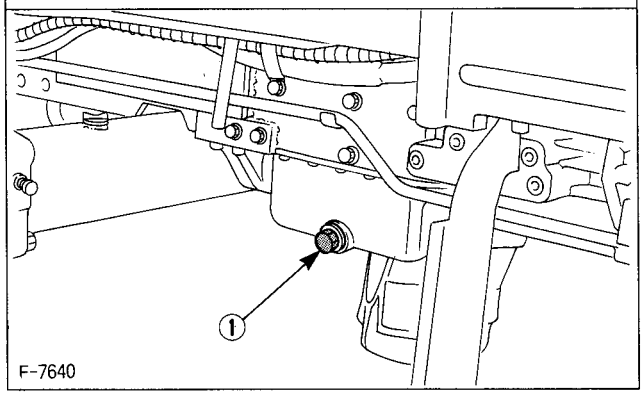
■エンジンオイルの交換

注 意

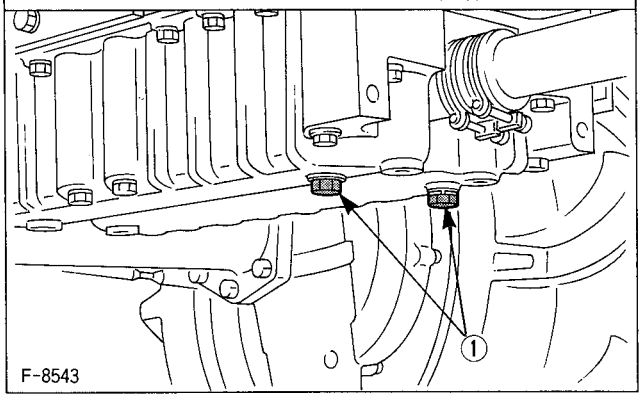
＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。

GL350・430仕様

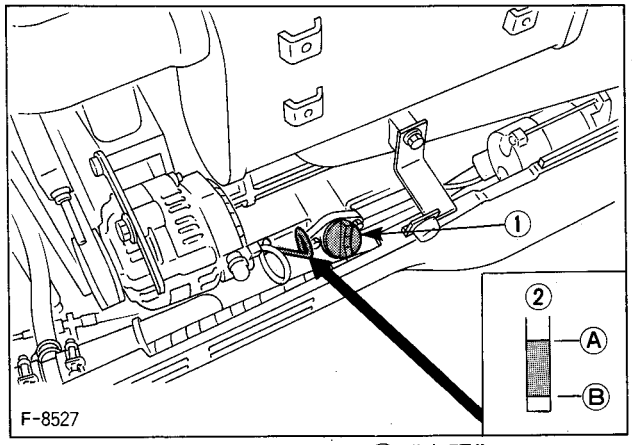


GL400・470・530・600仕様



①ドレーンプラグ

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油しやすくなります。



①エンジンオイル給油口　　Ⓐ “上限”
②オイルゲージ　　Ⓑ “下限”

重 要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから,新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

＊**GL350・430ターボ付き仕様**は，クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D30スーパーCD又はD10W-30スーパーCDを使用してください。

■バッテリ電解液の点検

警 告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。

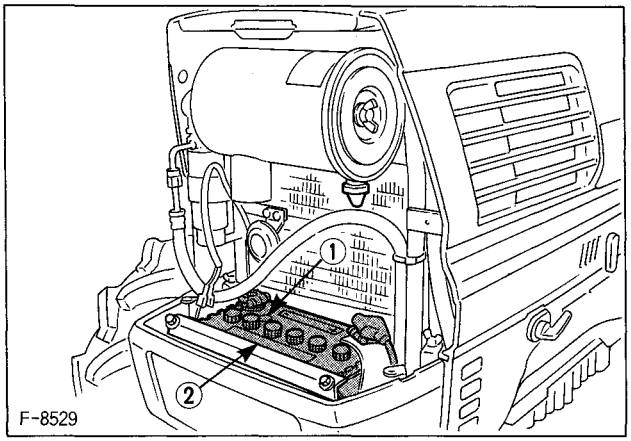
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを“OFF”(切)位置にしておいてください。

＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり，その表示状態によって蒸留水を補給，または補充電してください。



①インジケータ
②バッテリ

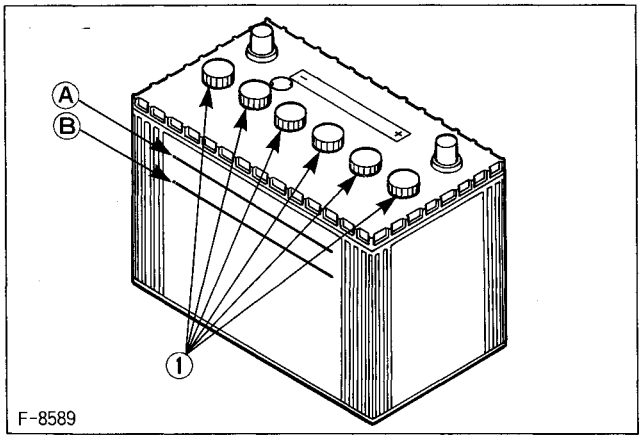
◆インジケータの見方

青…OKです。 **白**…点検してください。

インジケータ表示状態	**青**	電解液比重 電解液量	共に良好です。
	白	要点検です。 (点検順序) 1. 液面が下がっている場合 蒸留水を補水し，**青**になればそのままご使用ください。**白**のままの場合は，6～7Aの普通充電電流で補充電してください。 2. 液面が正常な場合 6～7Aの普通充電電流で補充電を行なってください。	

◆補水のしかた

❶バッテリ上フタの補水キャップを外します。
❷6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
❸キャップを元の穴にねじ込みます。



①補水キャップ　　Ⓐ "上限"　　Ⓑ "下限"

◆バッテリの取付け，取外し

注　意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（75D31R**【GL350・430仕様】**，95D31R**【GL400・470・530・600仕様】**）のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

警　告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
   コードの接続をまちがわないように注意してください。

■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

清掃方法は，エレメントの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。
乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。〔エアーの圧力は0.69MPa(7 kgf/cm²)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。〕
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，洗浄剤をご使用ください。

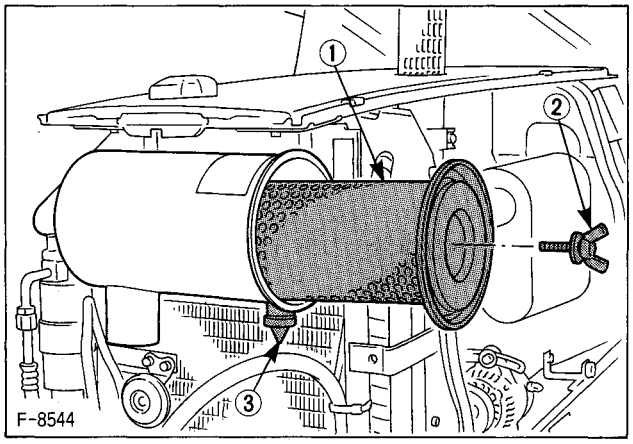
補　足

＊エレメント洗浄剤

品名	ND－1500(日本ドナルドソン製)
品番	15221－8665－1

◆エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。



①エレメント
②蝶ボルト
③バキュエータバルブ

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。

◆バキュエータバルブの清掃

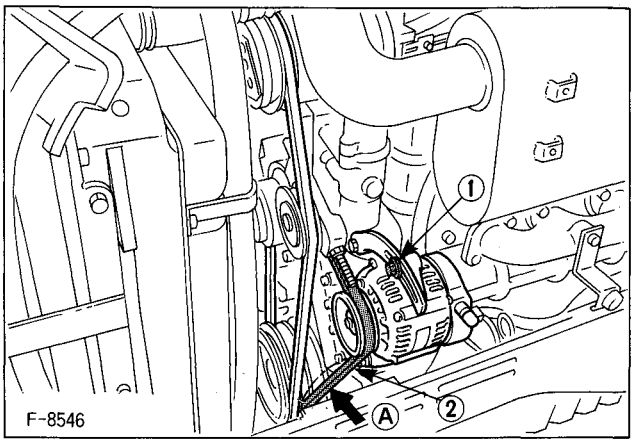
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgfの力で抑えて,約7 mmたわむ程度

◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



①ボルト　　Ⓐ “押す”
②ファンベルト

重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊き裂やはがれがあれば交換してください。

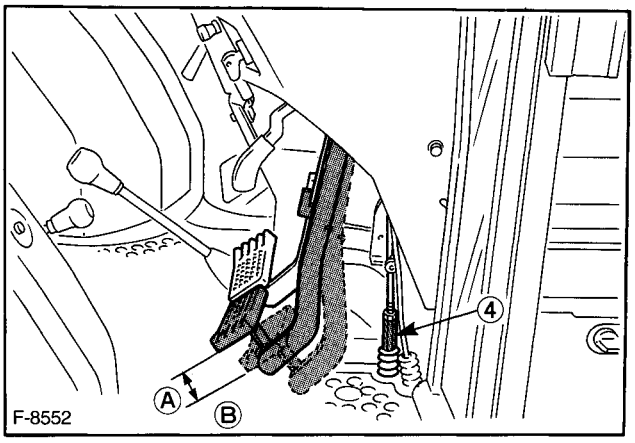
■ブレーキペダルの点検・調整

警 告

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず“5㎜以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

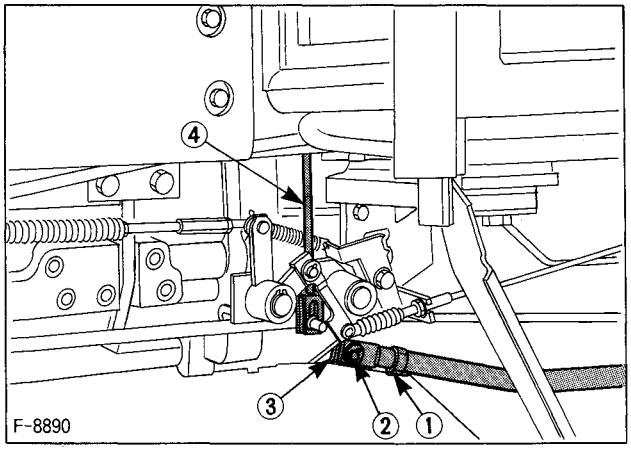
適正遊び量	ペダルで20～30mm

◆調整方法



④ターンバックル　　Ⓐ遊び
Ⓑこの位置でのペダルの左右差5㎜以内

❶駐車ブレーキを解除します。
❷ステップ下のブレーキロッドのロックナット①をゆるめる。
❸ピン②を外し，金具③を回してブレーキペダルの遊びを調整します。
❹駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。



①ロックナット
②ピン
③金具
④ターンバックル

重 要

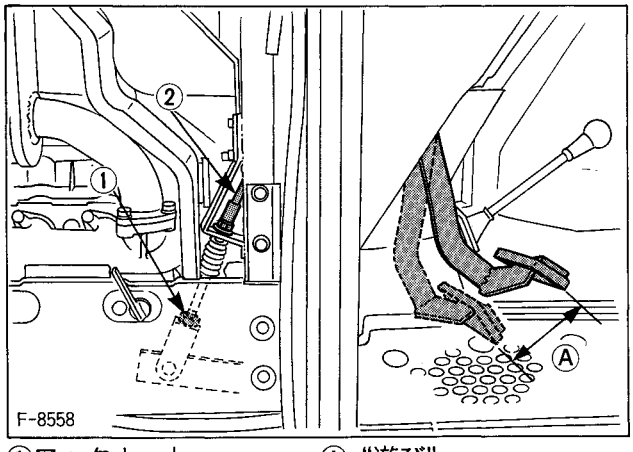
＊通常のブレーキにAD（オートディスクブレーキ）の機構が組込まれていますので，ペダルの遊び調整方法を守ってください。
＊④のターンバックルはさわらないでください。ADの調整がくるいます。

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで20～30mm

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめワイヤで，ペダルの遊びを調整します。
❷調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。



①ロックナット　　Ⓐ“遊び”
②ワイヤ

重 要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起し損傷につながります。

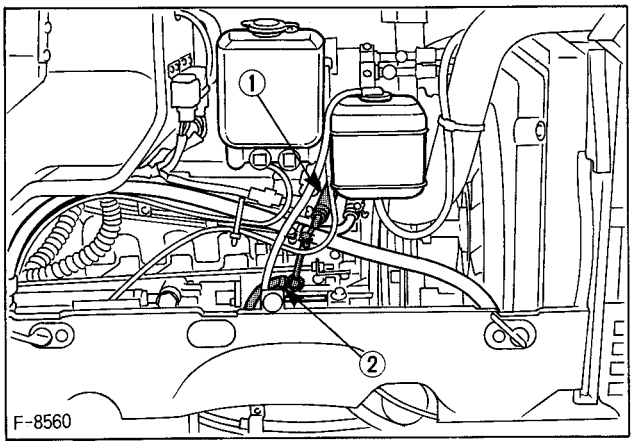
■燃料パイプの点検

注 意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照）



①燃料パイプ
②締付けバンド

重 要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

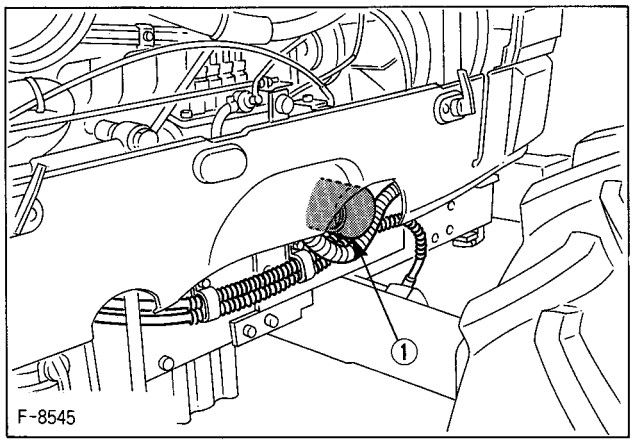
200時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

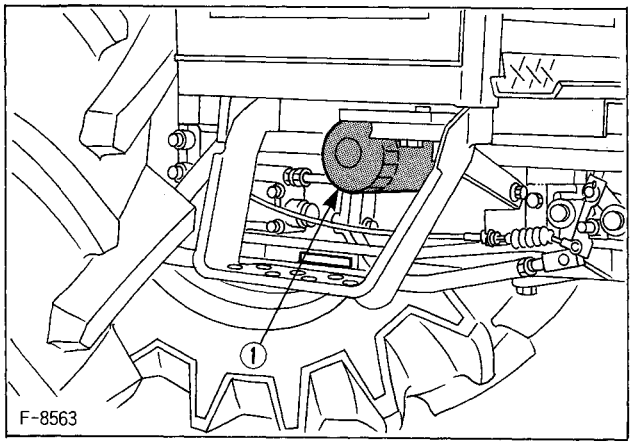
❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



①油圧オイルフィルタカートリッジ

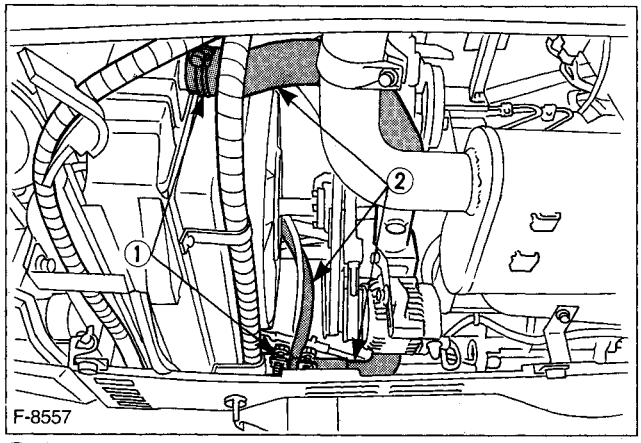
❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❻再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
(ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**“400時間ごとの点検・整備”**の**“ミッションオイルの交換”**の項を参照)

■ラジエータホースの点検

注 意

＊ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



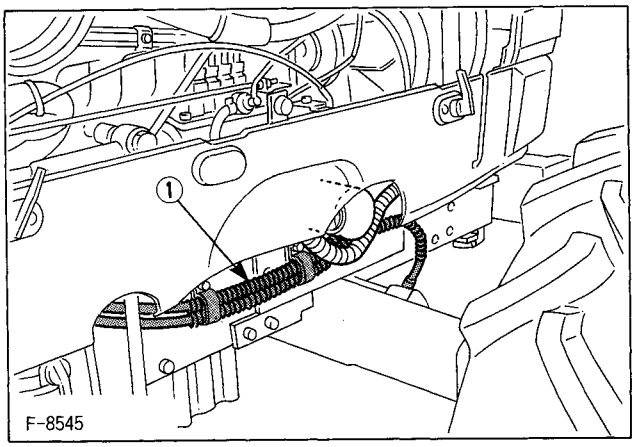
①締付けバンド
②ラジエータホース

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ホースの傷みは，必ず点検しましょう。
ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。



①パワーステアリングホース

重　要

＊交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

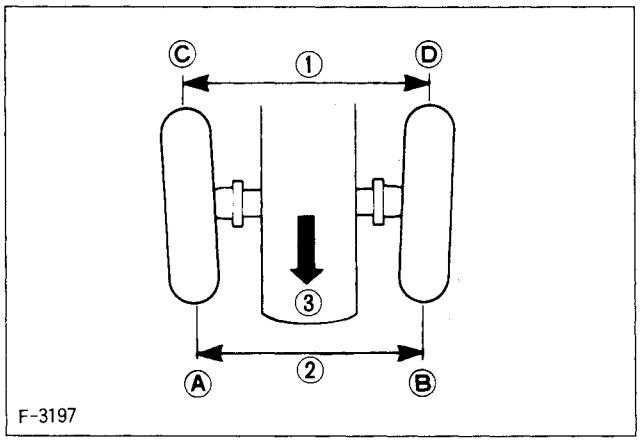
■トーイン調整・タイロッドの点検

注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

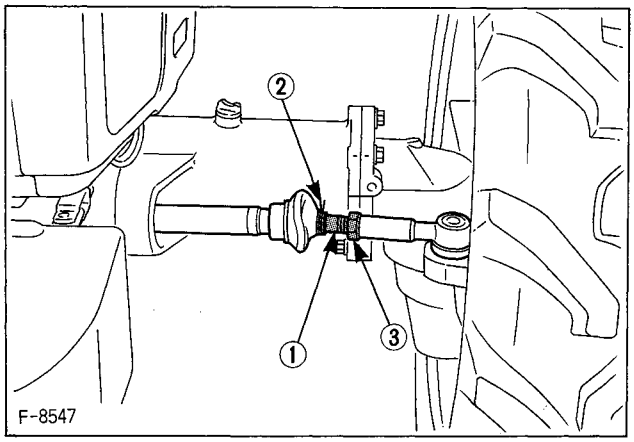
前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～８㎜になっているかを調べます。



①後幅
②前幅
③前

◆調整

❶スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
❷タイロッドジョイントのネジ部を回して調整します。
❸調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



①タイロッドジョイント
②スナップストッパ
③ロックナット

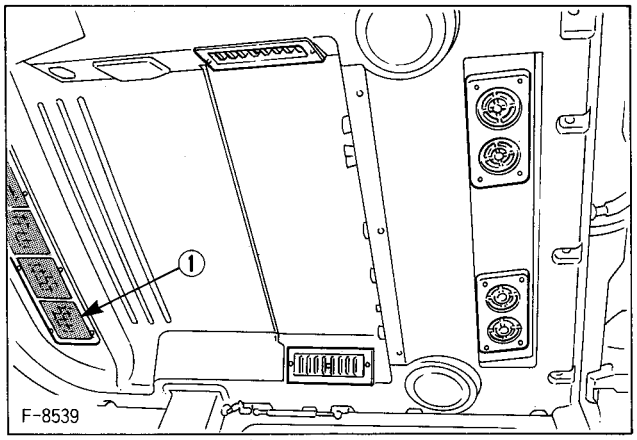
補　足

＊トーインの点検・調整時，タイロッドエンド（関接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

以下はキャブ仕様のみの点検項目です。

■室内エアーフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコン／クーラの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。

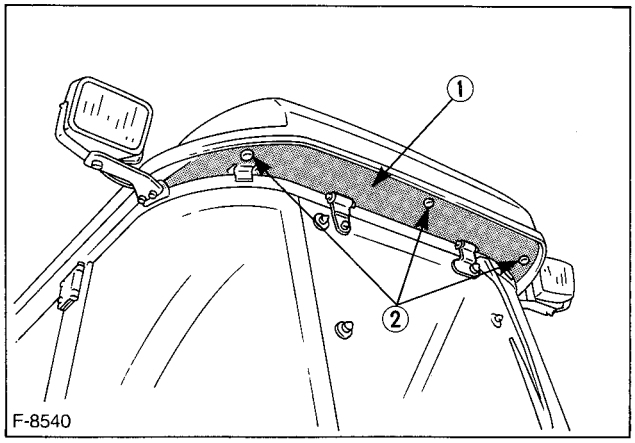


①室内エアーフィルタ

■外気フィルタ

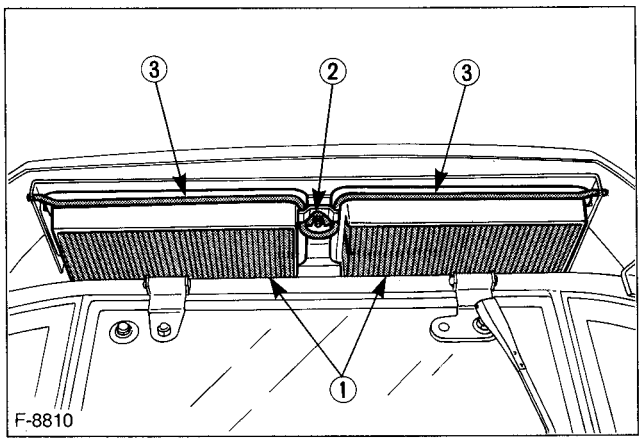
【GL400・470・530・600Q$_3$仕様】

❶ノブボルトを外し，カバーを外します。
このとき，リヤウォッシャ用パイプをノズル部より抜いてください。



①カバー
②ノブボルト

❷蝶ナットをゆるめ，フィルタ固定金具を解除し，フィルタを外します。



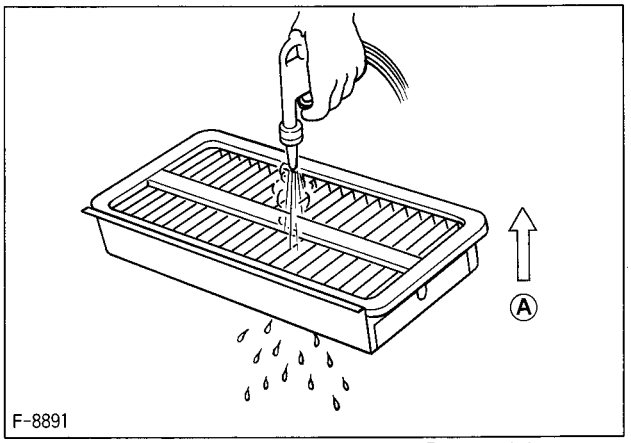
①外気フィルタ
②蝶ナット
③フィルタ固定金具

◆外気フィルタの清掃法

●通常
風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。



Ⓐ風の流れ

●汚れが著しいとき
家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

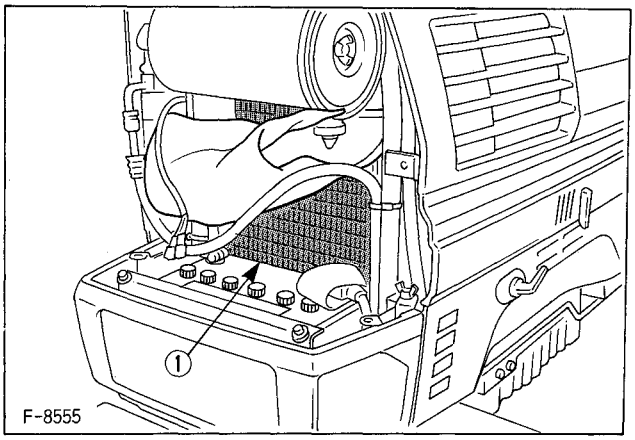
＊洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコン（クーラ）コンデンサの詰まり

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

コンデンサフィンにゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



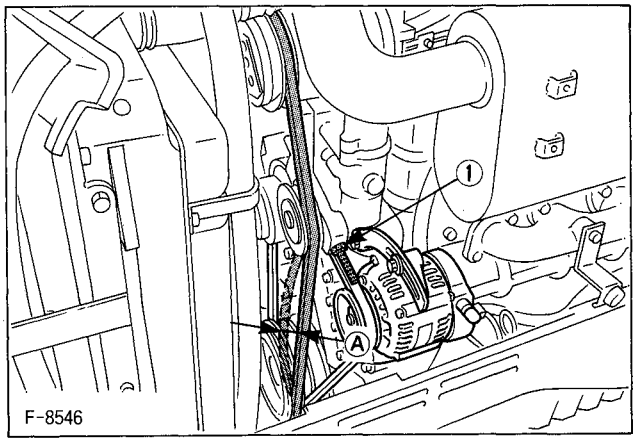
①コンデンサ

■エアコン／クーラベルトの張り

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

プーリ間のベルトを指で押し点検します。10kgfで**“10～12㎜”**が適正です。

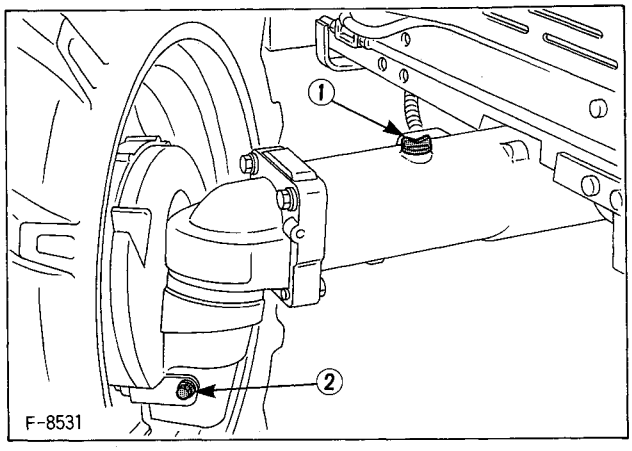


①調節ボルト　　Ⓐ “10～12㎜”

300時間ごとの点検・整備

■前車軸ケースオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



①給油プラグ
②ドレーンプラグ

❷ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。

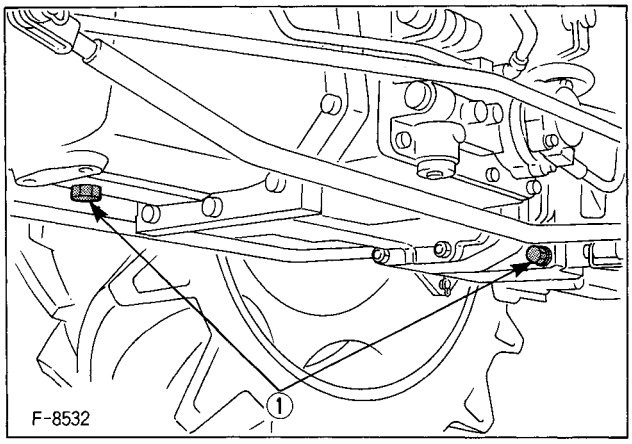
400時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

注 意

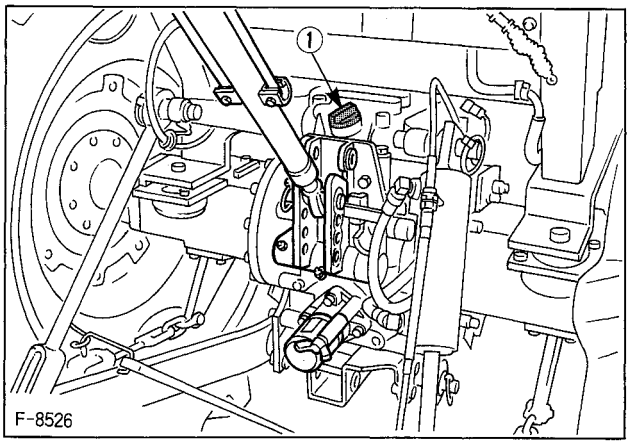
＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを(2カ所)外してオイルを抜きます。



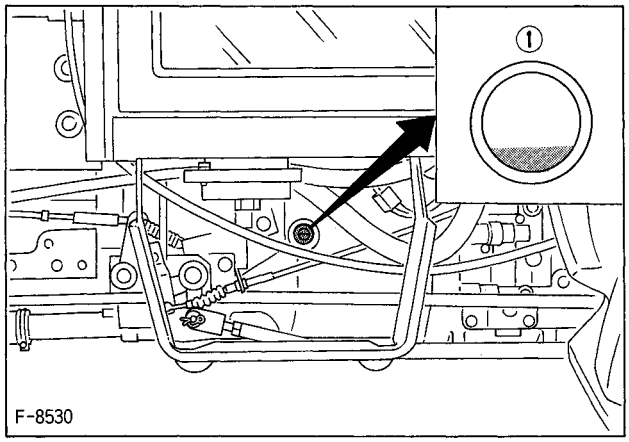
①ドレーンプラグ

❷ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。



①給油口

❸エンジンを始動して2～3分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。



①検油窓

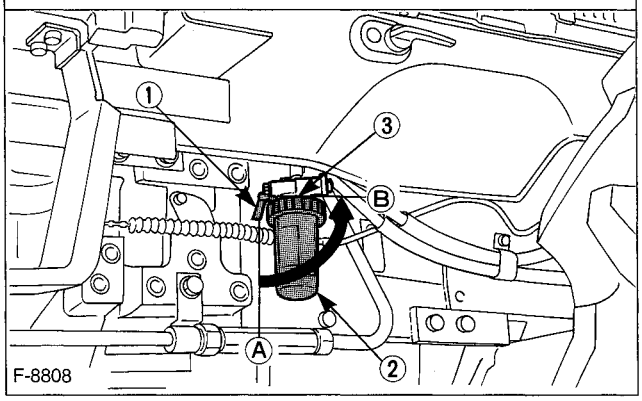
■燃料フィルタエレメントの清掃交換

❶燃料フィルタコックを“OFF”にしてください。
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

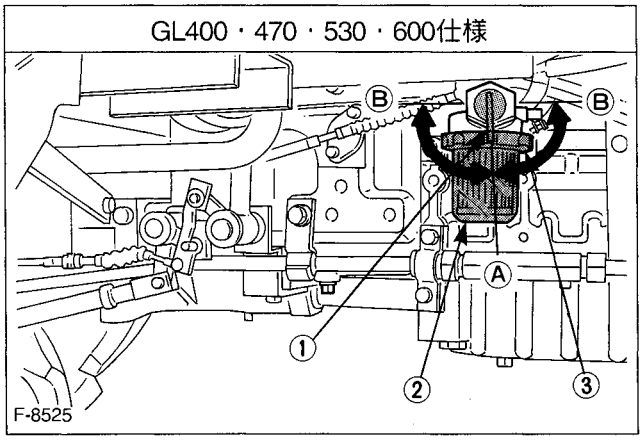
重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。（**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項参照）

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様



①燃料フィルタコック　　Ⓐ “ON”
②燃料フィルタ　　Ⓑ “OFF”
③リテーナリング

600時間ごとの点検・整備

■前部デフケース前後遊びの調整

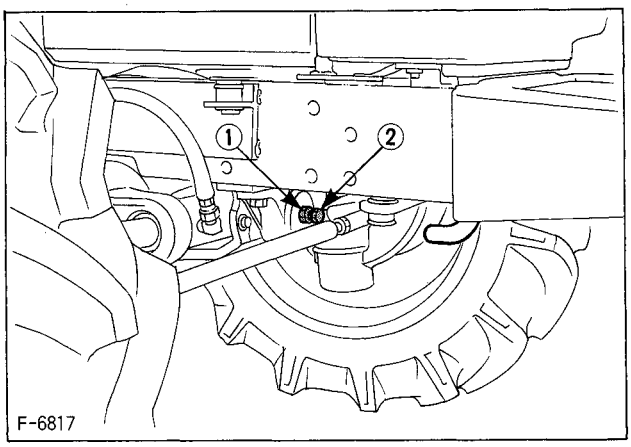
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。



①ロックナット
②調整ボルト

800時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1年ごとの点検・整備

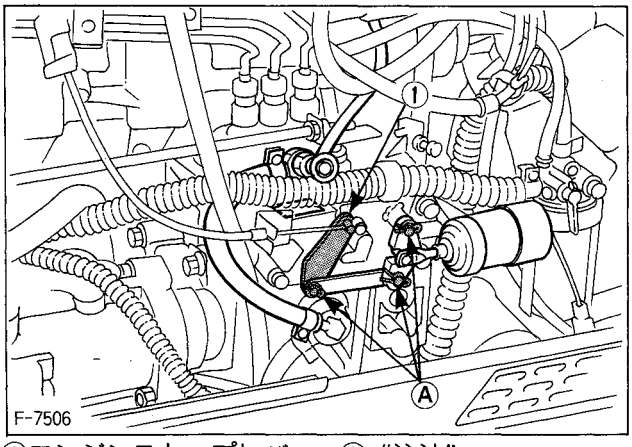
■エアークリーナエレメントの交換
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。
（**“100時間ごとの点検・整備”**の**“エアークリーナエレメントの清掃”**の項を参照。）

■注油

◆停止ソレノイドリンクへの注油
ソレノイドリンクの注油及び清掃は，1年に1回使用前及び長期格納時に行なってください。
注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してキースイッチ**“OFF”**でエンジンが停止するか確認してください。

重 要

＊この部分は，キースイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが侵入したときは，適宜清掃を行なってください。



①エンジンストップレバー　Ⓐ “注油”

■ヒータ配管，ホースの点検

■エアコン／クーラ配管，ホースの点検
各配管及びホースの損傷を点検してください。

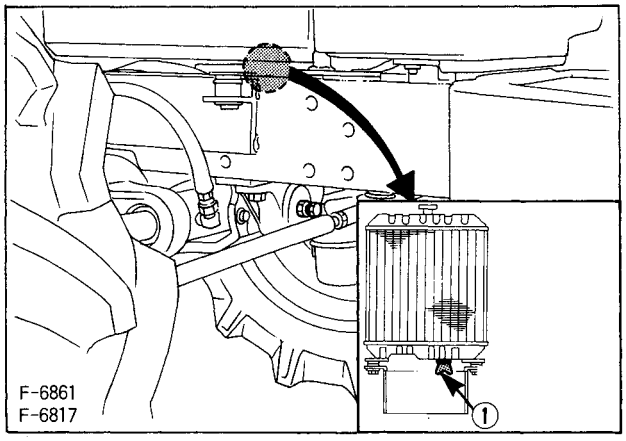
2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

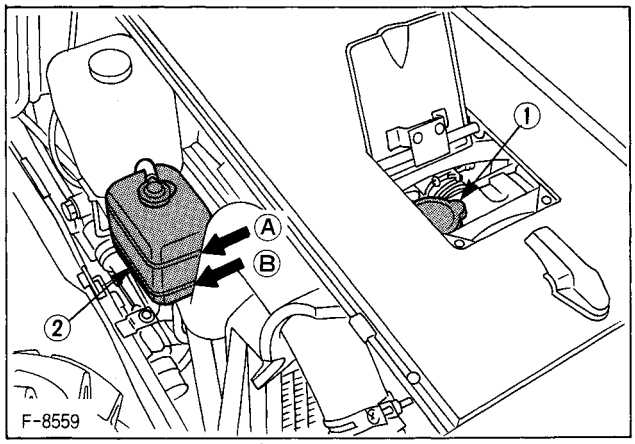
注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

❶ラジエータ下側のドレンコックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。



①排水コック



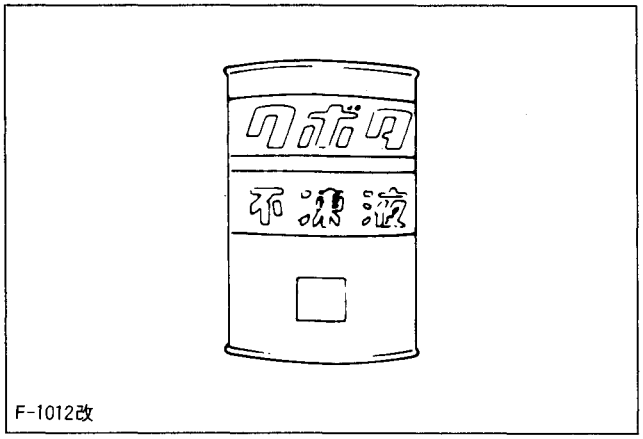
①ラジエータキャップ　Ⓐ “上限”
②リザーブタンク　Ⓑ “下限”

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。
❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

❹キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約１ℓ多く必要となります。
冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ**“ON”**（**GL350・430Q$_1$仕様**はヒータ用コックを**“冬期”**）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。
冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸いこまれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕



F-1012改

重　要

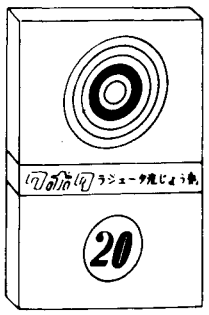
＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比 %	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度 ℃	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，**クボタラジエータ洗じょう剤No.20**を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊２年使用ごと
＊不凍液を混入するとき
＊不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。



Z-1009改

■ラジエータホースの交換

ラジエータホースの交換は２年間使用後，又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
（**“200時間ごとの点検・整備”**の**“ラジエータホースの点検”**の項を参照。）

■パワーステアリングホースの交換

パワーステアリングホースの交換は２年間使用後，又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
（**“200時間ごとの点検・整備”**の**“パワーステアリングホースの点検”**の項を参照。）

■燃料パイプの交換

燃料パイプの交換は２年間使用後，又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
（**“100時間ごとの点検・整備”**の**“燃料パイプの点検”**の項を参照。）

■クラッチワイヤの交換

クラッチワイヤの交換は２年間（1000時間）使用後，又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
（**“100時間ごとの点検・整備”**の**“クラッチペダルの点検・調整”**の項を参照。）

必要に応じた点検・整備

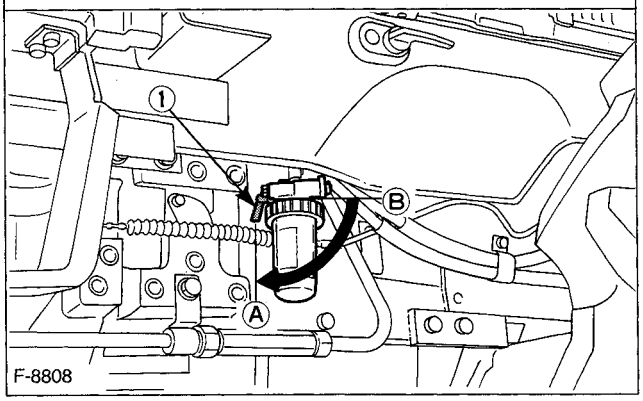
■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

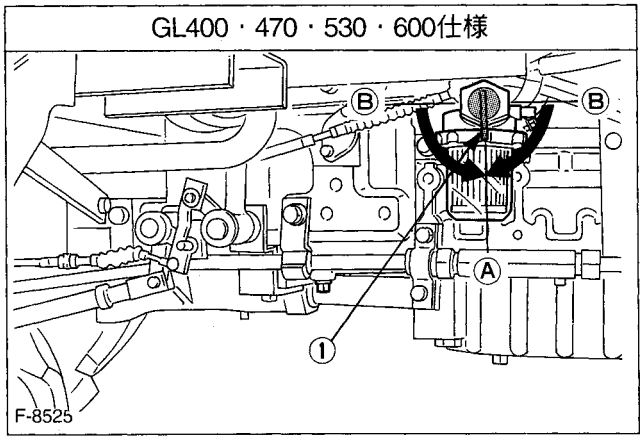
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

❶燃料フィルタコックを“ON”にする。

GL350・430仕様



GL400・470・530・600仕様

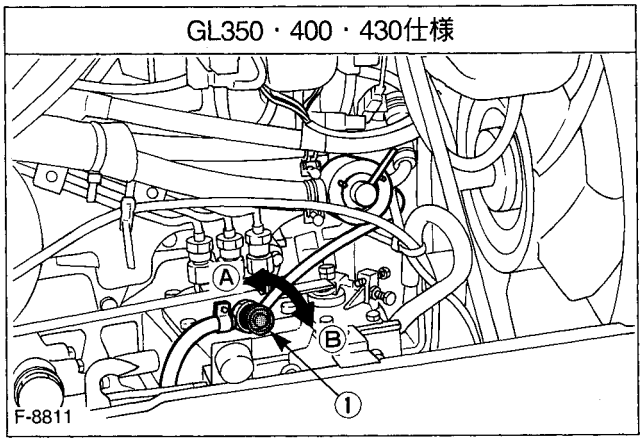


①燃料フィルタコック　Ⓐ“ON”　Ⓑ“OFF”

❷燃料噴射ポンプ上のコックを開く。

【GL350・400・430仕様】

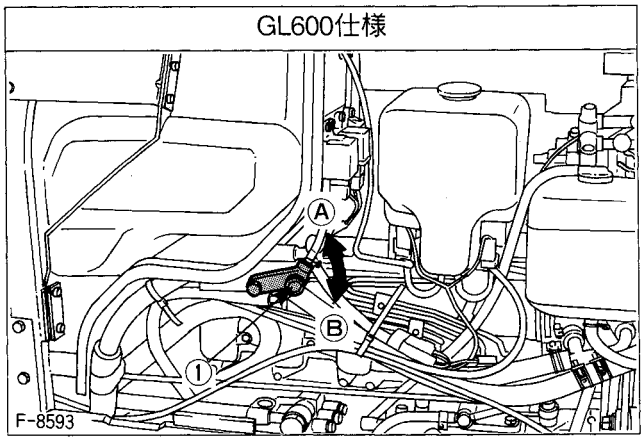
GL350・400・430仕様



①エアー抜きコック　Ⓐ“開”　Ⓑ“閉”

❸ジェットスタータコックを開く。【GL600仕様】

GL600仕様



①ジェットスタータコック　Ⓐ“開”　Ⓑ“閉”

❹タンクに燃料を満たす。

❺エンジンを始動し，約1分間運転後停止する。

❻燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

【GL350・430仕様】

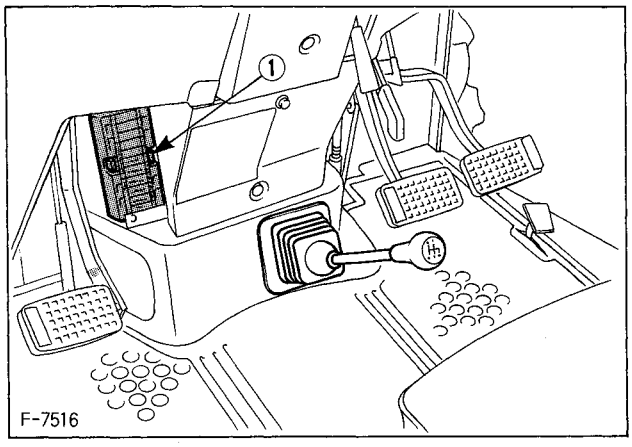
❼ジェットスタータコックを閉じる。【GL600仕様】

補　足

＊空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは，必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。【GL350・430仕様】

＊ジェットスタータコックは，空気抜きするとき以外は閉じておいてください。【GL600仕様】

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

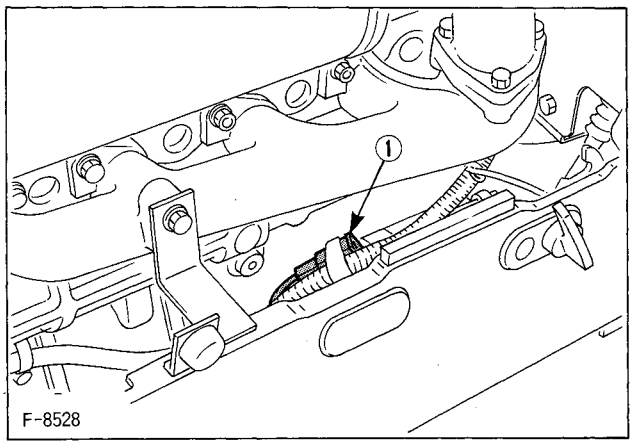
重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換



①スローブローヒューズ

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

補　足

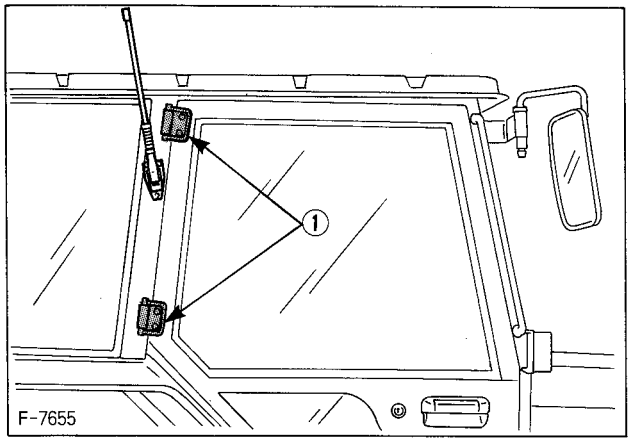
＊GL350・430仕様は40A。
　GL400・470・530・600仕様は50A。

■ランプ類の交換

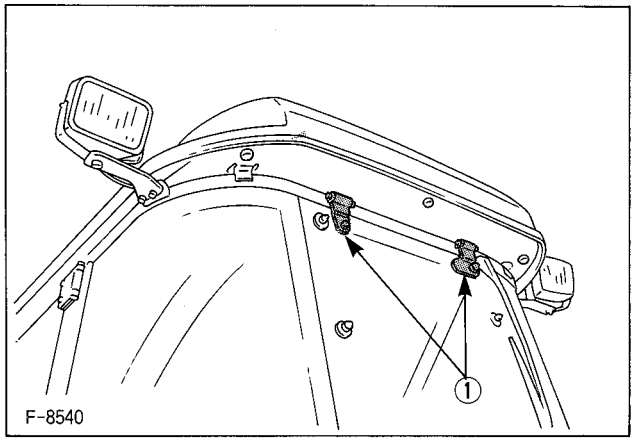
1.ヘッドランプとリヤコンビネーションランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2.その他のランプ
　レンズを外し，バルブを交換します。

以下はキャブ仕様のみの点検項目です。

■オイルの注油

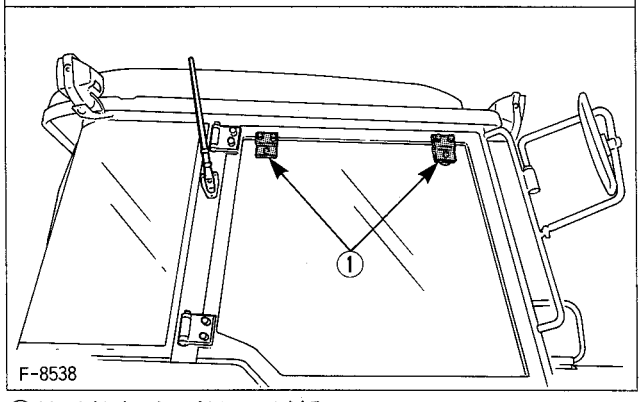


①ドアーヒンジ部



①リヤウインドヒンジ部

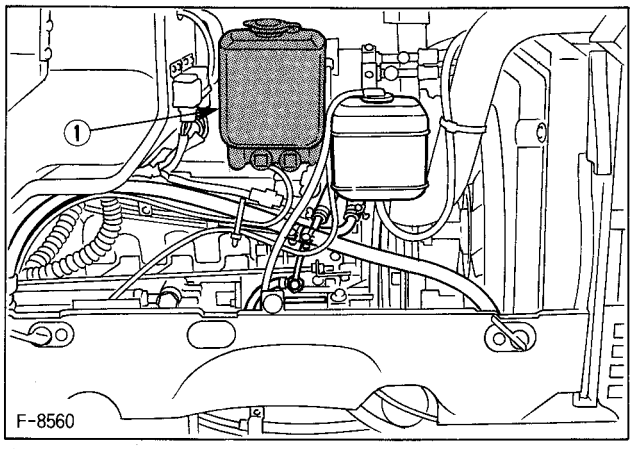
GL400・470・530・600仕様



①サイドウインドヒンジ部

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



①ウォッシャタンク

重 要

＊凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。

＊空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。

＊ウオッシャノズルの詰まりを防ぐために，ゴミが入らないようにしてください。

格　納

注　意

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 燃料フィルタコックを“OFF”にしておいてください。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
10. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
15. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

重　要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
＊格納時は，必ず“OFF”の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●空気抜きをする。 （**“必要に応じた点検・整備”**の項を参照）
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用(GL350・430仕様はD10W30CDを使用))
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	(2)燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアークリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	(2)燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3)エアークリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量（不足）及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ●フロントグリル，ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

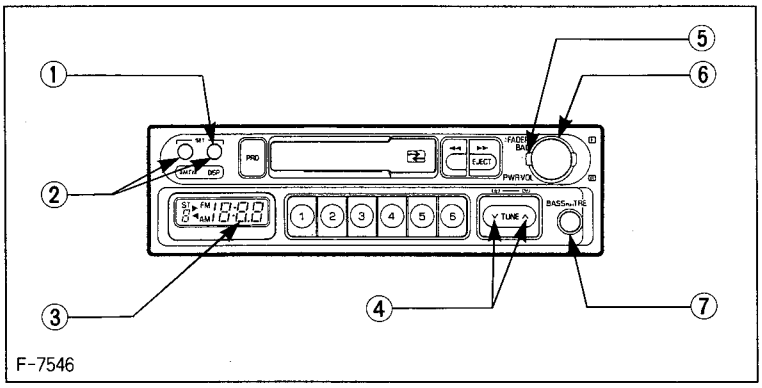
AM／FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

GL350・430仕様

注　意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

共通部の操作のしかた



①DISPディスプレイ切換えボタン
②SETリセットボタン（２つ同時押し）
③時計・周波数デジタル表示
④時計調整ボタン
⑤FADERフェダー調節ツマミ
⑥PWR・VOL電源スイッチ（Push）
　兼音量調節ツマミ
　Pull BALバランス調節ツマミ
⑦BASS低音調節ツマミ
　Pull TRE高音調節ツマミ

■電源の入／切のしかた、音量調節

◆PWR・VOL電源スイッチ（Push）
**　兼音量調整ツマミ**

電源スイッチを押すたびに電源の**“ON”** **“OFF”**が切換わります。
音量調整ツマミを時計方向（◯）に回すと音量が増大します。反時計方向（◯）に回すと音量が減衰します。

■左右のバランス調整ツマミ

◆Pull BAL バランス調整ツマミ

ツマミを引き時計方向（◯）に回すと右側スピーカの音量が強調されます。
反時計方向（◯）に回すと左側スピーカの音量が強調されます。
調整後はツマミを押し，元に戻してご使用ください。

■フェダー調整

◆FADER フェダー調整ツマミ

２スピーカ方式のため，ツマミを時計方向（◯）にいっぱい回してご使用ください。

補　足

＊ツマミを反時計方向（◯）に回すと音が出なくなります。

■低音・高音の調整

◆BASS・pull TRE 低音・高音調整ツマミ

ツマミの中間位置（クリップ部分）に対して時計方向（◯）に回すと低音が強調され、反時計方向（◯）に回すと低音が減衰されます。
ツマミを引きツマミの中間位置（クリップ部分）に対して時計方向（◯）に回すと高音が強調され、反時計方向（◯）に回すと高音が減衰されます。

■受信周波数表示の切換え

◆DISP ディスプレイ切換えボタン

放送受信時にDISPボタンを押すと５秒間、周波数表示されます。

■時計の調整のしかた

◆∨TUE∧時計調整ボタン

❶DISPボタンを押しながら∨Hボタン（左側）を押すと，時間表示の調整ができます。
❷DISPボタンを押しながら∧Mボタン（右側）を押すと，分表示の調整ができます。

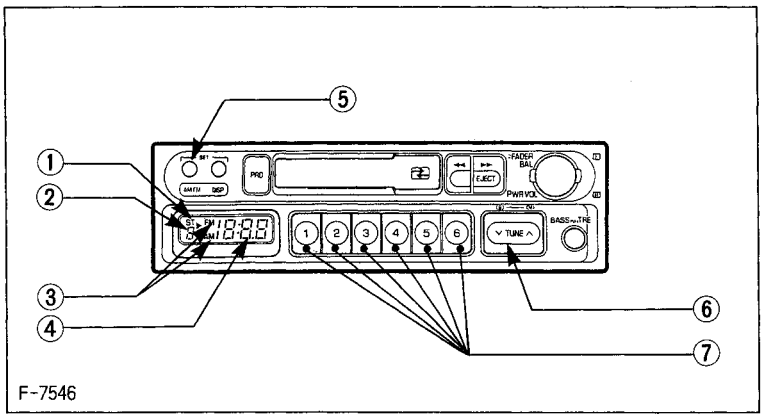
◆SET リセットボタン（２つ同時押し）

AM／FMバンド切換ボタン，DISPボタンを同時に押すことにより，時計の**“分”**の単位をゼロにリセットできます。
“分”が30～59のときリセットすると**“時間”**の単位を１つ進めてゼロリセットし，00～29のときは**“時間”**をそのままにゼロリセットします。

補　足

＊本機はエンジンキーを**“OFF”**にしても時計表示をしていますが，電流消費量を少なくするため表示部の照明は点灯されません。
＊∨Hボタン・∧Mボタンとも押し続けると，連続して時間（分）が変わります。

ラジオを聞くには



①STステレオインジケータ
②プリセットチャンネル表示
③AM/FMバンドインジケータ
④周波数デジタル表示
⑤AM/FMバンド切換えボタン
⑥周波数同調ボタン
⑦プリセットボタン

■バンド切換え

◆AM／FMバンド切換えボタン

電源を“ON”にする。
バンド切換えボタンを押すとAM，FMのバンドが切換えられ，バンドインジケータも同時に表示します。

補　足

＊カセットテープが挿入されている場合，□EJECTの両ボタンを同時に押して，テープを取り出してください。

■手動選局のしかた

◆∨TUE∧周波数同調ボタン

∧ボタン（右側）を押すと，周波数のデジタル表示数が上がり，∨ボタン（左側）を押すと表示数が下がりますので，ご希望の放送局のところで選局してください。
ボタンを一度押すごとに，AM受信時は９KHzずつ移行し，FM受信時は0.1MHzずつ移行します。

■自動選局のしかた

◆∨TUE∧周波数同調ボタン

∧ボタン（右側）または∨ボタン（左側）を0.5秒以上押して離すと，周波数が上または下に移行し，放送局のあるところで自動的に停止し，周波数がデジタル表示されます。

■プリセット選局のしかた

◆１～６プリセットボタン

１～６のボタンを押すと，あらかじめプリセットされた放送局を選局します。
プリセットのしかたは右記を参照してください。

■プリセット（放送局メモリ）

あらかじめ、プリセットボタンにご希望の放送局をプリセットしておきますと，ワンタッチで選局することができます。
プリセットは，AM放送で最大６局、FM放送で最大６局まで行なえます。

◆プリセットのしかた

❶バンド切換えボタンを押し，ご希望のバンドに切換えます。

❷∧ボタンまたは∨ボタンで，ご希望の放送局を手動選局を選局または，自動選局します。

❸❶❷の操作で放送局を選局したら，メモリさせたいチャンネル（１～６）のプリセットボタンを押し続けると，いったん音が消え，２秒後に再び音が出ます。これでプリセットボタンに放送局メモリは完了しました。

❹同じように，別のプリセットしたい放送局は❶～❸の操作を繰返してください。

補　足

＊一度プリセットしたボタンをさらにプリセット操作すると，前にメモリされた放送局は解除されます。

■ディスプレイ表示

◆バンドインジケータ

AM，FMバンドを表示します。

◆周波数デジタル表示

受信周波数をデジタル表示します。
AM放送受信時はKHz単位で，FM放送受信時は，MHz単位で表示します。

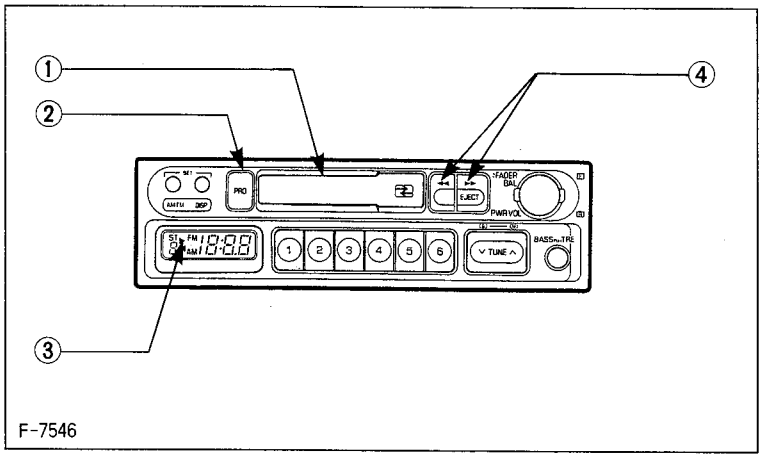
◆プリセットチャンネル表示

プリセットボタン（１～６）を押すと，そのチャンネルを表示します。

◆ステレオインジケータ

FMステレオ放送受信時に“ST”の文字を表示します。

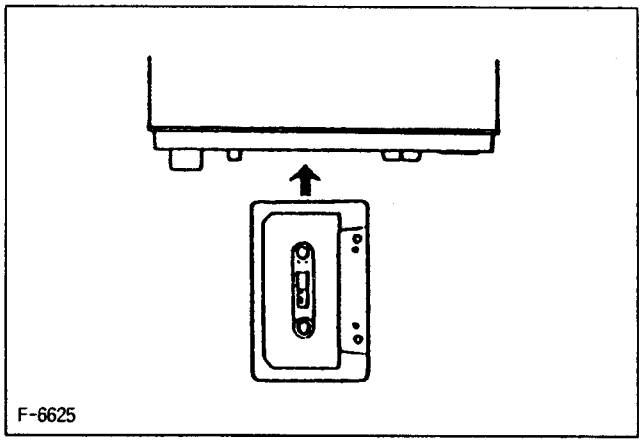
テープを聞くには



①テープ挿入口
②PROプログラム切換えボタン
③プログラムインジケータ
④◀◀ ▶▶早送り，巻戻しボタン
兼 EJECT EJECT
イジェクトボタン（両押し）

■カセットテープの挿入

電源を“ON”にする。
カセットテープのテープ面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に演奏を開始します。
このとき，プログラムインジケータは“◀”または“▶”が点灯します。



■演奏面の切換え

◆PRO プログラム切換えボタン

プログラム切換えボタンを押すと，演奏面が切換わり，同時にプログラムインジケータの点灯方向が切換わります。
再生途中でも自由にプログラムが切換えられます。
▶：上面を演奏しています。
◀：下面を演奏しています。
テープが終端にくると，このボタンを押さなくても自動的に演奏面が切換わります。

■巻戻し，早送り

◆巻戻し

プログラムインジケータが“◀”（左方向）点灯時は，▶▶（右側）ボタンを押し，“▶”（右方向）点灯時は◀◀（左側）ボタンを押すと，テープを巻き戻します。巻戻しが完了すると自動的にテープは初めより演奏を開始します。

◆早送り

プログラムインジケータが“◀”（左方向）点灯時は，◀◀（左側）ボタンを押し，“▶”（右方向）点灯時は，▶▶（右側）ボタンを押すと，テープを早送りします。早送りでテープが終端になると，自動的に演奏面が切換わり演奏を開始します。

補 足

＊巻戻し・早送りを途中で中止するときは◀◀ ▶▶ボタンの押した方のボタンの隣(逆方向)のボタンを軽く押してください。

■カセットテープの取出し

◆EJECT EJECT イジェクトボタン

EJECT の巻戻し・早送りボタンを同時に押すと，カセットテープが取出され，ラジオ放送に切換わります。

補 足

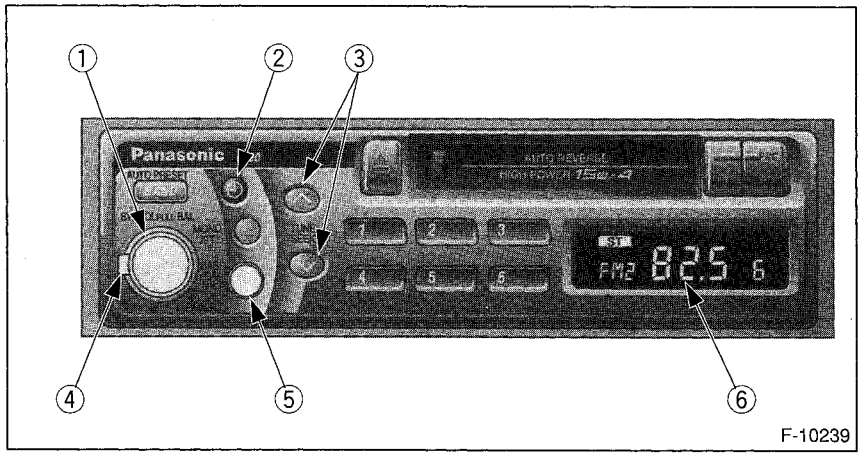
＊カセットテープを聞かないときは，必ずイジェクトボタンを押してテープを取出してください。

GL400・470・530・600仕様

注 意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

共通部の操作のしかた



①電源／音量・左右のバランス調整ツマミ
②◴ 時計ボタン
③∧／∨ 時計調整ボタン
④フェダー調整ツマミ
⑤低音／高音調整ツマミ
⑥ディスプレイ時計・周波数デジタル表示

■電源の入／切のしかた，音量・左右のバランス調整

◆電源／音量調整ツマミ

ツマミを時計方向（◯）に回すと電源が**“ON”になり，さらに回すと音量が増大します。**

反時計方向（◯）に回すと音量が減衰し，さらに回すと電源が**“OFF”になります。**

◆バランス調整ツマミ

ツマミを引きながら時計方向（◯）に回すと右側スピーカの音量が強調されます。

ツマミを引きながら反時計方向（◯）に回すと左側スピーカの音量が強調されます。

■フェダー調整

◆フェダー調整ツマミ

２スピーカ方式のため，ツマミを反時計方向（◯）にいっぱい回してご使用ください。

補 足

＊ツマミを時計方向（◯）に回すと音が出なくなります。

■低音・高音の調整

◆低音／高音調整ツマミ

ツマミを時計方向（◯）に回すと低音が強調され，反時計方向（◯）に回すと低音が減衰されます。

ツマミを引き時計方向（◯）に回すと高音が強調され，反時計方向（◯）に回すと高音が減衰されます。

■時計表示のしかた

◆◴ 時計ボタン

電源が**“ON”**のとき，◴ ボタンを押すと，ディスプレイが時計表示になります。

時計表示は，◴ ボタンを再度押すか，他のボタン操作により解除されます。

■時計の調整のしかた

◆∧／∨ 時計調整ボタン

❶電源を**“ON”**にし，◴ ボタンを押して時計表示にします。

初回調整時のみ Adj が表示されます。

❷再度，◴ ボタンを２秒以上押して時計調整モードにします。このとき**“時”**表示が点滅します。

❸∧ 又は ∨ ボタンを押して**“時”**表示の調整をします。（**“時”**の数字が増減）

❹◴ ボタンをもう一度押すと**“分”**の調整モードになります。このとき**“分”**表示が点滅します。

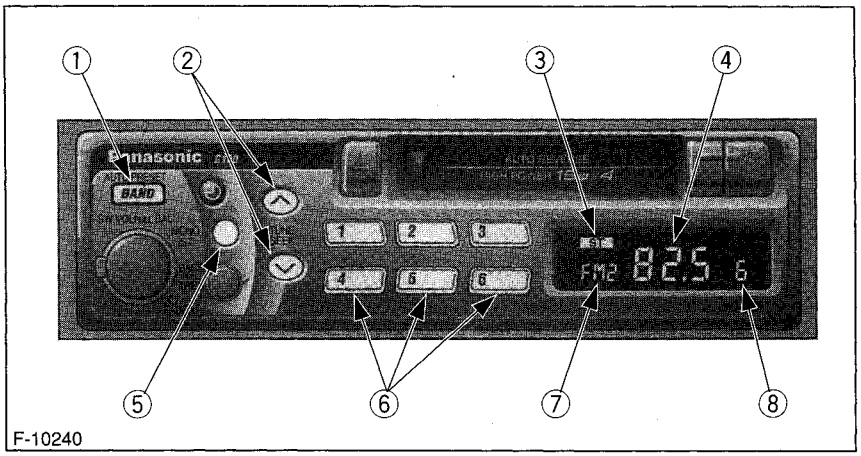
❺∧ 又は ∨ ボタンを押して**“分”**表示の調整をします。（**“分”**の数字が増減）

❻◴ ボタンを再度押すと時計の調整が完了し，もとの表示に戻ります。

補 足

＊∨ ボタン，∧ ボタンを押し続けると，連続して**“時”**又は**“分”**が変わります。

ラジオを聞くには



①AM／FMバンド切換えボタン／オートプリセットボタン
②△／▽周波数同調ボタン
③ST ステレオインジケータ
④受信周波数インジケータ
⑤モノ／ステレオ切換えボタン
⑥1～6(プリセット)ボタン
⑦バンドインジケータ
⑧プリセットインジケータ

■バンド切換え／オートプリセット

◆AM／FMバンド切換えボタン

電源を**“ON”**にする。
バンド切換えボタンを一回押すごとにバンドが下記のように切換わり，バンドインジケータも同時に表示します。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

補　足

＊カセットテープが挿入されている場合，⏏イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

◆オートプリセットボタン

〔**“オートプリセットのしかた”**の項参照〕

■手動選局のしかた

◆△／▽周波数同調ボタン

△ボタン（上側）を押すごとに，周波数のデジタル表示数が上がり，▽ボタン（下側）を押すごとに表示数が下がりますので，ご希望の放送局のところに選局してください。

■自動(シーク)選局のしかた

◆△／▽周波数同調ボタン

△ボタン（上側）又は▽ボタン（下側）を押す（約2秒）と，周波数が上又は下に移行し，放送局のあるところで自動的に停止し，周波数がデジタル表示されます。

■プリセットメモリ(放送局のメモリ)について

あらかじめ，プリセットボタンにご希望の放送局をプリセット（放送局メモリ）しておきますと，ワンタッチで選局することができます。
プリセットは，下記の通り最大24局まで行なえます。

FM1	FM2	AM1	AM2
最大6局	最大6局	最大6局	最大6局

◆プリセットのしかた

❶バンド切換えボタンを押し，ご希望のバンド（FM1→FM2→AM1→AM2）に切換えます。
❷△ボタン又は▽ボタンで，ご希望の放送局を手動選局又は，自動選局します。
❸❶❷の操作で放送局を選局したら，メモリさせたいチャンネル（1～6）のプリセットボタンを押し続け，一度受信周波数インジケータが点滅したら離してください。
これでプリセットボタンに放送局メモリは完了しました。
❹同じように，別のプリセットしたい放送局は❶～❸の操作を繰返してください。

補　足

＊一度プリセットしたボタンをさらにプリセット操作をすると，前にメモリされた放送局は解除されます。

■オートプリセットのしかた

❶バンド切換えボタンを押し，ご希望のバンドに切換えます。

❷オートプリセット（バンド切換え）ボタンを２秒以上押すと，電波の強い順に６局まで現在のバンドのプリセットメモリに自動的にメモリし，その後プリセットスキャンします。

補　足

＊オートプリセットボタンを押すと，プリセットスキャンモードになり，あらかじめプリセットされている放送局を順番に呼び出し，５秒間ずつ受信します。
動作中はディスプレイ表示が点滅します。

＊オートプリセット，プリセットスキャンを解除する場合，再度オートプリセットボタンを押してください。

■ディスプレイ表示

◆バンドインジケータ

FM１，FM２，AM１，AM２バンドを表示します。

◆受信周波数インジケータ

受信周波数をデジタル表示します。
AM放送受信時はKHz単位で，FM放送受信時は，MHz単位で表示します。

◆プリセットインジケータ

プリセットボタン（１～６）を押すと，そのチャンネルを表示します。

◆ステレオインジケータ（FM放送）

ステレオ放送受信時に **ST** の文字を表示します。

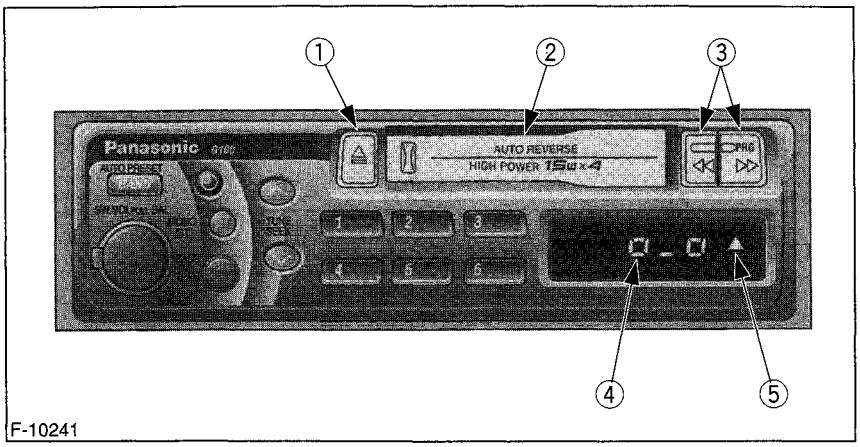
■FM放送時のモノラル／ステレオ切換え

◆モノ／ステレオ切換えボタン

FM放送受信時に押すと，モノラル受信モードに切換わり，**“MONO”** 表示が点灯します。
再度押すと，ステレオ受信モードに切換わります。
電波の状態によりノイズが発生し聞きとりにくい場合は，モノラル受信モードに設定してください。

■ラジオの放送は同一のプログラムが各地の放送局から送られていることがありますので，感度のよい放送局に合わせてください。

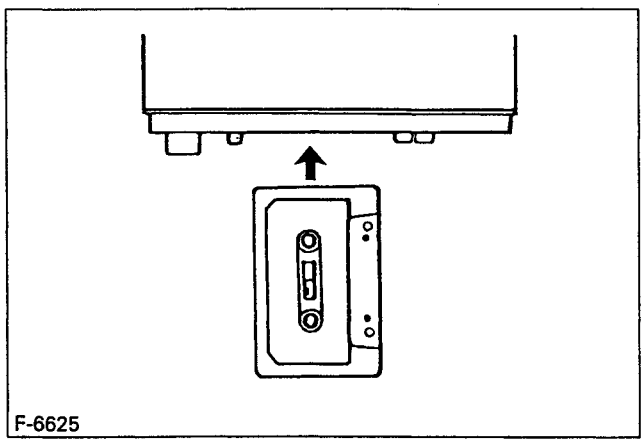
テープを聞くには



①イジェクトボタン
②カセットテープ挿入口
③◀◀ ▶▶ 早送り，巻戻しボタン／プログラム切換えボタン（両押し）
④テーププレイインジケータ
⑤プログラムインジケータ

■カセットテープの挿入

電源を“ON”にする。
カセットテープのテープ面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に演奏を開始します。このとき，テーププレイインジケータは □_□ 又は □‾□，プログラムインジケータは ▲ 又は ▼ が点灯します。



■演奏面の切換え

◆プログラム切換えボタン

◀◀ ▶▶ の両ボタンを同時に軽く押すと，演奏面が切換わり，ディスプレイに表示されます。
□_□▲：上面を演奏しています。
□‾□▼：下面を演奏しています。
テープが終端にくると，このボタンを押さなくても自動的に演奏面が切換わります。

■巻戻し，早送り

◆◀◀ 巻戻しボタン

◀◀ 巻戻しボタンを押すと，現在演奏している面のテープを巻戻します。巻戻しが完了すると自動的にテープの初めより演奏を開始します。

◆▶▶ 早送りボタン

▶▶ 早送りボタンを押すと，現在演奏している面のテープを早送りします。早送りでテープが終端になると，自動的に演奏面が切換わり演奏を開始します。

補　足

＊巻戻し又は早送りを途中で中止するときは◀◀ ▶▶ ボタンを同時に押します。
＊巻戻し（早送り）の動作中はテーププレイインジケータおよびプログラムインジケータが点滅します。
＊下面演奏の場合(□‾□▼)，巻戻しと早送りの方向も切換わります。

■カセットテープの取出し

◆▲ イジェクトボタン

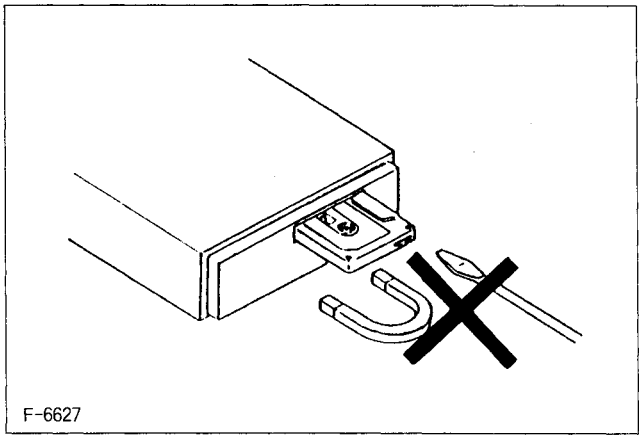
▲ イジェクトボタンを押すと，カセットテープが取出され，ラジオ放送に切換わります。

補　足

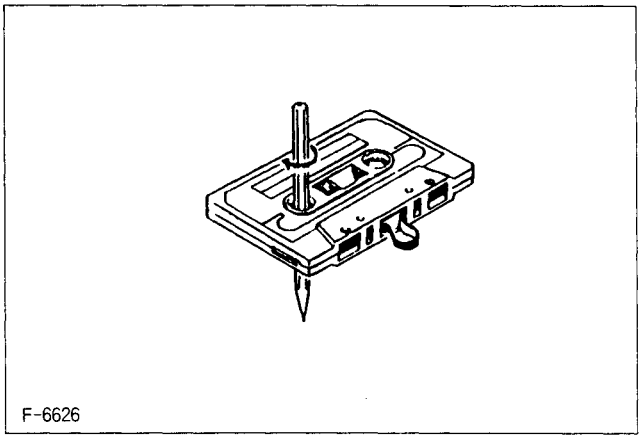
＊カセットテープを聞かないときは，必ず▲ イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

取扱い上の注意

1. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，社内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。


F-6627

3. カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。


F-6626

4. カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押して挿入してください。
5. C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。
8. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。
9. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
10. 本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは全体に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。
11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(ダッシュボード上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名			GL350	GL430	GL400	GL470	GL530	GL600
駆動方式			4輪駆動					
機体寸法	全長	mm	3495			3630		
	全幅	mm	1460	1480	1550	1560	1505	
	全高	mm	1980〔1990〕		2200〔2315〕	2200〔2360〕	2230〔2360〕	〔2360〕
	軸距	mm	1850			1985		2015
	輪距 前輪	mm	1205				1225	
	輪距 後輪	mm	1140～1600 (7段)	1140～1530 (7段)	1150～1610 (7段)		1175～1570 (5段)	
	最低地上高	mm	360				395	
質量（重量）		kg	1575〔1710〕	1600〔1735〕	1600〔1810〕	1700〔1910〕	1740〔1950〕	〔1970〕
エンジン	機関型式		クボタD1503-T	クボタD1503-TI	クボタV2203	クボタF2503	クボタF2803-N	クボタF2803-HN
	形式		水冷4サイクルディーゼル					
	総排気量	cm^3（cc）	1499		2197	2499	2746	
	出力/回転速度	kW/min^{-1}(PS/rpm)	25.7/2700 (35/2700)	31.5/2700 (43/2700)	29.4/2600 (40/2600)	34.5/2600 (47/2600)	38.9/2600 (53/2600)	44.0/2800 (60/2800)
	使用燃料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油					
	燃料タンク容量	L	50					65
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ付）					
	バッテリ		75D31R MF（メンテナンスフリー）		95D31R MF（メンテナンスフリー）			
タイヤ	前輪		8-18 4PR				8.3-20 4PR	
	後輪		12.4-28 4PR	13.6-26 4PR	12.4-28 4PR	13.6-28 4PR	12.4-32 4PR	
車体	クラッチ方式		湿式単板					
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）					
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング					
	差動方式		4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）					
	変速方式		Uシフト／Uシャトル					
変速段数（段）			前進16，後進16（シャトル）					
走行速度（km/h）		前進	0.19～14.70	0.19～14.70	0.22～26.10	0.23～27.34	0.24～26.00	0.24～26.4
		後進	0.18～14.14	0.18～14.14	0.17～20.86	0.18～21.85	0.19～20.60	0.20～22.1
最小旋回半径（ブレーキ使用時）		m	2.5			2.6		2.7
PTO	回転/エンジン速度/回転速度	正転	578，781，950，1249／2700		585，789，961，1263／2600			588，794 966，1270／2800
	min^{-1}（rpm）	逆転	781/2700		789/2600			794/2800
	軸寸法	mm	JIS 35					
作業昇降装置	制御方法		ポジションコントロール（MAD:ドラフトコントロール）					
	装置方式		3点リンク JIS Ⅰ形					

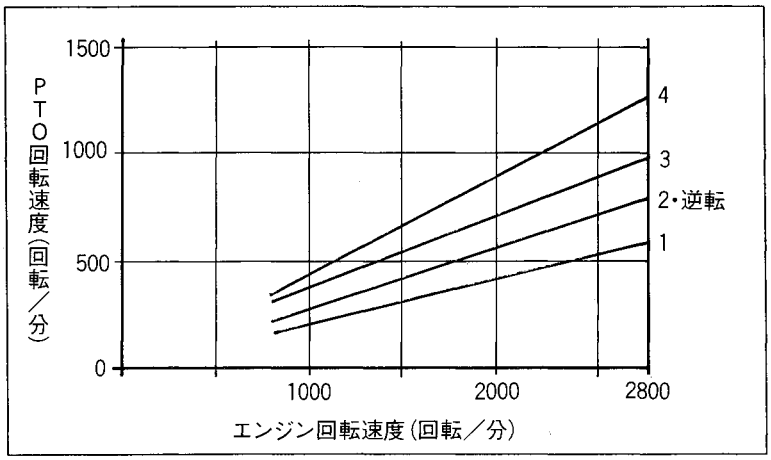
〔 〕はキャブ仕様，GL600はキャブ仕様のみ

■走行速度表

(km/h)

主変速レバー	クリープレバー	GL350		GL400		GL430		GL470		GL530		GL600	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	0.19	0.18	0.22	0.17	0.19	0.18	0.23	0.18	0.24	0.19	0.24	0.20
2		0.25	0.24	0.30	0.24	0.25	0.24	0.31	0.25	0.32	0.26	0.33	0.28
3		0.30	0.30	0.47	0.38	0.30	0.30	0.50	0.40	0.39	0.31	0.40	0.34
4		0.48	0.47	0.64	0.51	0.48	0.47	0.67	0.54	0.64	0.51	0.65	0.55
5		0.53	0.51	0.83	0.66	0.53	0.51	0.87	0.69	0.90	0.72	0.92	0.77
6		0.71	0.69	1.12	0.89	0.71	0.69	1.17	0.93	1.21	0.97	1.24	1.04
7		0.87	0.84	1.79	1.43	0.87	0.84	1.87	1.49	1.48	1.18	1.51	1.27
8		1.36	1.32	2.42	1.93	1.36	1.32	2.54	2.03	2.40	1.92	2.46	2.06
1	H	1.88	1.81	2.19	1.75	1.88	1.81	2.29	1.83	2.38	1.90	2.44	2.04
2		2.54	2.45	2.96	2.36	2.54	2.45	3.10	2.47	3.21	2.56	3.29	2.76
3		3.09	2.98	4.73	3.77	3.09	2.98	4.95	3.95	3.90	3.12	4.00	3.36
4		4.84	4.68	6.41	5.12	4.84	4.66	6.71	5.36	6.35	5.07	6.52	5.46
5		5.32	5.12	8.27	6.60	5.32	5.12	8.66	6.91	8.98	7.17	9.21	7.72
6		7.18	6.91	11.17	8.91	7.18	6.91	11.70	9.33	12.12	9.68	12.44	10.42
7		8.74	8.41	17.87	14.25	8.74	8.41	18.72	14.93	14.75	11.17	15.13	12.68
8		14.70	14.14	26.10	20.86	14.70	14.14	27.34	21.85	26.00	20.63	26.40	22.11

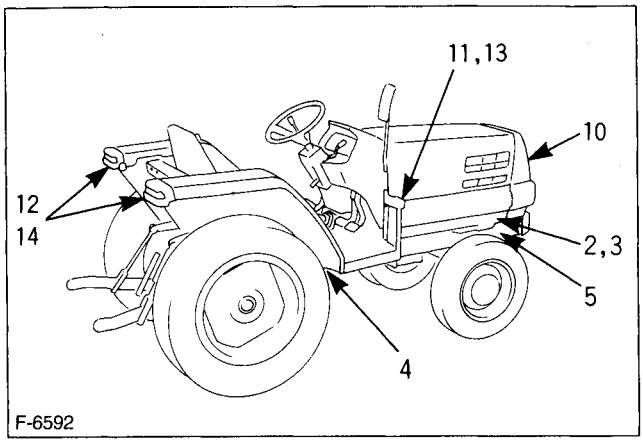
■PTO回転速度表

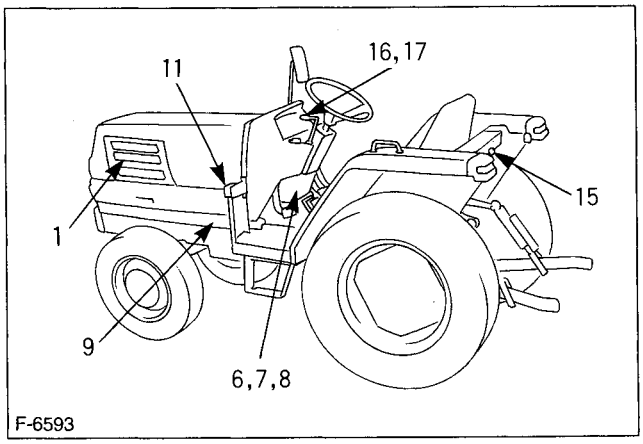


標準付属品

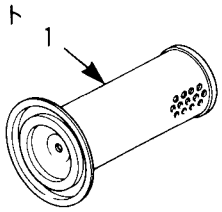
品　名	数 量／台	備　考
ドライバ	1	+，－差換え式
10－12　スパナ	1	
14－17　スパナ	1	
19－22　スパナ	1	
24－27　スパナ	1	
17－24　メガネ　レンチ	1	
プライヤ	1	
スローブローヒューズ	1	
メインスイッチキー	2	
取扱説明書	1	
サービスブック	1	
ＰＴＯ軸カバー	1	
ＰＴＯ軸カバーラベル	1	
ボルト	1	ＰＴＯ軸カバー用
平座金	1	
バネ座金	1	
ヒューズ　10Ａ	1	【GL400･470･530･600仕様】

主な消耗部品一覧表

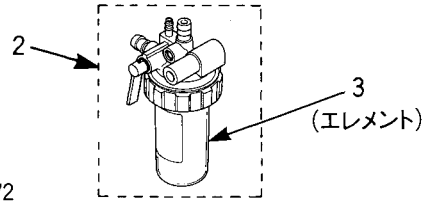




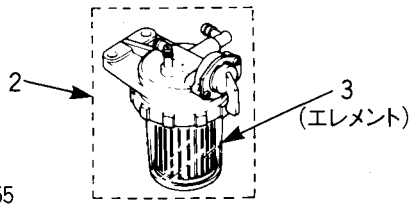
エアークリーナ
エレメント



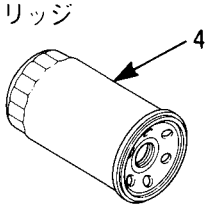
燃料フィルタ【GL350・430仕様】



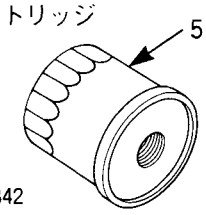
燃料フィルタ【GL400・470・530・600仕様】



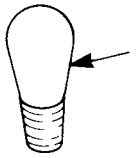
油圧オイルフィルタ
カートリッジ



エンジンオイルフィルタ
カートリッジ

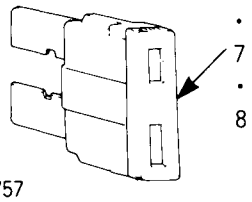


電球

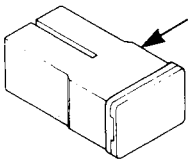


10(ヘッドライト)
11(ウインカ横)
12(ウインカ後)
13(車幅灯前)
14(車幅灯後,テールランプ,ブレーキ)
15(後退灯)

ヒューズ



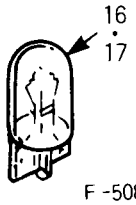
スローブローヒューズ



イージーチェッカ用ランプ

グローランプ
バッテリチャージランプ
ラジエータランプ
エンジンオイルランプ
自己診断ランプ
— 16

倍速ターンランプ
バックアップランプ
— 17

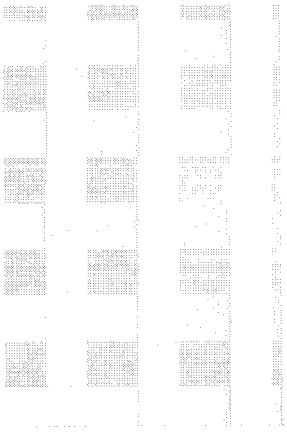


図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアークリーナエレメントアッシ	17351-1108-0	10	デンキュウ【GL350・430仕様】	34070-9901-0
2	フューエルフィルタアッシ【GL350・430仕様】	16271-4301-2		デンキュウ【GL400・470・530・600仕様】	38450-3387-0
	フューエルフィルタアッシ【GL$^{400・470}_{530・600}$仕様】	15521-4301-0	11	デンキュウ	38450-3421-0
3	フィルタエレメント【GL350・400仕様】	16271-4356-0		デンキュウ【GL350・430仕様】	38150-3384-0
	フィルタエレメント【GL$^{400・470}_{530・600}$仕様】	15521-4316-0	12	デンキュウ	34070-9911-0
4	オイルフィルタカートリッジ	34550-3310-0		デンキュウ【GL350・430仕様】	31391-3436-0
5	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	13	デンキュウ【GL400・470・530・600仕様】	38150-3385-0
6	ヒューズ10A	31351-3363-0	14	デンキュウ【GL400・470・530・600仕様】	31301-3437-0
7	ヒューズ15A	31351-3364-0	15	デンキュウ【GL400・470・530・600仕様】	36530-7598-0
8	ヒューズ20A	36919-5665-0	16	ランプ	38240-3147-0
9	スローブローヒューズ【GL350・430仕様】	34670-3453-0	17	ランプ	38070-3147-0
	スローブローヒューズ【GL$^{400・470}_{530・600}$仕様】	35080-3453-0			

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車輪	998222-1002	水田車輪取付け台アッシ	GL350 GL400 GL430	●片側にストレーク7枚取付け用 ●12.4-28用	G25,G35の何れかの反転ストレークアッシ
	995563-1001	G20反転ストレークアッシ		シュー幅20cm 左右7組／1台	上記の水田車輪取付け台アッシ
	995563-2001	G35反転ストレークアッシ		シュー幅35cm 左右7組／1台	
ウエイト	99261-11000	前部ウエイトアッシ	GL350 GL400 GL430 GL470 GL530	25kg,前車軸フレームの前部バンパに取付け	
	998311-5001	後輪ウエイトアッシ	GL430	33kg×6個,13.6-26用	
	998311-5111	後輪ウエイト		33kg,998311-5001に必要に応じて追加,全12個まで, (タイヤ1.0kg／cm²)	
	994111-5001	後輪ウエイトアッシ	GL350 GL400 GL470	35kg×6個,12.4-28用 13.6-28用	
	994111-5113	後輪ウエイト		35kg,994111-5001に必要に応じて追加	
	998811-5001	後輪ウエイトアッシ	GL530 GL600	50kg×4個,12.4-32用	
	998811-5111	後輪ウエイト		50kg,998811-5001に必要に応じて追加	

分類	品　番	品　名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
そ	992338-5001	安全フレーム用日よけ	GL350 GL400 GL430 GL470 GL530	豪華樹脂製日よけ 安全フレームに追加装着できます。	
	992338-7001	安全フレーム用日よけ(簡易型)		鉄板製枠に幌製天がい	
	990641-4001	サンバイザアッシ		安全フレーム用日よけアッシ(992338-5001)(992338-7001)に追加装着できます。	
	990619-1001	作業灯アッシ		12V27W 安全フレーム用(キャブには装着できません)	
の	963971-5101	洗車ポンプ	GL350 GL400 GL430 GL470 GL530 GL600	後部PTO軸に取付け スーパージョイント付には取付けできません。	
	99263-78001	GL-53 スイングドローバアッシ		けん引作業時に使用。	
	99263-75001	延長ヒッチアッシ		けん引作業時に使用。	
他	71067-08000	GL-43 1連補助コンアッシ	GL350 GL400 GL430		
	71067-08100	GL-43 2連補助コンアッシ			
	71067-08030	GL-53 1連補助コンアッシ	GL470 GL530 GL600		
	71067-08040	GL-53 2連補助コンアッシ			
	71067-08020	GL-43 2連目補助コンアッシ	GL350 GL400 GL430	先に1連補助コンアッシを購入して,後で2連にするときに必要。	
	71067-08050	GL-53 2連目補助コンアッシ	GL470 GL530 GL600		



インプルメント一覧表

注 意

＊三点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれがあります。

＊フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。〔詳細は購入先にご相談ください。〕

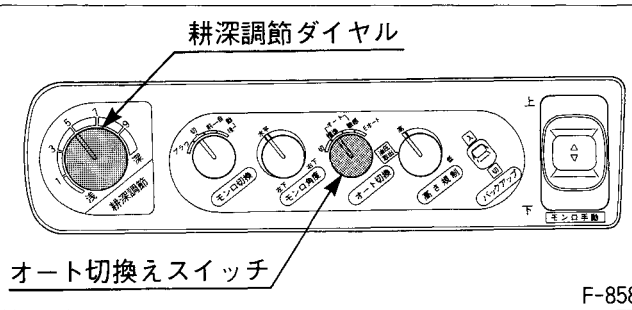
品番	品名	適用形式						メーカ
		GL350	GL400	GL430	GL470	GL530	GL600	
75833-08110	TLH43Gグレイタスローダ	○	○	○				クボタ
75833-08120	TLH43G-SLグレイタスローダ	○	○	○				
75833-08130	TLH43G-PSLグレイタスローダ	○	○	○				
75834-08190	TLH530グレイタスローダ				○	○	○	
75834-08200	TLH530-ESLグレイタスローダ				○	○	○	
75834-08210	TLH530-PSLグレイタスローダ				○	○	○	
先端アタッチメント								
75755-08060	LHH422ADヘイフォーク(タイン本数８本)	○	○	○	○	○	○	
75759-08030	LMHH422AD多本爪ヘイフォーク(タイン本数15本)	○	○	○	○	○	○	
75936-08140	CTB2535コンテナバケット	○	○	○	○	○	○	
75970-08050	LPFH422ADパレットフォーク(タイン本数２本)	○	○	○	○	○	○	
75943-08060	LGH422ADグレーダ	○	○	○	○	○	○	
75947-08030	LAGH422ADアングルグレーダ	○	○	○	○	○	○	
75986-08060	LFH422ADローディングフック	○	○	○	○	○	○	
75703-08070	CW400カウンターウェイト	○	○	○	○	○	○	
75703-08110	CWE1カウンターウェイト	○	○	○	○	○	○	
75938-08030	LSBH422AD特殊広幅バケット(容量0.22㎥)	○	○	○	○	○	○	
75939-08030	LSCBH422AD特殊広幅爪付バケット(容量0.22㎥)	○	○	○	○	○	○	
75726-08060	LBH422ADバケット(容量0.19㎥)	○	○	○	○	○	○	
75923-08060	LCBH422AD爪付バケット(容量0.19㎥)	○	○	○	○	○	○	
75933-08050	LWBH422AD広幅バケット(容量0.20㎥)	○	○	○	○	○	○	
75926-08160	LWCBH422AD広幅爪付バケット(容量0.20㎥)	○	○	○	○	○	○	
75936-08070	LWKBH422AD軽質広幅バケット(容量0.26㎥)	○	○	○	○	○	○	
75951-08030	LLBH422AD大容量バケット(容量0.5㎥)	○	○	○	○	○	○	
75933-08070	LWBH422ADZ広幅バケット亜鉛メッキ(容量0.20㎥)	○	○	○	○	○	○	
75926-08250	LWCBH422ADZ広幅爪付バケット亜鉛メッキ(容量0.20㎥)	○	○	○	○	○	○	
75927-08030	LTBH422AD溝掘バケット(容量0.07㎥)	○	○	○	○	○	○	
75928-08030	LTCBH422AD溝掘爪付バケット(容量0.07㎥)	○	○	○	○	○	○	
75937-08030	LMBH422ADマニアバケット(タイン本数８本)	○	○	○	○	○	○	
75796-08060	LMH422AD標準マニアフォーク(タイン本数６本)	○	○	○	○	○	○	
75798-08080	LWMH422AD広幅マニアフォーク(タイン本数９本)	○	○	○	○	○	○	
75799-08030	LMMH422AD多本爪マニアフォーク(タイン本数８本)	○	○	○	○	○	○	
75790-08030	LWMMH422AD広幅多本爪マニアフォーク(タイン本数13本)	○	○	○	○	○	○	

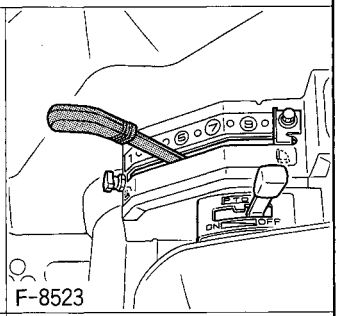
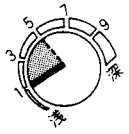
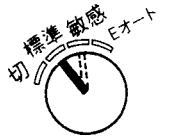
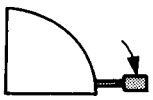
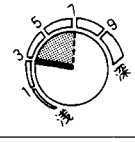
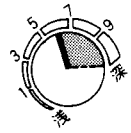
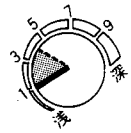
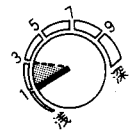
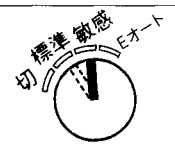
【注】

＊ESLは電磁バルブ仕様，PSLはマイコン電磁バルブ仕様です。

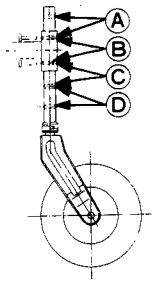
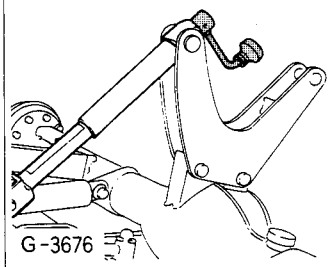
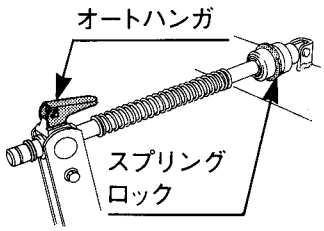
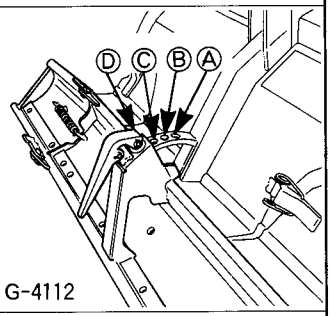
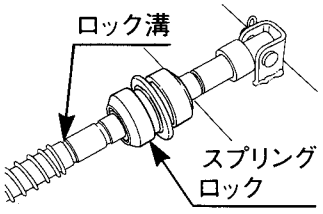
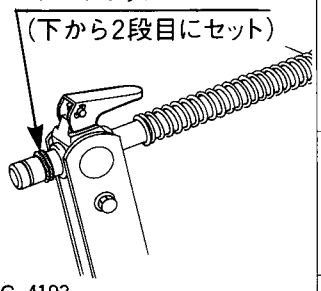
＊キャブ付トラクタにはESL，PSL型グレイタスローダを装着してください。

作業ごとの一般的な調整要領

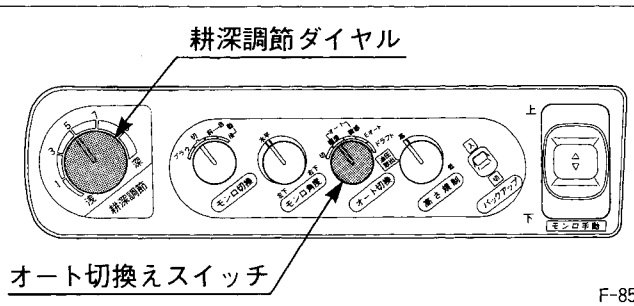
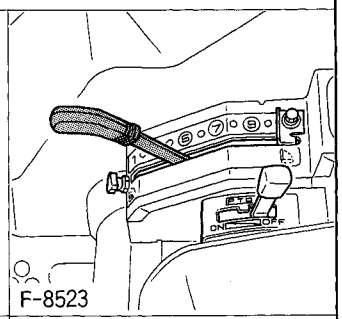
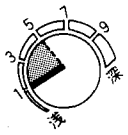
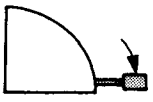
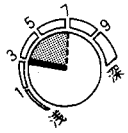
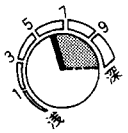
<table>
<tr><th rowspan="3" colspan="2">作業内容</th><th rowspan="3">操作方法</th><th colspan="3">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr><td colspan="2"> 

F-8584</td><td> 
F-8523</td></tr>
<tr><td>耕深調節ダイヤル</td><td>オート切換えスイッチ</td><td>油圧(ポジション)レバー</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">浅起し
(5～8cm)</td><td>オート
【MA仕様
MAD仕様】</td><td>  </td><td>  </td><td rowspan="10"> 
「最下位置」</td></tr>
<tr><td>ポジション
コントロール</td><td>——</td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">一般耕うん
(8～15cm)</td><td>オート
【MA仕様
MAD仕様】</td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>ポジション
コントロール</td><td>——</td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">深起し
(15cm以上)</td><td>オート
【MA仕様
MAD仕様】</td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>ポジション
コントロール</td><td>——</td><td> </td></tr>
<tr><td rowspan="3">代かき
(10～12cm)</td><td>一般
ほ場</td><td>オート
【MA仕様
MAD仕様】</td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>湿田
ほ場</td><td>オート
【MA仕様
MAD仕様】</td><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>一般
湿田</td><td>ポジション
コントロール</td><td>——</td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">畝立て</td><td>Eオート
ポジション
コントロール</td><td>——</td><td> </td></tr>
</table>

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
　土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

操作調整箇所			
 G-3651	 G-3676	 G-4193	 G-4112
後２輪上下調節	後２輪ハンドル	スプリングロック,オートハンガ	フラップカバー
後２輪を 外します	――	●スプリングロック 接地圧条件に合せて セット  G-4192	Ⓑ又はⓒの位置
Ⓐ又はⒷの位置	希望耕深に なるよう調整		
後２輪を 外します	――		Ⓑの位置
Ⓑの位置 （必要に応じて Ⓑ又はⓒの位置）	希望耕深に なるよう調整		
後２輪を 外します	――	●マッドレスロータリ使用時 ●ロングカット爪使用時 サークリップ （下から2段目にセット）  G-4193 ※RM9G・RM20Gには サークリップ調整はあ りません。	●荒起し ⓒの位置 ●細土耕うん Ⓐ又はⒷの位置
Ⓓの位置	希望耕深に なるよう調整		
後２輪を 外します	――		ⓒ又はⒹの位置
			Ⓓの位置
Ⓐの位置	希望耕深に なるよう調整		ⓒ又はⒹの位置
後２輪を 外します	希望耕深に なるよう調整	●カバーを上げオートハ ンガでセット	フラップカバー を外します

■オートドラフトコントロールによる作業要領【MAD仕様】

<table>
<tr><td rowspan="3">作業内容</td><td rowspan="3">操作方法</td><td colspan="3">操　作　調　整　箇　所</td></tr>
<tr><td colspan="2"> 
</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>耕深調節ダイヤル</td><td>オート切換えスイッチ</td><td>油圧(ポジション)レバー</td></tr>
<tr><td>浅起し</td><td>オート
ドラフト</td><td>  </td><td rowspan="3"> </td><td rowspan="3"> 
「最下位置」</td></tr>
<tr><td>一般耕うん</td><td>オート
ドラフト</td><td>  </td></tr>
<tr><td>深起し</td><td>オート
ドラフト</td><td>  </td></tr>
<tr><td>ミックス
コントロール
(軟弱他)</td><td>オート
ドラフト</td><td>任意の位置</td><td>作業機の最下位置を油圧(ポジション)レバーできめる。</td></tr>
</table>

※オートドラフトコントロールを使用せず**“手動”**で作業するときは，オート／ドラフト切換えスイッチを**“切”**にする。

※感度の切換えは，オート／ドラフト切換えスイッチとトップリンクホルダのトップリンク取付け位置変更の両方でできます。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年8月1日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSF43

合格番号：９５００６

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ ＧＬ４３０　クボタ ＧＬ－４３　クボタ ＧＬ３５０　クボタ ＧＬ－３５

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名		:	クボタ ＧＬ４３０	クボタ ＧＬ－３５
■種類		:	４輪駆動	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	:	1590	1545
■軸距	mm	:	1850	1850
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	:	31.6{43}/2700	25.7{35}/2700

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		:	86.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		:	122.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		:	93.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		:	－ cm
■戸口の幅	（上部）	:	－ cm
	（中部）	:	－ cm
	（下部）	:	－ cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	:	－ cm
■最低位ステップの高さ		:	45.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	:	197.0 cm
■フレームの全幅		:	106.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		:	32.5 cm

※1．クボタ ＧＬ４３０（タイヤサイズ ： 前輪 8-18　後輪 13.6-26 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：1600 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.58 kJ｛263 kgf･m｝
側部負荷　3.34 kJ｛340 kgf･m｝
■圧壊力：23.54 kN｛2400 kgf｝
2）試験後のフレームの永久変位
■後部（前方へ）：右側　11.5 cm　左側　9.0 cm
■側部（右側方へ）：14.0 cm
■上部（下方へ）：右側　4.0 cm　左側　－0.0 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差　：7.0 cm

2．騒音※
■ 92 dBA〔クボタ ＧＬ４３０〕　89 dBA〔クボタ ＧＬ－３５〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 91027）であり，装着トラクター２型式（クボタ ＧＬ４３０，クボタ ＧＬ３５０）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年8月1日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSF53

合格番号：９５００７

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ ＧＬ５３０　クボタ ＧＬ－５３　クボタ ＧＬ４７０　クボタ ＧＬ－４６
クボタ ＧＬ４００　クボタ ＧＬ－４０

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名	：	クボタ ＧＬ５３０	クボタ ＧＬ－４０
■種類	：	４輪駆動	４輪駆動
■質量（フレーム付き） kg	：	1768	1600
■軸距 mm	：	1985	1850
■機関出力/回転数 kW{PS}/rpm	：	39.0{53}/2600	29.4{40}/2600

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ	：	99.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ	：	142.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	：	96.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	：	－ cm
■戸口の幅（上部）	：	－ cm
（中部）	：	－ cm
（下部）	：	－ cm
■戸口の高さ（フートプレートから）	：	－ cm
■最低位ステップの高さ	：	49.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）	：	221.0 cm
■フレームの全幅	：	109.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	：	36.5 cm

※1．クボタ ＧＬ５３０（タイヤサイズ ： 前輪 8.3-20 後輪 12.4-32 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：1750 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.82 kJ { 287 kgf･m}
側部負荷　3.54 kJ { 361 kgf･m}
■圧壊力：25.74 kN { 2625 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後部（前方へ）：右側　15.0 cm　左側　13.0 cm
■側部（右側方へ）：14.5 cm
■上部（下方へ）：右側　0.0 cm　左側　3.5 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ：8.5 cm

2．騒音 ※
■ 90 dBA〔クボタ ＧＬ５３０〕　87 dBA〔クボタ ＧＬ－４０〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 91028）であり，装着トラクター３型式（クボタ ＧＬ５３０，クボタ ＧＬ４７０，クボタ ＧＬ４００）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年8月1日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSQ43

合格番号：９５００３

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ ＧＬ４３０　クボタ ＧＬ－４３　クボタ ＧＬ３５０　クボタ ＧＬ－３５

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名	：	クボタ ＧＬ４３０	クボタ ＧＬ－３５
■種類	：	４輪駆動	４輪駆動
■質量（キャブ付き） kg	：	1719	1655
■軸距 mm	：	1850	1850
■機関出力／回転数 kW{PS}/rpm	：	31.6{43}/2700	25.7{35}/2700

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
シートベルト（２点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	88.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	125.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		：	78.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	87.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.5 cm
	（中部）	：	79.5 cm
	（下部）	：	34.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	115.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	44.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	198.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	124.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	24.5 cm

※1．クボタ ＧＬ４３０（タイヤサイズ ： 前輪 8-18　後輪 13.6-26 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STK 400, STKR 400, SPHC, SPCC, SS 400
■装着ブラケット：SPHC, SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：1660 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.67 kJ {273 kgf･m}
側部負荷　3.42 kJ {349 kgf･m}
■圧壊力：24.42 kN {2490 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側　8.5 cm　左側　2.5 cm
■前部（後方へ）：右側　－9.0 cm　左側　－0.5 cm
■側部（右側方へ）：前側　4.0 cm　後側　12.5 cm
■上部（下方へ）：前部　右側　2.5 cm　左側　－2.0 cm
後部　右側　1.5 cm　左側　0.5 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 11.0 cm

2．騒音 ※
■ 87 dBA 〔クボタ ＧＬ４３０〕　85 dBA 〔クボタ ＧＬ－３５〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

本キャブは，既合格機（合格番号 91032）であり，装着トラクター２型式（クボタ ＧＬ４３０，クボタ ＧＬ３５０）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年8月1日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSQ530

合格番号：９５００４

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ ＧＬ５３０　　クボタ ＧＬ４７０　　クボタ ＧＬ４００

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名	クボタ ＧＬ５３０	クボタ ＧＬ４００
■種類	４輪駆動	４輪駆動
■質量（キャブ付き） kg	1965	1807
■軸距 mm	1985	1850
■機関出力/回転数 kW{PS}/rpm	39.0{53}/2600	29.4{40}/2600

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		101.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		143.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		85.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		91.0 cm
■戸口の幅	（上部）	73.0 cm
	（中部）	89.0 cm
	（下部）	34.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	135.5 cm
■最低位ステップの高さ		49.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	236.0 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	125.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		36.0 cm

※1．クボタ ＧＬ５３０（タイヤサイズ ： 前輪 8.3-20　後輪 12.4-32 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，NS4850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400, STK 400, SS 400, SPHC, SPCC
■装着ブラケット：SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：1970 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　3.17 kJ { 323 kgf･m}
側部負荷　3.85 kJ { 392 kgf･m}
■圧壊力：28.98 kN { 2955 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側　12.0 cm　左側　3.5 cm
■前部（後方へ）：右側　－13.0 cm　左側　0.0 cm
■側部（右側方へ）：前側　10.5 cm　後側　24.5 cm
■上部（下方へ）：前部 右側　5.0 cm　左側　0.0 cm
後部 右側　7.5 cm　左側　5.5 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 11.5 cm

2．騒音※
■ 85 dBA〔クボタ ＧＬ５３０〕　　84 dBA〔クボタ ＧＬ４００〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年8月1日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSQ600

合格番号：９５００５

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ ＧＬ６００

2．主要諸元

■型式名		：	クボタ ＧＬ６００
■種類		：	４輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	1983
■軸距	mm	：	2015
■機関出力/回転数	kW{PS}/rpm	：	44.1{60}/2800

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	101.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	144.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		：	84.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	91.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	73.0 cm
	（中部）	：	88.0 cm
	（下部）	：	34.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	135.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	49.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	236.0 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	125.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	35.5 cm

※1．クボタ ＧＬ６００（タイヤサイズ ： 前輪 8.3-20　後輪 12.4-32 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400, STK 400, SS 400, SPHC, SPCC
■装着ブラケット：SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：1990 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　3.20 kJ｛327 kgf･m｝
側部負荷　3.87 kJ｛395 kgf･m｝
■圧壊力：29.27 kN｛2985 kgf｝
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側　12.0 cm　左側　4.0 cm
■前部（後方へ）：右側　−13.0 cm　左側　0.0 cm
■側部（右側方へ）：前側　9.0 cm　後側　21.5 cm
■上部（下方へ）：前部 右側　3.0 cm　左側　−0.5 cm
後部 右側　6.5 cm　左側　3.5 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 11.5 cm

2．騒音※
■ 86 dBA〔クボタ ＧＬ６００〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	95050	型式名	クボタGL350	平成8年1月9日
		依頼者名	株式会社　クボタ	生物系特定産業技術
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	研究推進機構

■4輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：25.7kW｛35PS｝／2700rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF43
（合格番号：95006）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.50m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.48m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.14m
■全高：1.98m（安全フレーム）
■質量：1573kg（付加重錘なし）
前輪737kg　後輪836kg
■軸距：1.85m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.14，1.21，1.31，1.33，1.43，1.51，1.60m　（7段階）
■タイヤ：前輪8-18-4PR
後輪12.4-28-4PR
■PTO軸高さ：0.53m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
■呼称出力：25.7kW｛35PS｝／2700rpm
■総行程容積：1.499ℓ
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：あり

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～13.7km／h）
■後進：16段（0.2～13.2km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転578，781，950，1249rpm
逆転781rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

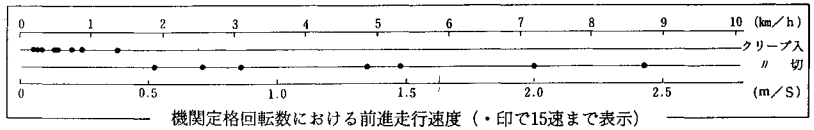
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1/4，1個　M22，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF43
（合格番号：95006）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で15速まで表示）

II　検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.16
■弾　性　値：1.54
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
25.1kW｛34.1PS｝	284g／kW・h｛209g／PSh｝	514rpm	3％

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	10.85kN｛1106kgf｝	6.94kW｛9.44PS｝	2.30km／h（10速）
7.5km／hに最も近い速度段	10.94kN｛1116kgf｝	18.4kW｛25.0PS｝	6.05km／h（14速）
最大けん引出力	8.77kN｛894kgf｝	19.3kW｛26.2PS｝	7.91km／h（15速）

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa｛168kgf／cm²｝
■油圧ポンプ性能：

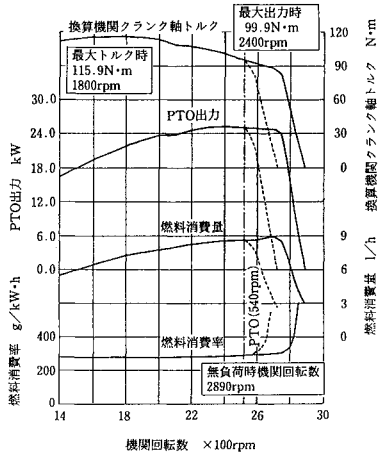
条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	25.7ℓ／min	15.2MPa｛155kgf／cm²｝	6.51kW｛8.85PS｝
リリーフ弁設定圧力の90％	25.9ℓ／min	14.8MPa｛151kgf／cm²｝	6.39kW｛8.69PS｝

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	12.16kN｛1240kgf｝
フレーム上	10.40kN｛1060kgf｝

4．騒音（運転者の耳もと）：88dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.50m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

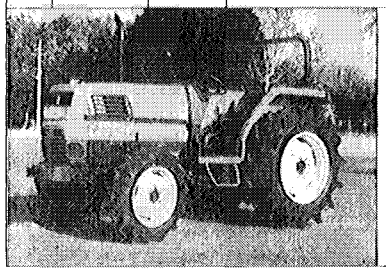
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	95052	型式名	クボタGL430	平成8年1月9日 生物系特定産業技術研究推進機構
		依頼者名	株式会社 クボタ	
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	



■4輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：31.6kW {43PS}／2700rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF43
（合格番号：95006）

I 主要諸元・構造

1．機体の大きさ
■全長：3.50m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.48m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.14m
■全高：1.98m（安全フレーム）
■質量：1578kg（付加重錘なし）
前輪742kg　後輪836kg
■軸距：1.85m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.14，1.21，1.24，1.41，1.43，1.50，1.53m　（7段階）
■タイヤ：前輪 8-18-4 PR
後輪13.6-26-4 PR
■PTO軸高さ：0.53m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機関
■種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
■呼称出力：31.6kW {43PS}／2700rpm
■総行程容積：1.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：あり

3．伝動装置
■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～13.7km／h）
■後進：16段（0.2～13.2km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

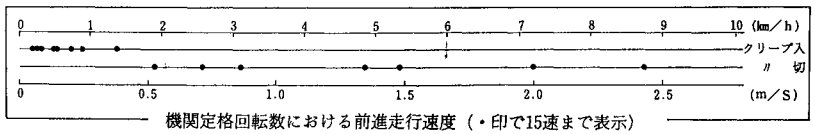
4．PTO
■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転578，781，950，1249rpm
逆転781rpm

5．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1/4，1個　M22，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置
■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF43
（合格番号：95006）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で15速まで表示）

II 検査成績

1．PTO性能
■トルクバックアップ比：1.21
■弾性値：1.79
■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
27.9kW {37.9PS}	283g／kW・h {208g／PSh}	540rpm	2％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	11.75kN {1198kgf}	5.57kW {7.57PS}	1.71km／h （9速）
7.5km／hに最も近い速度段	11.75kN {1198kgf}	20.3kW {27.6PS}	6.21km／h （14速）
最大けん引出力	6.88kN {702kgf}	22.5kW {30.6PS}	11.75km／h （16速）

3．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

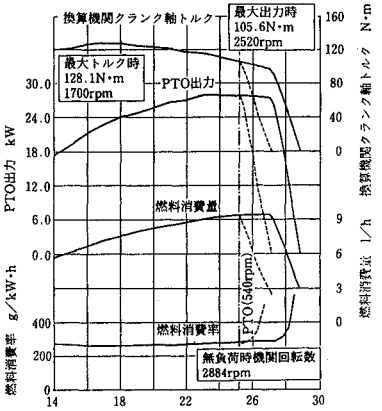
条件	流量	圧力	出力
最大出力	25.7 l／min	15.2MPa {155kgf／cm²}	6.51kW {8.85PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	25.9 l／min	14.8MPa {151kgf／cm²}	6.39kW {8.69PS}

■揚力：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	12.16kN {1240kgf}
フレーム上	10.40kN {1060kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：89dB(A)

5．静的横転倒角：38°



※ 調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置
図 PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.52m

7．安全装備
可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他
旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III 付記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	95051	型式名	クボタGL400	平成8年1月19日 生物系特定産業技術研究推進機構
		依頼者名	株式会社 クボタ	
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：29.4kW {40PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF53
（合格番号：95007）

I 主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.50m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.55m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.22m
■全高：2.20m（安全フレーム）
■質量：1600kg（付加重錘なし）
前輪746kg　後輪854kg
■軸距：1.85m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.15，1.22，1.32，1.34，1.44，1.52，1.61m　（7段階）
■タイヤ：前輪 8-18-4 PR
後輪12.4-28-4 PR
■PTO軸高さ：0.53m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
■呼称出力：29.4kW {40PS}／2600rpm
■総行程容積：2.197 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～24.2km／h）
■後進：16段（0.2～19.3km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）
正転585，789，961，1263rpm
逆転789rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

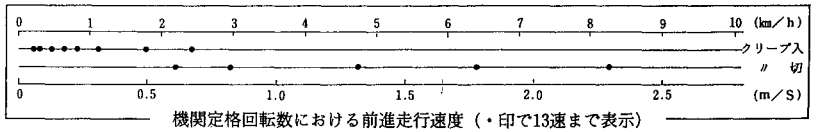
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1/4，1個　M22，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF53
（合格番号：95007）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）

II 検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.28
■弾　性　値：2.14
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
26.5kW {36.0PS}	292g／kW・h {215g／PSh}	563rpm	1％

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	10.97kN {1119kgf}	8.22kW {11.2PS}	2.70km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	10.12kN {1032kgf}	21.0kW {28.6PS}	7.45km／h (13速)
最大けん引出力	7.38kN {753kgf}	21.5kW {29.2PS}	10.49km／h (14速)

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

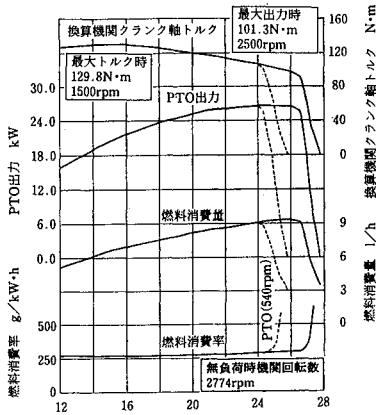
条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	24.8 l／min	14.0MPa {143kgf/cm²}	5.80kW {7.88PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	19.7 l／min	14.8MPa {151kgf/cm²}	4.86kW {6.61PS}

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	12.16kN {1240kgf}
フレーム上	10.40kN {1060kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：87.5dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※ 調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.51m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

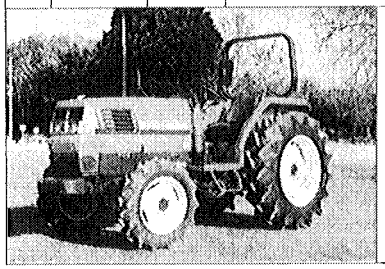
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III 付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	95053	型式名	クボタGL470	平成8年1月9日
		依頼者名	株式会社　クボタ	生物系特定産業技術研究推進機構
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	



■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：34.6kW｛47PS｝／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF53
（合格番号：95007）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.63m（バンパー～下部リンク後端）
■全幅：1.56m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.22m
■全高：2.20m（安全フレーム）
■質量：1687kg（付加重錘なし）
前輪789kg　後輪898kg
■軸距：1.99m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.15，1.22，1.32，1.34，1.44，1.52，1.61m　（7段階）
■タイヤ：前輪 8-18-4 PR
後輪13.6-28-4 PR
■PTO軸高さ：0.56m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
■呼称出力：34.6kW｛47PS｝／2600rpm
■総行程容積：2.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～25.4km／h）
■後進：16段（0.2～20.3km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転585，789，961，1263rpm
逆転789rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

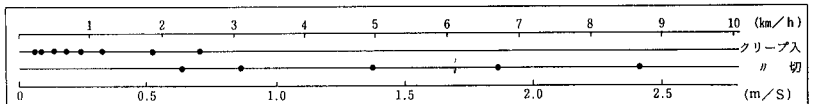
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1/4，1個　M22，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF53
（合格番号：95007）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）

II　検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.29
■弾　性　値：2.23
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
31.1kW｛42.3PS｝	292g／kW・h｛215g／PSh｝	585rpm	2％

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	13.72kN｛1399kgf｝	7.71kW｛10.5PS｝	2.02km／h（8速）
7.5km／hに最も近い速度段	13.92kN｛1419kgf｝	22.4kW｛30.5PS｝	5.79km／h（12速）
最大けん引出力	8.79kN｛896kgf｝	26.4kW｛35.9PS｝	10.83km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa｛168kgf／cm²｝
■油圧ポンプ性能：

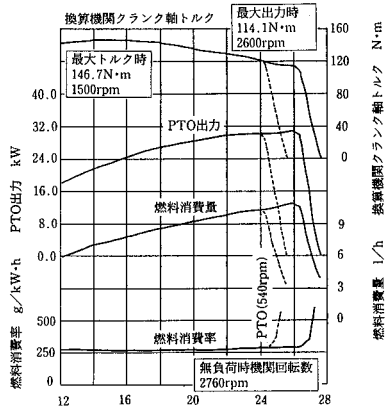
条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	24.8 l／min	14.0MPa｛143kgf/cm²｝	5.80kW｛7.88PS｝
リリーフ弁設定圧力の90％	19.7 l／min	14.8MPa｛151kgf/cm²｝	4.86kW｛6.61PS｝

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	12.75kN｛1300kgf｝
フレーム上	10.93kN｛1115kgf｝

4．騒音（運転者の耳もと）：88.5dB(A)

5．静的横転倒角：40°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.68m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	型式名	クボタGL530	平成5年1月9日
95054	依頼者名	株式会社　クボタ	生物系特定産業技術研究推進機構
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：39.0kW {53PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF53
（合格番号：95007）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.63m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.51m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.23m
試験時の後輪輪距1.18m
■全高：2.23m（安全フレーム）
■質量：1760kg（付加重錘なし）
前輪800kg　後輪960kg
■軸距：1.99m
■輪距：前輪1.23m（固定）
後輪1.18，1.27，1.37，1.47，1.57m
（5段階）
■タイヤ：前輪8.3-20-4PR
後輪12.4-32-4PR
■PTO軸高さ：0.58m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
■呼称出力：39.0kW {53PS}／2600rpm
■総行程容積：2.746 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～23.8km／h）
■後進：16段（0.2～19.0km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転585，789，961，1263rpm
逆転789rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

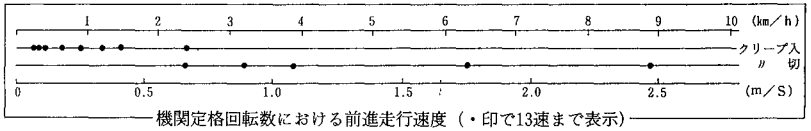
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1/4，1個　M22，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF53
（合格番号：95007）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）

II　検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.27
■弾　性　値：2.17
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
34.0kW {46.2PS}	304g／kW・h {226g／PSh}	576rpm	4％

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	13.52kN {1379kgf}	8.08kW {11.0PS}	2.15km／h（8速）
7.5km／hに最も近い速度段	13.38kN {1364kgf}	22.6kW {30.7PS}	6.09km／h（12速）
最大けん引出力	9.16kN {934kgf}	28.6kW {38.9PS}	11.24km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

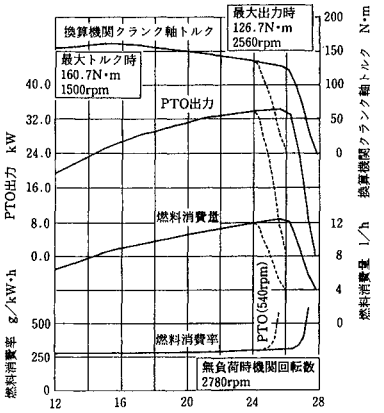
条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	24.8 l／min	14.0MPa {143kgf／cm²}	5.80kW {7.88PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	19.7 l／min	14.8MPa {151kgf／cm²}	4.86kW {6.61PS}

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	12.75kN {1300kgf}
フレーム上	10.93kN {1115kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：88dB(A)

5．静的横転倒角：37°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.72m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

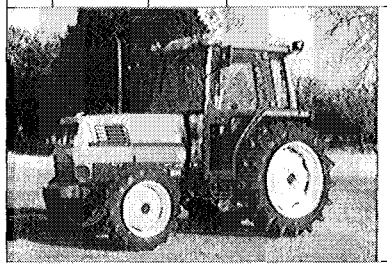
III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	95055	型式名	クボタGL600
		依頼者名	株式会社　クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

平成5年度 生物系特定産業技術研究推進機構



- 4輪駆動
- 大型特殊自動車
- 機関呼称出力：44.1kW {60PS}／2800rpm
- 走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
- クリープ変速付き
- PTO変速段数：正4段　逆1段
- パワーステアリング付き
- 旋回時前輪増速機構付き
- 水平・耕深制御装置付き
- 装着安全キャブ：型式名　クボタGSQ600（合格番号：95005）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

- 全長：3.63m（バンパ～下部リンク後端）
- 全幅：1.51m（後輪最外側）
  試験時の前輪輪距1.23m
  試験時の後輪輪距1.18m
- 全高：2.36m（安全フレーム）
- 質量：1989kg（付加重錘なし）
  前輪874kg　後輪1115kg
- 軸距：2.02m
- 輪距：前輪1.23m（固定）
  後輪1.18，1.27，1.37，1.47，1.57m（5段階）
- タイヤ：前輪8.3-20-4PR
  後輪12.4-32-4PR
- PTO軸高さ：0.58m
- PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

- 種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- 呼称出力：44.1kW {60PS}／2800rpm
- 総行程容積：2.746 l
- 燃焼室形式：渦流室式
- 過給機：なし

3．伝動装置

- 主クラッチ形式：湿式多板
- 主変速：8段
- 副変速：2段
- 前進：16段（0.2～24.4km／h）
- 後進：16段（0.2～20.4km／h）
- デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

- クラッチ形式：普通型
- 規　格：6スプライン軸径35mm
- 回転数（機関定格回転数のとき）：
  正転588，794，966，1270rpm
  逆転794rpm

5．けん引装置

- 形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

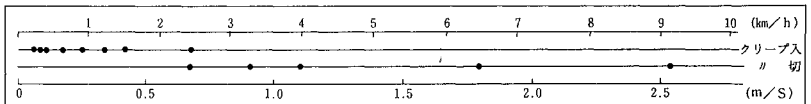
- 制御方式：ポジションコントロール
- 油圧外部取出口：PF1/4，1個　M22，1個
- 作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

- 形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全キャブ

- 型式名：クボタGSQ600（合格番号：95005）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）

II　検　査　成　績

1．PTO性能

- トルクバックアップ比：1.27
- 弾　性　値：2.08
- 最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
38.0kW {51.7PS}	308g／kW・h {227g／PSh}	584rpm	8％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	15.54kN {1585kgf}	9.40kW {12.8PS}	2.18km／h（8速）
7.5km／hに最も近い速度段	15.59kN {1590kgf}	24.7kW {33.6PS}	5.70km／h（12速）
最大けん引出力	9.60kN {979kgf}	31.1kW {42.3PS}	11.67km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力：16.2MPa {165kgf／cm²}
- 油圧ポンプ性能：

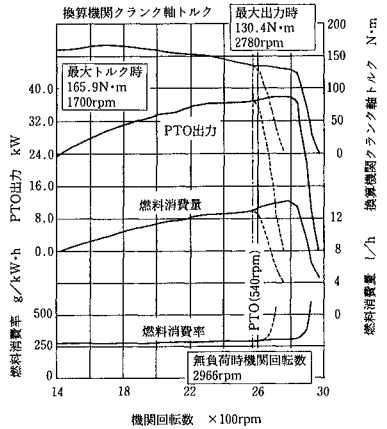
条件	流量	圧力	出力
最大出力	24.4 l／min	13.2MPa {135kgf/cm²}	5.38kW {7.32PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	15.5 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	3.77kW {5.13PS}

- 揚力：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	12.75kN {1300kgf}
フレーム上	10.93kN {1115kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：85.5dB(A)

5．静的横転倒角：35°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.78m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第III類に属するものである。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-24	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-24	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　T0180—1921—7

Kubota